

# 明治学院広報

## 2013年度 事業報告書

---



「繋げ、150年の精神、継げ、先人たちの思いを」

学校法人 明治学院

---



## 2013年度を振り返って

学校法人 明治学院  
理事長 青本 健作

明治学院は、米国人宣教師ヘボン博士が1863年に横浜の自宅に開設したヘボン塾を源流とする、わが国の私立学校の中でも最も長い歴史を有する学校の一つでもあります。お蔭様で本年2013年には創立150周年を迎え、学生・生徒から募集した創立150周年記念キャッチフレーズ「繋げ、150年の精神、継げ、先人たちの思いを」を合言葉に、創立以来引き継がれてきた建学の精神を繋げてきました。またこの機に『明治学院百五十年史』を刊行できましたことは大きな喜びでした。この間、キリスト教に基づく人格教育という建学の精神を堅持しつつ、1中学校、2高校、1大学（6学部および法科大学院を含む研究科）から成る総合的な学園に発展し、2013年度には14,351名（2013年5月1日現在）を数える生徒・学生を擁し、明治学院として目指すべき教育・研究の向上に努めてきたところです。

さて2013年度全体を通じての学院の歩みを振り返ってみますと、明治学院で行われた教育・研究に対する社会からの期待度が確実に向上していると感じることができました。具体的な成果の一部を挙げますと、大学におきましては、①入学試験の改革（指定校推薦校の見直し、インターネット出願の導入、地方入試の開始）に伴い志願者数が増加したこと②海外協定校の増加等による国際交流の充実と語学教育の強化が行われてきたこと③大学基準協会の認証評価（「適合」）の内容を活かす取り組みを継続して実施してきた結果、教育方法、教育成果、学生支援の項目に関する改善状況が協議され、特に教育方法の改善に向けて大きな前進があったこと④ボランティア活動において、震災被災地支援に重点を置いた学生の活発なボランティア活動の取り組みを行い、また創立150年を同じくする日本赤十字社とのボランティア活動連携を宣言することになったこと⑤科学研究費補助金の対象となる多くの研究活動が活発に行われたことなどがありました。

また、中学・高校・大学一貫教育体制の強化として、特に「英語の明治学院」に相応しい英語教育の強化と大学入学前教育（「J.C.バラ・プログラム」）にも積極的に取り組んできました。さらに明治学院高校では「高等学校将来構想（アカデミックプラン）の提言」の具体化、明治学院中学・東村山高校では中・高6年間を通しての「学習プログラム」が着実に定着・進展していることも、大きな意義を有する動きであったと言えます。

また学校法人に関しても、2013年度には特筆すべきことがありました。

第一点は、明治学院創立150周年記念事業実施本部のもとに、具体的な事業プランに沿っての取り組みが行なわれました。併せて2010年から開始した記念募金においても、2013年度末には720百万円の応募をいただくことができ、希望の方にはヘボン博士が編纂した英和・和英辞書「和英語林集成」復刻版を贈呈しました。また2012年度から開始した創立150周年記念特別講演会「激動の世界における日本の転換点」を延べ13回開催するなど、様々な記念行事が行われ、特に、「日本近代音楽の150年展」「宣教医ヘボン展」「学生生徒による演奏会」「明治学院大学対東京大学野球試合」等はオール明治学院生が参加した記念すべきイベントとなりました。

第二点は、明治学院の教育の指針の徹底を図るため、「明治学院一貫教育宣言」に基づく、独自性と魅力に満ちた明治学院づくりのための一貫教育指針の具体化を進めてまいりました。2013年度には、「つなぎプロジェクト」と称して中学・高校・大学のキリスト教一貫教育実現の場作りを活発化させました。なお前年度から始まったキリスト教教師子弟の学習支援のための「明治学院ぶどうの木奨学金」を、2013年度は7名の学生が受給することでき、建学の精神を伝える者としての役割が期待されています。

第三点は、「東日本大震災」を教訓として、明治学院の各学校において、各校との連携を強化するとともに、防災関連マニュアルのさらなる整備、防災備蓄品の補填・整備、防災教育・訓練の強化等、様々な対応策を講じて実行に移してきました。

第四点は学院財政が健全に運営され、財政基盤が着実に強化されつつあることです。各学校においても中・長期的観点からの施設・設備投資が行われましたが、一方で、収入確保や経費節減のために努力を重ね、さらに長期借入金の返済が計画通りに進捗したことにより利払いの負担が軽減された結果、学院財政が一層健全化しました。また資産運用収入の増加と支出項目の見直しにより、帰属収入消費支出差額が帰属収入の10%以上を計上するなど、学院が目指す中・長期財政計画を達成することができました。

本年度中にいただきました学外の方々からの暖かいご支援と教職員のご努力に改めて深く感謝申し上げますと共に、引き続き絶大なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 目 次

## 第1章 学校法人明治学院の概要

|                                           |   |
|-------------------------------------------|---|
| 1 明治学院の建学の精神と沿革                           | 1 |
| 2 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・<br>入学者数・収容定員・現員 | 2 |
| 3 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積                 | 3 |
| 4 学生・生徒等納付金                               | 4 |
| 5 設置する学校の役員数・教職員数                         | 5 |

## 第2章 2013年度事業の概要

|                  |    |
|------------------|----|
| 1 法 人            |    |
| (1) 事業計画         | 6  |
| (2) 事業計画の進捗状況    | 7  |
| 2 明治学院大学・大学院     |    |
| (1) 事業計画         | 12 |
| (2) 事業計画の進捗状況    | 12 |
| (3) 教育研究の概要      | 25 |
| (4) 管理運営の概要      | 36 |
| 3 明治学院高等学校       |    |
| (1) 事業計画         | 37 |
| (2) 事業計画の進捗状況    | 38 |
| 4 明治学院中学・東村山高等学校 |    |
| (1) 事業計画         | 43 |
| (2) 事業計画の進捗状況    | 43 |

## 第3章 2013年度財務の概要と経年比較（2009年度～2013年度）

|              |    |
|--------------|----|
| 1 財産目録       | 50 |
| 2 貸借対照表      | 51 |
| 3 資金収支計算書    | 52 |
| 4 消費収支計算書    | 53 |
| 5 収支・借入金等図表  | 54 |
| 6 財務比率検証     | 56 |
| 7 監事による監査報告書 | 57 |

## 第1章 学校法人明治学院の概要

### 1 明治学院の建学の精神と沿革

#### (1) 明治学院の建学の精神

学校法人明治学院の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、福音主義のキリスト教に基づいて、教育事業を経営することを目的とする」(第3条第1項)と定められています。この法人の起源は、1863(文久3)年に米国医療宣教師J.C.Hepburnの横浜の住居に開設された「ヘボン塾」にあり、今日の1中学・2高校・大学(6学部 15学科)・大学院(7研究科 11専攻)を擁する総合的な学園にまで発展してきた150年の歩みを一貫して、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神を堅持しつつ、わが国教育界に独自の寄与を果たしてきています。

#### (2) 明治学院の沿革

|      |      |                                                                               |
|------|------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1859 | 安政6  | ・10月 J.C.ヘボン神奈川到着、成仏寺に住まう                                                     |
| 1863 | 文久3  | ・ヘボン横浜で英学塾を開設(ヘボン塾)                                                           |
| 1877 | 明治10 | ・米国長老教会などの三ミッションは一致合同して東京一致神学校を創立                                             |
| 1880 | 明治13 | ・4月 ヘボン塾は築地明石町7番に移転し築地大学校と改称、J.C.バラ校長となる                                      |
| 1881 | 明治14 | ・M.N.ワイコフ横浜に先志学校を開く                                                           |
| 1883 | 明治16 | ・バラの築地大学校とワイコフの先志学校は合併して東京一致英和学校となる                                           |
| 1886 | 明治19 | ・4月 東京一致神学校・東京一致英和学校・同予備校の三校合併案成る<br>・6月 明治学院の名称決定・白金(現在地)に校地購入               |
| 1887 | 明治20 | ・1月 明治学院設置認可・校地を白金に移す                                                         |
| 1889 | 明治22 | ・10月 ヘボン、明治学院初代総理に、井深梶之助副総理に就任                                                |
| 1890 | 明治23 | ・5月 インブリー事件(明治学院と一高との野球試合の際の事件)起こる                                            |
| 1891 | 明治24 | ・11月 井深梶之助第2代総理に就任                                                            |
| 1898 | 明治31 | ・6月 普通学部を尋常中学部とする                                                             |
| 1899 | 明治32 | ・8月 文部省訓令第12号が公布され学校内の宗教教育・儀式が禁止された。学院は臨時理事会を開き、宗教教育を維持するため他の基督教主義学校と共に文部省に交渉 |
| 1907 | 明治40 | ・島崎藤村作詞による校歌を制定(作曲 前田久八)                                                      |
| 1911 | 明治44 | ・9月 ヘボン博士米国イースト・オレンジにて逝去                                                      |
| 1916 | 大正5  | ・3月 ヴォーリズ建築設計事務所設計による新礼拝堂献堂式挙行                                                |
| 1925 | 大正14 | ・4月 田川大吉郎第3代総理に就任                                                             |
| 1930 | 昭和5  | ・神学部は学院から分離し、東京神神社と合併して日本神学校設立                                                |
| 1935 | 昭和10 | ・7月 総理を学院長と改称                                                                 |
| 1937 | 昭和12 | ・11月 島崎藤村自筆校歌碑建設                                                              |
| 1949 | 昭和24 | ・明治学院大学設置認可・4月 大学文経学部開校                                                       |
| 1951 | 昭和26 | ・3月 財団法人から学校法人に組織変更認可                                                         |
| 1952 | 昭和27 | ・4月 中高分離・大学は文学部、経済学部の二学部に分離                                                   |
| 1955 | 昭和30 | ・大学院文学研究科英文学専攻修士課程設置・東村山に校地購入                                                 |
| 1962 | 昭和37 | ・4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程開設                                                       |
| 1963 | 昭和38 | ・4月 東村山高等学校開校                                                                 |
| 1965 | 昭和40 | ・3月 中学講堂落成・4月 社会学部独立                                                          |
| 1966 | 昭和41 | ・2月 白金チャペルにパイプオルガン設置・4月 中学、東村山に移転。大学法学部設置                                     |
| 1968 | 昭和43 | ・10月 大学で立看板撤去破壊事件起る(学園紛争の発端)                                                  |
| 1977 | 昭和52 | ・『明治学院百年史』を刊行                                                                 |
| 1985 | 昭和60 | ・横浜校舎開校                                                                       |
| 1986 | 昭和61 | ・国際学部／国際学科設置                                                                  |
| 1989 | 平成1  | ・5月 テネシー明治学院高等部開校                                                             |
| 1990 | 平成2  | ・文学部／芸術学科・心理学科、法学部／政治学科設置                                                     |
| 1991 | 平成3  | ・高校、中学・東村山高校が男女共学に移行                                                          |
| 1996 | 平成8  | ・経済学部／経営学科(商学科を改称)設置                                                          |
| 1998 | 平成10 | ・1月 株式会社明治学院サービス設立・中学・東村山高校の新校舎完成                                             |
| 2000 | 平成12 | ・法学部／消費情報環境法学科設置                                                              |
| 2002 | 平成14 | ・大学教養教育センター発足                                                                 |
| 2004 | 平成16 | ・心理学部／心理学科、法科大学院設置                                                            |
| 2005 | 平成17 | ・横浜校舎開校20周年記念式典                                                               |
| 2006 | 平成18 | ・経済学部／国際経営学科設置                                                                |
| 2007 | 平成19 | ・芝浦工業大学と明治学院大学との交流・連携事業が開始・3月 テネシー明治学院高等部閉校                                   |
| 2008 | 平成20 | ・2月 礼拝堂の耐震補強と復元・改修工事が完成・3月 大学女子学生寮「セベレンス館」入寮開始                                |
| 2009 | 平成21 | ・3月 大学高輪校舎の献堂式・7月「日本近代音楽館」からの資料寄贈に関する合意書取り交し<br>・10月 新パイプオルガン奉献式(白金チャペル)      |
| 2010 | 平成22 | ・心理学部／教育発達学科設置                                                                |
| 2011 | 平成23 | ・国際学部／国際キャリア学科設置・5月 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館開館                                      |
| 2012 | 平成24 | ・3月 大学13号館の献堂式・法科大学院の2013年度以降の学生募集停止を決定                                       |
| 2013 | 平成25 | ・12月 創立150周年記念礼拝・『明治学院百五十年史』を刊行                                               |

## 2 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(2013年5月1日現在)

|                  |     |                                     |
|------------------|-----|-------------------------------------|
| 学校名(所在地)         | 大学院 | 文学研究科 経済学研究科 社会学研究科                 |
| 明治学院大学           |     | 法学研究科 心理学研究科 法務職研究科                 |
| (東京都港区白金台)       | 学 部 | 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の3・4年次課程      |
| (神奈川県横浜市戸塚区上倉田町) | 大学院 | 国際学研究科                              |
| 学 部              |     | 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の1・2年次課程 国際学部 |

| 専攻・学部・学科等名        | 開設年度 | 入学定員       | 入学者数      | 収容定員       | 現 員        |
|-------------------|------|------------|-----------|------------|------------|
| 大学院               |      |            |           |            |            |
| 文学研究科             |      | <b>44</b>  | <b>24</b> | <b>100</b> | <b>57</b>  |
| 英文学専攻 博士(前期)課程    | 1955 | 12         | 5         | 24         | 10         |
| 英文学専攻 博士(後期)課程    | 1962 | 2          | 3         | 6          | 5          |
| フランス文学専攻 博士(前期)課程 | 2000 | 10         | 4         | 20         | 12         |
| フランス文学専攻 博士(後期)課程 | 2003 | 5          | 2         | 15         | 7          |
| 芸術学専攻 博士(前期)課程    | 2001 | 10         | 6         | 20         | 13         |
| 芸術学専攻 博士(後期)課程    | 2003 | 5          | 4         | 15         | 10         |
| 経済学研究科            |      | <b>26</b>  | <b>8</b>  | <b>58</b>  | <b>10</b>  |
| 経済学専攻 博士(前期)課程    | 1960 | 10         | 4         | 20         | 4          |
| 経済学専攻 博士(後期)課程    | 1989 | 3          | 0         | 9          | 0          |
| 経営学専攻 博士(前期)課程    | 1970 | 10         | 3         | 20         | 4          |
| 経営学専攻 博士(後期)課程    | 1989 | 3          | 1         | 9          | 2          |
| 社会学研究科            |      | <b>25</b>  | <b>4</b>  | <b>55</b>  | <b>31</b>  |
| 社会学専攻 博士(前期)課程    | 1967 | 10         | 3         | 20         | 7          |
| 社会学専攻 博士(後期)課程    | 2006 | 2          | 0         | 6          | 4          |
| 社会福祉学専攻 博士(前期)課程  | 1960 | 10         | 1         | 20         | 7          |
| 社会福祉学専攻 博士(後期)課程  | 2006 | 3          | 0         | 9          | 13         |
| 法学研究科             |      | <b>5</b>   | <b>0</b>  | <b>15</b>  | <b>1</b>   |
| 法律学専攻 博士(後期)課程    | 1972 | 5          | 0         | 15         | 1          |
| 国際学研究科            |      | <b>12</b>  | <b>1</b>  | <b>27</b>  | <b>8</b>   |
| 国際学専攻 博士(前期)課程    | 1990 | 10         | 0         | 20         | 6          |
| 国際学専攻 博士(後期)課程    | 1992 | 2          | 1         | 7          | 2          |
| 心理学研究科            |      | <b>34</b>  | <b>20</b> | <b>72</b>  | <b>49</b>  |
| 心理学専攻 博士(前期)課程    | 2004 | 30         | 19        | 60         | 41         |
| 心理学専攻 博士(後期)課程    | 2007 | 4          | 1         | 12         | 8          |
| 小 計               |      | <b>146</b> | <b>57</b> | <b>327</b> | <b>156</b> |
| 法務職研究科※           |      | <b>0</b>   | <b>0</b>  | <b>100</b> | <b>60</b>  |
| 法務専攻 専門職学位課程      | 2004 | 0          | 0         | 100        | 60         |
| ※2013年度学生募集停止     |      |            |           |            |            |
| 大 学 院 計           |      | <b>146</b> | <b>57</b> | <b>427</b> | <b>216</b> |

| 専攻・学部・学科等名 | 開設年度 | 入学定員  | 入学者数  | 収容定員   | 現 員    |
|------------|------|-------|-------|--------|--------|
| 学 部        |      |       |       |        |        |
| 文学部        | 1949 | 445   | 503   | 1,780  | 2,062  |
| 英文学科       | 1949 | 200   | 224   | 800    | 908    |
| フランス文学科    | 1965 | 105   | 116   | 450    | 512    |
| 芸術学科       | 1990 | 140   | 163   | 530    | 642    |
| 経済学部       | 1949 | 610   | 675   | 2,440  | 2,750  |
| 経済学科       | 1949 | 290   | 320   | 1,160  | 1,295  |
| 経営学科       | 1952 | 180   | 203   | 720    | 820    |
| 国際経営学科     | 2006 | 140   | 152   | 560    | 635    |
| 社会学部       | 1949 | 470   | 511   | 1,880  | 2,117  |
| 社会学科       | 1949 | 230   | 240   | 920    | 1,036  |
| 社会福祉学科     | 1965 | 240   | 271   | 960    | 1,081  |
| 法学部        | 1966 | 575   | 641   | 2,300  | 2,649  |
| 法律学科       | 1966 | 280   | 326   | 1,120  | 1,301  |
| 消費情報環境法学科  | 2000 | 175   | 189   | 700    | 792    |
| 政治学科       | 1990 | 120   | 126   | 480    | 556    |
| 国際学部       | 1986 | 270   | 304   | 1,080  | 1,302  |
| 国際学科       | 1986 | 220   | 251   | 930    | 1,156  |
| 国際キャリア学科   | 2011 | 50    | 53    | 150    | 146    |
| 心理学部       | 2004 | 260   | 281   | 1,040  | 1,118  |
| 心理学科       | 2004 | 160   | 175   | 640    | 718    |
| 教育発達学科     | 2010 | 100   | 106   | 400    | 400    |
| 学 部 計      |      | 2,630 | 2,915 | 10,520 | 11,998 |

| 学 校 名                        |       | 開設年度 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員  | 現 員 |
|------------------------------|-------|------|------|------|-------|-----|
| 明治学院高等学校<br>(東京都港区白金台)       | 全日制課程 | 1948 | 333  | 326  | 1,000 | 951 |
| 明治学院東村山高等学校<br>(東京都東村山市富士見町) | 全日制課程 | 1963 | 240  | 245  | 720   | 756 |
| 明治学院中学校<br>(東京都東村山市富士見町)     |       | 1947 | 140  | 144  | 420   | 430 |

### 3 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位：㎡)

|          | 所 在 地          | 使用部門         | キャンパス面積 | 校舎面積   |
|----------|----------------|--------------|---------|--------|
| 白金キャンパス  | 東京都港区白金台       | 大学院・大学・高校・法人 | 39,383  | 75,370 |
| 横浜キャンパス  | 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 | 大学院・大学       | 199,232 | 51,141 |
| 東村山キャンパス | 東京都東村山市富士見町    | 中学・東村山高校     | 56,200  | 16,700 |
| 戸塚グラウンド  | 神奈川県横浜市戸塚区俣野町  | 大学院・大学       | 48,872  | 2,039  |

(2014年3月31日現在)

#### 4 学生・生徒等納付金

＜大学学部（年額）＞

（単位：円）

| 学 科        | 1年次       | 2年次       | 3年次       | 4年次       |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|            | 2013年度生   | 2012年度生   | 2011年度生   | 2010年度生   |
| 英文         | 1,217,220 | 976,100   | 976,100   | 1,016,100 |
| フランス文      | 1,234,730 | 976,600   | 976,600   | 1,016,600 |
| 芸術         | 1,337,730 | 1,072,100 | 1,072,100 | 1,112,100 |
| 経済、経営      | 1,221,230 | 976,100   | 976,100   | 1,016,100 |
| 国際経営       | 1,231,230 | 986,100   | 986,100   | 1,026,100 |
| 社会、社会福祉    | 1,222,730 | 977,600   | 977,600   | 1,017,600 |
| 法律、消費情報環境法 | 1,244,730 | 989,100   | 989,100   | 1,029,100 |
| 政治         | 1,232,230 | 979,100   | 979,100   | 1,019,100 |
| 国際         | 1,281,900 | 1,030,100 | 1,026,100 | 1,066,100 |
| 国際キャリア     | 1,446,900 | 1,195,100 | 1,191,100 | －         |
| 心理         | 1,289,230 | 1,038,100 | 1,038,100 | 1,078,100 |
| 教育発達       | 1,359,230 | 1,108,100 | 1,108,100 | 1,148,100 |

\*1年次は入学金200,000円を含む。

\*4年次は校友会終身会費を含む。

＜大学院（年額）＞

（単位：円）

| 博士前期課程                     | 1年次     |         | 2年次     | 3年次     |
|----------------------------|---------|---------|---------|---------|
|                            | 2013年度生 |         | 2012年度生 | 2011年度生 |
|                            | 本学卒・院修  | 他大卒     |         |         |
| 英文学、フランス文学、芸術学、経済学、経営学、国際学 | 647,750 | 797,750 | 686,000 | －       |
| 社会学、社会福祉学                  | 649,250 | 799,250 | 687,500 | －       |
| 社会福祉学（3年制コース）              | 480,100 | 630,100 | 477,500 | 517,500 |
| 心理学                        | 849,750 | 999,750 | 888,000 | －       |

（単位：円）

| 博士後期課程                     | 1年次     |         | 2年次     | 3年次     |
|----------------------------|---------|---------|---------|---------|
|                            | 2013年度生 |         | 2012年度生 | 2011年度生 |
|                            | 本学卒・院修  | 他大卒     |         |         |
| 英文学、フランス文学、芸術学、経済学、経営学、国際学 | 648,600 | 798,600 | 646,000 | 686,000 |
| 社会学、社会福祉学                  | 650,100 | 800,100 | 647,500 | 687,500 |
| 法律学                        | 651,600 | 801,600 | 649,000 | 689,000 |
| 心理学                        | 650,600 | 800,600 | 648,000 | 688,000 |

（単位：円）

| 専門職学位課程 | 2年次       | 3年次       |
|---------|-----------|-----------|
|         | 2012年度生   | 2011年度生   |
| 2年制コース  | 1,595,230 | －         |
| 3年制コース  | 1,555,230 | 1,595,230 |

\*1年次の金額には他大卒の学生のみ入学金150,000円を含む。

（本学学部、本学博士前期課程・修士課程、専門職学位課程出身者の場合は入学金が免除）

\*最終年次に校友会終身会費を含む。（本学卒・本院卒で既に納入済の者は不要）

＜系列校（年額）＞

（単位：円）

|             | 1年次     |           | 2年次     | 3年次     |         |
|-------------|---------|-----------|---------|---------|---------|
|             | 移行生     | 他校出身      |         | 移行生     | 他校出身    |
| 明治学院高等学校    | －       | 932,980   | 646,675 | －       | 681,505 |
| 明治学院東村山高等学校 | 970,200 | 1,000,200 | 732,200 | 662,200 | 667,200 |
| 明治学院中学校     | －       | 1,077,200 | 707,200 | －       | 762,200 |

\*明治学院高等学校の1年次は入学金250,000円を含む。

\*明治学院東村山高等学校の1年次は入学金300,000円（移行生は280,000円）を含む。

\*明治学院中学校の1年次は入学金300,000円を含む。



## 5 設置する学校の役員数・教職員数

## (1) 役員

|        |      | 定 員    | 現 員 | 氏 名                                                                                           |
|--------|------|--------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 理<br>事 | 常務理事 | 11名    | 11名 | 理事長 青 本 健 作<br>学院長 大 西 晴 樹<br>浅原 進 岩谷 英昭 内山 功<br>鵜殿 博喜 小暮 修也 孫 永律<br>大海 龍生 村井 信一 村田 玲音        |
|        |      |        |     | 安西 愈 大竹 美喜 岡本 昌雄<br>栢原 英郎 小室 尚子 JANSEN, Wayne<br>鈴木美南子 西尾 敦 橋本 茂<br>花島 光男 古田 和彦 明神 恵子<br>吉井 淳 |
|        |      |        |     |                                                                                               |
|        | 理事計  | 22～24名 | 24名 |                                                                                               |
| 監事     |      | 2名     | 2名  | 長津 榮 丸山 輝雄                                                                                    |

(2013年5月1日現在)

\* 氏名50音順で記載

## (2) 評議員

|       |        |     |            |
|-------|--------|-----|------------|
| 評 議 員 | 45～49名 | 49名 | 野木 虔一 他48名 |
|-------|--------|-----|------------|

(2013年5月1日現在)

## (3) 教職員

|             |                     | 大 学   | 高等学校 | 東村山高等学校 | 中学校 | 合 計   |
|-------------|---------------------|-------|------|---------|-----|-------|
| 常<br>勤      | 教 員 ・ 教 諭           | 280   | 43   | 34      | 21  | 378   |
|             | 準 宣 教 師             | 0     | 2    | 0       | 0   | 2     |
|             | 常 勤 講 師             | 0     | 2    | 2       | 0   | 4     |
|             | 助 手                 | 14    | 0    | 0       | 0   | 14    |
|             | 副 手                 | 3     | 0    | 0       | 0   | 3     |
|             | 研 究 ・ 実 験 助 手       | 2     | 0    | 0       | 0   | 2     |
|             | 職 員                 | 166   | 5    | 4       | 1   | 176   |
|             | 音 楽 主 任 者           | 1     | 0    | 0       | 0   | 1     |
|             | 主 任 カ ウ ン セ ラ ー     | 2     | 0    | 0       | 0   | 2     |
|             | ボランティアコーディネーター      | 2     | 0    | 0       | 0   | 2     |
|             | 主 任 教 学 補 佐         | 2     | 0    | 0       | 0   | 2     |
|             | 教 学 補 佐             | 23    | 0    | 0       | 0   | 23    |
|             | 特 別 嘱 託             | 19    | 0    | 0       | 0   | 19    |
|             | 常 勤 保 健 師           | 2     | 0    | 0       | 0   | 2     |
|             | 宗 教 部 常 勤 職 員       | 1     | 0    | 0       | 0   | 1     |
|             | 特 別 契 約 助 手         | 1     | 0    | 0       | 0   | 1     |
|             | 特 別 契 約 職 員         | 10    | 0    | 1       | 0   | 11    |
|             | 常 勤 小 計             | 528   | 52   | 41      | 22  | 643   |
| 非<br>常<br>勤 | 客員教授・特命教授・非常勤講師     | 941   | 40   | 26      | 7   | 1,014 |
|             | 非 常 勤 嘱 託           | 41    | 0    | 0       | 0   | 41    |
|             | 特別ティーチング・アシスタント     | 39    | 0    | 0       | 0   | 39    |
|             | ティーチング・アシスタント       | 37    | 0    | 0       | 0   | 37    |
|             | カ ウ ン セ ラ ー         | 2     | 0    | 0       | 0   | 2     |
|             | アシスタントカウンセラー        | 5     | 0    | 0       | 0   | 5     |
|             | ソ ー シ ャ ル ・ ワ ー カ ー | 1     | 0    | 0       | 0   | 1     |
|             | 非 常 勤 職 員           | 135   | 10   | 3       | 4   | 152   |
|             | 非 常 勤 小 計           | 1,201 | 50   | 29      | 11  | 1,291 |
| 総 合 計       |                     | 1,729 | 102  | 70      | 33  | 1,934 |

(2013年5月1日現在)

\* 学院牧師は特別任用のため教職員には含まれない。

\* 高等学校、東村山高等学校、中学校の非常勤職員には、スクールカウンセラー各1を含む。

## 第2章 2013年度事業の概要

### 1 法人

#### (1) 事業計画

##### ① 明治学院創立150周年記念事業・行事の推進

「創立150周年記念事業」として掲げた10項目の事業を中心に改革を進める。また記念事業を成し遂げるのに必要な概算予算の10%を目標として募金を行う。

##### ② 明治学院の教育

「明治学院一貫教育宣言」の周知を図り、中・高・大一貫教育を強化する。

##### ③ キリスト教活動

中・高・大を包括した全学院にまたがるキリスト教教育諸活動の推進を図るため、中・高・大の連絡・連携を強化し、各学校礼拝の充実を目指す。

##### ④ 法人ガバナンスと内部統制の強化・推進

学院長室の設置により、学院長の諸活動を支える体制を整え、キリスト教活動、一貫教育を推進させる。監査室の設置により、内部監査、監事監査を一層充実させ、財務と業務の点検に努める。

##### ⑤ 明治学院の財政基盤の強化

学院の中長期財政計画に基づいた財政の一層の強化を図る。「創立150周年記念事業」として掲げた10項目の事業の資金支出を踏まえたうえでの財政の健全化に努める。

##### ⑥ 白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み

大学における学部一貫教育と高校校舎老朽化に対処するための白金キャンパスのグランドデザインを推進する。横浜キャンパスのエコキャンパス化に取り組む。

##### ⑦ 危機管理体制への取り組み

被災地出身の学生に対する支援の継続および学院の生徒・学生・教職員のボランティア活動の強化。キャンパスの安全・防災上の課題について協議のうえ、施設・設備の再点検、防災計画の策定を継続する。

##### ⑧ 奨学金の充実

学業支援奨学金や被災地出身の学生に対する特別奨学金の充実。学院が新たに設置する「明治学院ぶどうの木奨学金」の活用を推進する。

##### ⑨ 文化活動

明治学院歴史資料館での常設・企画展示会および講演会等を開催する。パイプオルガンによるオルガンコンサートを開催する。

##### ⑩ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

明治学院の全額出資会社である株式会社明治学院と、サービスの教育・研究活動に関するさらなる密接な連携を図る。また就職活動、大学の事務組織の変更に伴うアウトソーシングの受け皿、インターナショナルカフェ、学生団体の活動、卒業生サービスについても連携を強める。

## (2) 事業計画の進捗状況

## ① 明治学院創立150周年記念事業・行事の推進

## (a) 記念事業

## 1) 『明治学院百五十年史』の刊行

990ページからなる『明治学院百五十年史』を刊行し、官公庁・大学等関係機関、教職員、同窓生等に配布した。その内容は、1863年（文久3年）のヘボン塾開設から現在までの「本編」（701ページ）と東アジア・文学・音楽・スポーツを切り口として明治学院の歴史をとらえた「主題編」（289ページ）となった。

## 2) 一貫教育体制および生涯教育環境の整備

2013年度から「つなぎプロジェクト」（中・高・大のキリスト教一貫教育プロジェクト）として、中学・高校・大学の生徒・学生が共に学ぶ場を提供した（P8②明治学院の教育(a) 参照）。包括した全学院にまたがるキリスト教教育諸活動の推進を図るために、大学進学前教育のひとつとして、東村山高校の推薦進学コースの科目「アカデミックリテラシー」を開講し、明治学院大学各学部から教員を招き特別講義を行った。

## 3) 「21世紀ヘボンプロジェクト」

・大学では、ボランティアセンターによる被災地支援プロジェクト推進、卒業生向けに開講した「ヘボン塾校友講座」、内閣府から表彰された港区との協働連携のチャレンジコミュニティ大学、教育発達学科新設に伴う大学13号館の建設、キャリア形成に必要な授業科目を体系化したヘボンキャリアプロジェクト等、「21世紀ヘボンプロジェクト」に沿った様々な分野において活発な活動が行われた。

## 4) 高等学校の校舎改築

・高校校舎は老朽化が進み、募集対策、安全管理・保全コスト（修繕費などの）増加など数々の問題を生んでいる。高校としては改築の必要性を痛感して来たが、150周年記念事業として位置づけられ、2013年度末、理事会において正式に改築の検討が決定され、着工の規模やタイミング、建設コスト見積、資金計画改善など具体的で現実的な準備を進めることとなった。

・第2号基本金等による校舎改築資金の充実に努めた。

## 5) 白金キャンパスのグランドデザインの策定

P9⑥白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み(a) 参照

## 6) 東村山キャンパスの整備

・グラウンドの人工芝化・ビオトープ（生物生息空間）設置・正門改修等の校地整備事業を2015年～2016年度に実施することになった。

・上記の目的のため、第2号基本金等による校舎改築資金の充実に努めた。

## 7) 奨学金制度の充実

P10⑧奨学金の充実 参照

## 8) スポーツ文化活動の奨励

・大学はP18⑥学生への総合サポート体制の充実(d)(e) 参照

・高等学校はP41⑪その他の特記事項(e) 参照

## 9) 国際交流の強化

・大学では、2013年度中に新たに3大学と交換留学協定を締結した。

・高校では、韓国研修旅行や米国のホームステイを実施した。

・中学ではサマーキャンプ、東村山高校ではホームステイを、共に米国で実施した。

## 10) 日本近代音楽館の維持と一般公開

2013年10月11日～12月23日に「五線譜に描いた夢—日本近代音楽の150年」展を東京オペラシティで開催した。

## (b) 記念行事

## 1) 記念礼拝

2013年10月26日（金）に予定していた「150周年記念式典（記念礼拝・記念祝賀会）」は、台風の影響で中止のやむなきに至ったが、12月20日（金）に記念礼拝を挙行了した。

## 2) 記念ロゴ、記念広告

「150周年記念事業・行事实施委員会の行事チーム打ち合わせ」を毎月開催して、明治学院全体の150周年記念行事等を推進した。「創立150周年」に関する学生・生徒の機運を高めるために「明学生によるロゴマーク／キャッチフレーズ」を募集し、2013年度は最優秀作品を学内コミュニケーション活動（印刷物やグッズ等）に使用した。また2012年8月から2014年4月15日まで、京王線・京王井の頭線・京王新線のドア横に月替わりの車内広告を掲出した（B2判カラー）。また、式典を予定した2013年10月に合わせて日本経済新聞（全国版、約300万部）

とキリスト教新聞(全国約5万部)に「明治学院創立150周年記念広告」を掲載した他、都バス(目黒駅～大井競馬場)での車内放送、横浜での江ノ電バスのラッピングデザイン、渋谷駅構内での看板掲示を行なった。

3) 150周年記念特別講演会の開催

2012年度から2年間に亘り創立150周年記念特別講演会「激動の世界における日本の転換点」シリーズを開催した。(2012年度6回 2013年度7回)

2013年度春学期「少子・高齢・格差社会を越えて」(全4回)

第1回 「少子高齢化と格差社会」(講師:白波瀬佐和子東京大学大学院教授)

第2回 「少子化と格差社会」(講師:阿部彩国立社会保障・人口問題研究所部長)

第3回 「高齢化と格差社会」(講師:近藤克則日本福祉大学教授)

第4回 「21世紀型福祉社会への途」(講師:武川正吾東京大学大学院教授)

2013年度秋学期「明治学院と文化」(全3回)

第1回 「バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンに学ぶ」(講師:樋口隆一明治学院大学教授)

第2回 「現代に生きる聖書」(講師:曾野綾子)

第3回 「千利休と日本美術」(講師:千宗屋武者小路千家若宗匠、山下裕二明治学院大学教授)

4) 学生生徒による演奏会(11月9日 東京オペラシティコンサートホール)の開催

P10⑨文化活動(e) 参照

5) オール明治学院大学グリークラブ演奏会(11月10日 明治学院チャペル)の開催

6) 「宣教医ヘボンローマ字・和英辞書・翻訳聖書のパイオニア」展(10月18日～12月27日 横浜開港資料館)の開催

7) 野球試合「第一試合:明治学院高校VS東京大学教育学部附属中等教育学校 第二試合:明治学院大学VS東京大学」(11月24日 明治神宮球場)の開催

8) 記念試合(アメリカンフットボール、ラグビー、剣道、サッカー、バスケットボール)の開催

(c) 記念募金

1) 明治学院創立150周年記念募金は、「明治学院創立150周年記念事業」10事業を成し遂げるのに必要な予算150億円(概算)のうち、10%にあたる15億円を目標としており、募金活動は4年目となった。2013年度末の申込金額は720,149,729円(申込件数:団体172団体、個人3,185名)となり目標額の48%まで達した。

2) 『募金ニュース』第6号(7月1日)、第7号(12月1日)を発行した。第6号は約20,000部、第7号は約80,000部を卒業生、保証人・保護者、教職員OB、勤務員、企業・法人へ配布した。

3) 「150周年記念事業・行事实施委員会の募金チーム打ち合わせ」を隔月開催して、明治学院全体の150周年記念募金を推進した。

4) 校友会・同窓会の集まりに積極的に参加して募金活動に理解と支援をいただけるよう働きかけた。また、取引企業へも働きかけを行い、募金活動に多くの支援を得ることができた。

5) 創設者ヘボン博士が編纂した英和・和英辞書『和英語林集成』復刻版を150周年記念品として刊行した。一定額以上の寄付者への贈呈・頒布を開始するとともに、チラシを作成・配布して明治学院関係者へのさらなる協力を呼びかけた。

6) 募金協力者には顕彰としてチャペル・オルガンコンサートへの招待をするとともに2014年卓上カレンダーを送った。2013年度のコンサート招待者は274名であった。

② 明治学院の教育

(a) 新任教職員のための入職式において、本学院の設置目的である「キリスト教に基づく人格教育」について新任教職員に説明した。また明治学院創立150周年を迎えた2013年度、通常の入学式・卒業式の他に、学院創立150周年記念礼拝、明治学院高等学校創立記念礼拝、明治学院中学・東村山高等学校創立記念礼拝、さらには明治学院東村山高等学校の創立50周年記念礼拝が行われ、創立者ヘボン博士に始まるキリスト教教育について多くの人に広めた。

(b) J.C.バラ・プログラムは、学院の一貫教育における重要な企画であるが、系列校の入学内定者全員、および高校教員が参加して、2日間の入学前教育が実施された。大学教員によるゼミナール、図書館利用等のプログラムは、高校の教科学習と異なり、大学における勉学方法を知る上で示唆に富むものである。また英語教育については、大学英語教員が中学高校のスピーチコンテストの審査員を担当し、中高大の英語教育の接続が実施された。

(c) 東村山高等学校の「新学習プログラム2010」の実施により、多様な専門分野の大学教員が、専門領域への学問的興味を誘うように入門的授業を実施し、同校卒業生の大学における勉学の動機付けに役立っている。明治学院高等学校においても大学教員招聘授業の導入を検討してきたが、来年度からの実施を決定した。

③ キリスト教活動

(a) 2013年度から学院として年間主題聖句を掲げることになり、該当聖句は、150周年にちなみ、

ペトロの手紙二第3章8節「愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは一日は千年のようで、千年は一日のようです」とした。学校法人のHPに掲載し、法人役員・勤務員に意識を喚起した。

- (b) 中学・高校・大学を包括した全学院にまたがるキリスト教教育諸活動の推進を図るために、学院牧師を中心とするキリスト教センター連絡協議会を月1回開催し、学院全体のキリスト教教育の位置づけを確認し、キリスト教活動の一層の充実を図った。勤務員キリスト教セミナーでは、明治学院創立150周年に因んで「これまでの明治学院／これからの明治学院」をテーマに学院長が記念礼拝で奨励し、その後、各職域の勤務員によるパネルディスカッションを行った。参加者は法人役員、勤務員等67名であった。
  - (c) キリスト教活動推進会議において、大学の講義で必要とされる実験動物の犠牲に対する教育上の配慮に関してワーキンググループからの報告をもとに、学期毎に動物実験を覚える礼拝の開催、聖句を刻んだ石碑を設置することを承認した。
  - (d) 学院におけるキリスト教一貫教育の場としての「つなぎプロジェクト」の第一弾として、長野県小諸市の障がい者支援施設小諸学舎を受け入れ先として小諸ワークボランティアが学院牧師の指導の下に実施された。参加学生は明治学院大学2名、明治学院高等学校引率教員1名生徒5名であった。
  - (e) 学外役員が各学校のキリスト教教育の実情に対する認識を深めることを目的として、各校の礼拝における奨励を全役員に担当してもらうことにした。その結果、回数としては、明治学院中学・東村山高等学校9回、明治学院高等学校3回、明治学院大学37回であった。この企画の総括として理事監事意見交換会で今後さらに学院のキリスト教教育の充実に向け模索を続けることとした。
  - (f) 2013年度も近隣教会や地域とのつながりを求めて、ペンテコステの集い、チャペルコンサート（年3回）、クリスマス音楽礼拝が開催された。クリスマス音楽礼拝は、近年の参加者増加に対応して今年度より2回に分けて開催した。また、日本基督教団宣教協力学校協議会の運営委員長校として、法人・各校におけるキリスト教活動と近隣教会との関係アンケートが行われ、その結果を同協議会に報告した。
  - (g) キリスト教学校教育同盟関連として、秋の学校代表者会議の初日が本学院を会場として開催された。また例年東山荘で開催される夏期学校に新任教職員を派遣しているが、2013年度は、職員研修会に宗教活動担当部署の3名の職員を派遣した。
  - (h) 卒業生に対するキリスト教人格教育の一環として、白金チャペルで学院牧師や関係牧師の司式により今年度も24組の結婚式が挙行され、卒業生にもキリスト教教育を通じて母校とつながる機会を設けている。
- ④ 法人ガバナンスと内部統制の強化・推進
- (a) 法人ガバナンスの強化・整備を図るため、2013年度に寄附行為の改正を行い、理事会・評議員会開催回数の増加や審議事項の充実を図った。これにより、年間を通して理事会・評議員会を一層活発化させ、学校法人としてのガバナンスの強化を進めた。
  - (b) 「予算のPDCA推進のためのプロジェクト・チーム」の発足  
理事会の下にある財務委員会、経理部を中心とする所管部及び監査室の協働により、適切な予算編成、予算の効率的使用状況、予算執行のチェックなど、予算のPDCAを開始した。
  - (c) 法人ガバナンスの強化を行う一環として、私立学校法改正に伴う三様監査の重要性が増しているため、2013年度は理事会直轄の監査室を活用してステークホルダーに対して説明責任を果たせるよう、年間を通じた内部監査の強化に努めた。特に、内部監査の独立性を担保するため専任の要員（内部監査主管者）を配置した。また監事監査では、業務監査・財務監査の他に、教学監査の一環として「公的研究費整備体制チェックリスト監査」を実施し、公的研究費の適正な管理に関する監査を強化した。
- ⑤ 明治学院の財政基盤の強化
- (a) 学校法人明治学院中・長期財政計画の推進  
2013年度においても、単年度ベースでの消費収支の均衡を図るため、収入の確実な確保と新予算システムの稼働による支出の適正化を目指した。特に有利子負債の圧縮と利払いの縮減、金融資産の堅実かつ有効な運用を進めた結果、帰属収入消費支出差額比率で10%以上、消費収支差額の帰属収入比1%以上といった中・長期財政計画を達成することができた。
  - (b) 創立150周年記念事業への資金配賦  
2013年度予算では1,430百万円を計上し、創立150周年記念事業のために年度を通して効果的な支出を行った。
- ⑥ 白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み
- (a) 白金キャンパスのグランドデザイン  
・白金キャンパスのグランドデザインを本格的に策定するため、長期総合計画委員会と専門委

員会（キャンパス検討プロジェクト）を設置し、白金キャンパスグランドデザインについて検討を重ねた結果、当面の喫緊の課題である高校校舎の改築に関して、2013年度末、理事会において正式に改築の検討が決定され、着工の規模やタイミング、建築コスト見積、資金計画改善など具体的で現実的な準備を進めることとなった。

- ・高校の教室棟に限り改築計画を高校独自で進め、並行してそれ以外のスペースについて高大合同の将来構想を検討していく。

(b) 横浜キャンパスのエコキャンパス化

大学では、2013年度より3年計画で取り組んでいる、自律型エネルギー構築計画（太陽光や雨水等の利用）を含めた「横浜キャンパス向上計画」を実行に移した。具体的には、横浜キャンパスにおいて、東日本大震災を教訓として、新たに“安全とエコロジー”をテーマとした「自律型エネルギーシステム構築」を実現する。それは、非常時（停電時）にキャンパス内で安全に避難するためのエネルギーシステムと、通常時に省エネルギーを達成するためのシステムを融合したものとなる。

⑦ 危機管理体制への取り組み

- (a) 学院の「防災管理委員会」において防災に関する基本事項を明確にした。白金キャンパスにおける高校・大学連携の災害対策や、各校間連携の非常事態訓練についても実施することとなった。

(b) キャンパスの災害時安全対策

各校地間（白金・横浜・東村山・戸塚グラウンド）の連絡手段として有効な「衛星電話」を装備した。各学校において防災用品の整備を行った。

⑧ 奨学金の充実

- (a) 既設の奨学金については、P18大学⑦学業支援の強化 参照

- (b) 1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）以外からの入学者向けの新たな奨学金および留学生奨学金の拡充を含めた奨学費の増加を賄うため、大学第3号基本金の拡充を図った。

- (c) 篤志家の方から150周年記念募金としていただいたご寄付を原資として、「明治学院ぶどうの木奨学金」を創設した。2013年度は、7名の大学生が受給者となった。

⑨ 文化活動

- (a) 明治学院歴史資料館

1) 展示室の改修

歴史資料館展示室の改修工事を2013年夏におこない、展示室を記念館2階から1階へ移設した。2013年11月からリニューアルオープンを開始、展示室内には常設コーナーと企画展コーナーを設け、来館者が利用できる閲覧用PCをあらたに設置した。展示室移設に伴い、歴史資料館事務室は、記念館2階からインブリー館1階へ移動した。展示室入場者数は、明治学院中学校と明治学院高等学校の授業カリキュラムによる見学者約400名／大学・高校・中学行事関連約600名／文化財ウィーク約1,550名／一般見学約1,600名／計約4,150名であった。

- 2) 横浜開港資料館で開催された『宣教医ヘボン』展（2013年10月18日～12月27日）に明治学院大学図書館と共催で参加し、展示資料貸出しと図録制作に協力した。来館者数10,021人。

3) シンポジウムの開催

150周年記念として、11月16日に「ヘボン博士を語る」をテーマにキリスト教研究所および横浜プロテスタント史研究会共催でシンポジウムを開催した。参加者45名。

- (b) 明治学院チャペルコンサートシリーズ

パイプオルガンを中心に、内外の著名なオルガニストの出演による3回の演奏会を行った。来場者は、150周年記念募金寄付者に対する顕彰も含め、第1回298名、第2回324名、第3回371名であった。

- (c) オルガン講座

オーディションの結果、高校生6名、大学生41名（白金キャンパス14名、横浜キャンパス27名）、大学院生1名、学外者17名、学院関係者16名が受講した。高等学校アドベント礼拝では高校の受講生が演奏を担当し、また大学礼拝における奏楽（白金キャンパス）、大学オープンキャンパス（横浜キャンパス）では大学の受講生が演奏を行なった。

- (d) 歴史的建造物の広報活動

ブックレット『明治学院文化財ガイドブック』と学院の写真を配した卓上カレンダー（2014年版）の作成、東京都「東京文化財ウィーク特別公開」における一般公開への協力を行った。歴史的建造物3棟のマスコミによる取材では、主に国会議員・中央府省・全国都道府県市区町村向けの「毎日フォーラム」（毎日新聞社）や「文藝春秋」（2014年4月号）にインブリー館が紹介された。

- (e) 創立150周年記念学生生徒による演奏会

2013年11月9日（土）に東京オペラシティコンサートホールにおいて、大学、高等学校、東村

山高等学校、中学校各校で活動する音楽団体等が一堂に会して記念演奏会を開催した。個々の団体による演奏の他、「グローリア」(A.ヴィヴァルディ)では、中高大合同の演奏と合唱が、一貫教育のひとつの形として実現した。参加団体13団体(学生生徒出演総数約450名)、来場者約1,300名。

#### ⑩ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

- (a) 学校法人明治学院の100%の出資会社としての株式会社明治学院サービスに対して、学院が行う教育・研究活動に関してさらなる密接な連携を図った。特に就職活動支援、大学の事務組織の変更に伴うアウトソーシングの受け皿、大学白金パレットゾーン内の食堂およびカフェ、横浜インターナショナルカフェ、学生団体の活動、卒業生サービスについての連携を強化した。
- (b) 学院財政に対する寄与

(千円)

| 学院への貢献内容(定量面)                      | 金額      |
|------------------------------------|---------|
| 寄付金(大学、高校、中学・東村山高校の教育研究に要する経費への支援) | 3,190   |
| 学院の収入増加への貢献(*施設貸出し収入、事務所家賃等)       | 111,963 |
| 学院関連団体(同窓会、学生団体)への広告料              | 897     |
| 合 計                                | 116,050 |

\*施設貸出しと結婚式の利用者は、大学、高校、中学・東村山高校合算で90,705人である。

- (c) 株式会社明治学院サービスの2013年度決算(ご参考)

(千円)

|         | 2008年度  | 2009年度  | 2010年度  | 2011年度  | 2012年度  | 2013年度  |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 売 上 高   | 661,105 | 741,286 | 700,977 | 739,800 | 845,861 | 907,202 |
| 経 常 利 益 | 5,481   | 8,932   | 14,582  | 10,814  | 9,876   | 10,150  |
| 当 期 利 益 | 3,092   | 5,760   | 9,021   | 7,051   | 7,992   | 6,137   |

- (d) 学生のキャリア形成と就職活動支援

経済学部生に対するキャリア形成・職場体験実習・就職活動支援の一連の業務を委託した。具体的には、2年生でのインターンシップの科目において、企業での職場体験をするための基礎知識と、面談方法・文章の書き方、礼儀作法までを演習を含めて習得させた。この科目を経済学部生の3分の1が履修した。3年生のインターンシップ実習では、実習先企業の開拓・学生の送り込みを行い、約50名が参加した。また就職活動支援では、企業選択の考え方、説明会等の参加方法、エントリーシートの書き方といった個別指導、模擬面接実施と個別指導を行い、26名が参加した。

- (e) 交換留学生のための支援委託

大学校友会が委託した、交換留学生のための日本の伝統文化の紹介を兼ねた日本語講座を年6回実施した(各回平均8名が出席)。

- (f) 学生団体への活動支援委託

スポーツプロジェクト等の監督・コーチの管理業務を委託。また白金祭はじめ学生イベントへの広告掲載と飲料の無償提供、スポーツ団体傷害保険および事故対応サービスを通しての学生団体への活動支援を行った。

- (g) 大学事務組織の変更・合理化への対応

白金・横浜両キャンパスにおける「MGS総合カウンター」の委託内容(出張旅費清算、科学研究費補助金事務、消耗品調達、小口現金出納業務、年末調整事務等)および図書館業務の委託内容を拡大し、学院事務の軽減を図った。

- (h) 学院の各種活動の委託

大学と港区との共同事業である「チャレンジコミュニティ大学」(参加者60名、講義回数76回)の運営事務および大学公開講座(白金6回 横浜5回)の運営事務を委託した。

- (i) 白金チャペルの結婚式運営

白金チャペルでの結婚式運営を委託。2013年度の挙式実績は24件(礼拝堂18件、小チャペル6件)となった。

## 2 明治学院大学・大学院

### (1) 事業計画

#### <大学院>

- ① 大学院教学改革の活性化
- ② 法科大学院学生募集停止後の教育条件の維持・確保
- ③ 大学院広報の強化
- ④ 大学院教育・研究体制の整備

#### <大学>

- ① 教育目標の明確化と教育改善
- ② 学部における入学試験の改革と入試広報の充実
- ③ 国際交流と語学教育の充実
- ④ 自己点検・評価活動の継続と情報公開の拡充
- ⑤ キャリアサポート体制の強化
- ⑥ 学生への総合サポート体制の充実
- ⑦ 学業支援の強化
- ⑧ 一貫教育の充実と地域への貢献
- ⑨ 日本近代音楽館の一般公開
- ⑩ 外部研究資金の獲得

### (2) 事業計画の進捗状況

明治学院大学は、「キリスト教に基づく人格教育」を建学の精神とし、「他者への貢献」(Do for Others)を教育理念として、研究・教育に邁進している。この教育理念は、新約聖書マタイによる福音書第7章12節「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という聖書の箇所由来すると同時に、本学の淵源をなすヘボン塾創設者J.C.ヘボン博士の日本人への貢献を一言で表現したものである。

この教育理念のもとに、明治学院大学は、宗教部が中心となり学内外におけるキリスト教の活動と行事を通じて、学生・教職員に建学の精神を伝達すると同時に、5つの教育目標、すなわち、

- 1) 他者を理解できる人間の育成
- 2) 分析力と構想力を備えた人間の育成
- 3) コミュニケーション能力に富む人間の育成
- 4) キャリアをデザインできる人間の育成
- 5) 共に生きることのできる人間の育成

を掲げて、大学として研究・教育活動を遂行している。

また、教育研究の質の向上およびグローバル化への様々な対応のひとつとして、学長の諮問に基づき、学部においては「英語教育改革」に着手し、大学院については「大学院の活性化」の一環として新研究科設立構想への取組を進めた。

#### <大学院>

##### ① 大学院教学改革の活性化

- (a) 2つの学部・学科にまたがる大学院「法と経営学研究科」の2015年度開設を決議して、申請業務を開始した。
- (b) 2014年度大学院入試では、志願者は全体で161名、前年度は144名であり、17名の志願者増となった。また、博士学位論文審査において、優れた研究遂行能力を有している後期課程在学者の内、2013年度は課程博士として、芸術学専攻1名、法律学専攻1名、心理学専攻1名の計3名と、課程を経ない論文博士で芸術学専攻にて1名が合格し、博士号が授与された。
- (c) 心理学研究科は、その臨床部門である心理臨床センターの本格稼働により、実践的な教育・研究活動を展開する。心理臨床センターは高輪校舎への移設により、学外利用者が2008年度1149名から2009年度1794名、2010年度1961名に増大し、2011年度1935名、2012年度1654名に減少したものの、高い水準を維持している。スタッフや施設の充実した「心理相談クリニック」の開設によって、臨床経験に根ざした教育研究が可能となり、研究者、教員、障がい児、障がい者のための指導者、子育て支援従事者、成人・高齢者支援従事者等の専門家の養成を強化し、さらに(財)日本心理士資格認定協会から2013年2月に、2014年4月1日から2020年3月31日まで第1種指定校として継続承認を受けた。引き続き、臨床心理士養成のための機能を発展させていく。

##### ② 法科大学院学生募集停止後の教育条件の維持・確保

法科大学院は、2013年度9名の司法試験合格者を出している（これまでの合格者は合計72名であ



る)。募集停止した状況のもとで、2013年度の合格者9名という数字は、一般には、同様の規模の法科大学院の多くが合格者数を減らす中で、健闘した人数となり、前年比4名増加した。

また、志願者の激減という極めて厳しい環境のもと、2013年度の新入生の募集を停止したが、専門職業人養成教育に相応しい教育、厳格な成績評価の徹底を図るため、2016年度までは、現在の教育体制をほぼ維持し、学生に対する教育水準を確保する、また、聴講生制度を利用して修了生支援をより強化するという方針のもと、司法試験を受験する聴講生としての授業参加を認めるとともに、さらに聴講生向けの実践的講座もあらたに開設した。

2013年度（2013年12月1日時点）の在學生は53名、聴講生は80名である。

### ③ 大学院広報の強化

2010年度にキャリアセンターと合同開催した本学学部生に向けた大学院進学ガイダンスを、「明治学院大学大学院進学ガイダンス」と名称・内容を改め、広報とキャリア教育の両視点から充実を図り、2013年度は、白金キャンパス14名、横浜キャンパス19名の参加があった。

### ④ 大学院教育体制の整備

(a) 2013年度は海外からの大学院留学生15名の内、国費留学生2名（韓国1名、エストニア1名）と国費研究生2名（ベトナム1名、イギリス1名）が在籍した。また、博士後期課程のフランス文学専攻在籍者が文科省の海外留学支援制度（長期派遣）審査に合格し、フランスで3年間奨学金を受け、教育研究活動に専念することになった。

(b) 2010年度より社会学研究科、2011年度より法学研究科、2012年度より文学研究科では、院生に対する研究科独自の奨学金が用意され、2013年度は文学研究科6名、社会学研究科18名、法学研究科1名、計25名が研究活動に活用した。各研究科の院生の研究環境の向上を引き続き図っていく。

## <大学>

### ① 教育目標の明確化と教育改善

(a) 2013年6月開催の連合教授会において、「教学改革2013～報告と提案～」が示された。具体的には①2キャンパス制を中期的には維持する。②学部学科の教育の質の向上に継続的に取り組むとともに、全学的な教学体制を改革し、強化するという方針が確認された。さらに2013年7月の連合教授会では、新学部構想について教学改革推進本部会議のもとに副学長を座長とするワーキンググループが設置された。

(b) 2013年度は各学部学科の教育改善を促す「教学改革支援制度」を試験的に導入した。タイプA（大学全体へ展開可能な取組）に経済学部、法学部、国際学部国際学科、教養教育センター、タイプB（学部学科の教育の改善・質的転換に資する取組）に経済学部国際経営学科、社会学部社会学科、教養教育センター、心理学部教育発達学科の取組が各々採択された。取組実施の成果報告がなされ、タイプAについては本学のFD活動の一環としての報告も予定している。2014年度には、導入効果を検証する。

(c) 文部科学省「平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業」において、経済学部国際経営学科が申請した「産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究」の映像ソリューションシステムが採択された。

(d) 2013年度の科学研究費補助金は、18件が新規に採択(採択率42.5%)された。総採択件数は52件となり、総採択金額も48,200千円となり、2012年度と比較して総採択件数で8.3%増加、総採択金額では、8.5%の増加となった。

(e) 法学部と芝浦工業大学デザイン工学部との間で単位互換制度を継続実施した（開放科目には、教養教育センター開講科目が含まれる）。また、大学職員の合同研修も継続開催した。

(f) 名誉学士号の授与

芸術・文化の発展に寄与し学術研究・社会活動等において顕著な貢献があったことを認め、大学で初めてとなる名誉学士号をTHE ALFEEの3名に授与した。

(g) 2009年度から参加した横浜市内大学間学術・教育交流協議会加盟大学間の単位互換協定において、神奈川大学、関東学院大学、東洋英和女学院大学、横浜市立大学、フェリス女学院大学、横浜国立大学の学生が本学の科目を履修した。また、本学学生も神奈川大学、東洋英和女学院大学の科目を履修した。

## ② 学部における入学試験の改革と入試広報の充実

## 大学入学試験 志願者数

| 入試制度                        | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|-----------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般入学試験（全学部日程・A日程・B日程）       | 16,624 | 14,521 | 14,405 | 13,611 | 14,712 |
| 大学入試センター試験利用入学試験（前期・後期）     | 12,200 | 10,596 | 12,353 | 11,548 | 12,091 |
| 特別入試（指定校推薦、系列校特別推薦、自己推薦AO等） | 1,608  | 1,561  | 1,440  | 1,477  | 1,700  |
| 合 計                         | 30,432 | 26,678 | 28,198 | 26,636 | 28,503 |

2014年度入試においては、18歳人口の減少（約5万人減）や「文低理高」といわれる志望動向の継続があり、依然として本学にとって厳しい募集環境にあることが指摘されてきた。結果としては、一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験・特別入試の全てで前年度を上回る志願者があり、全体で前年度比7%の志願者増となった。今年度積極的に行ってきた入試制度等の改革や学生募集活動の強化が評価されたものと考えられる。

## (a) 入試制度等の改革

## 1) 指定校推薦制度の再編

前年度実施した一般の指定校推薦の見直しに続き、キリスト教学校教育同盟加盟校対象の指定校推薦についても、選定基準や出願条件等について大幅な見直しを行った。指定校推薦入試全般で志願者を大きく増やすことができ、多くの良質な入学者の確保に結びついた。

## 2) 地方試験会場の新設

これまで「One Day Campus」を開催し、地元の受験生との結びつきを強めてきた仙台・静岡において、一般入試全学部日程の地方試験会場を設けた。両会場とも予想を上回る志願者があり、地元での新たなニーズを掘り起こしたといえる。2015年度入試では、札幌・福岡を追加する。

## 3) インターネット出願の導入

一般入試・センター利用入試において、インターネット出願のシステムを導入した。同時に入学検定料の入金方法についても改善を加え、出願時の利便性を向上させた。

## (b) 学生募集活動の強化

## 1) 大学案内・受験生サイト等の受験生向け広報ツールの整備

前年度に全面刷新した独自作成の広報ツールをさらに改良し、受験生目線でのタイムリーな大学情報を発信した。

## 2) 進学情報誌や進学情報サイト、新聞広告等への積極的な出稿

地方からの受験生獲得に向けて、地方のうち特に募集拠点となる重点地域（札幌・仙台・静岡・福岡）での広告媒体への出稿を増やした。進学情報誌や新聞等では、首都圏版・東日本版から全国版への参画切り替えをすすめている。

## 3) オープンキャンパス、「One Day Campus」等の受験生対象イベントの拡充

受験生と直接コミュニケーションできるイベントの開催を重視、回数や会場を増やし、提供プログラムも充実させた。オープンキャンパスの総来場者数は前年度を大きく上回り、「One Day Campus」も会場を前年度の2都市から4都市に拡大、台風の影響により中止となった会場があったものの、動員が非常に好調だったことから、次年度の地方試験会場の増設につながった。

## 4) 高校とのネットワークの構築

高校訪問のエリアを拡大し、さらに高校教員対象の説明会を開催、高校の進路指導担当教員に対する情報提供の仕組みを確立した。

## ③ 国際交流と語学教育の充実

## (a) 留学の促進

2013年度の学生の海外への長期（1学期～2学期）認定留学者数は97名であり、これは前年の82名を上回り、本学学生の外向き志向の強まりを表している。また、短期プログラム（1ヶ月程度）への参加者も2013年度は前年の113名を大きく上回る168名となった。

## (b) 協定校の拡充

留学生数増加の背景として、協定校の拡充が挙げられる。2013年度は、2012年度に新規に長期交換協定を締結した英国のイーストアングリア大学、フランスのレンヌ第二大学への派遣が可能となり、留学の選択肢の増設により派遣留学生数の増加が可能となった。更なる協定校の拡充を目指し、2013年度は副学長（国際交流担当）をはじめ、職員が海外に出向き、新たに米国のケンタッキー大学、ニューメキシコ大学との交換協定、短期では1年次生から参加できるアイルランドのダブリンシティ大学との派遣協定を締結した。これにより、2014年度は学生の留学機会の間口が更に広がることになる。この結果、協定校は30校、交換留学可能者数は長期留

学80名、短期留学260名となった。

(c) 留学への意識向上

学生への留学に対しての意識の向上や、モチベーションアップの手段の一つとして、2013年度は、特に1、2年生に向けての意識付けを目指して、横浜校舎において「留学フェア」を計6回開催した。留学経験者の体験報告や個別相談、また、海外からの交換留学生による個別相談を実施し、留学に漠然とした興味のある学生にとっては留学を具体的にとらえる良い機会となり、既に留学を目指している学生にとっては目指す留学先に的を絞ってこの機会を利用することができた。同様の効果を目的として、2013年度に新たに発行した「CICEニュース」は在学生向けの留学啓発ツールとして、年4回、留学経験者の話や、受入留学生が母校を紹介するコーナー、学内での留学生との交流イベントの紹介、案内を掲載し、留学を現実的にとらえられるような内容とした。

(d) 派遣留学生の奨学金制度の充実

留学希望者が増える一方で、経済的な理由で断念するケースも散見される。現在では認定留学の場合、申請により一律5万円の奨学金が支給されている。その経済的支援として、2014年度秋学期留学から、明治学院大学学生の国際交流の飛躍的拡大（200名を目標）のため一人当たり一律20万円が支給される予定である。

(e) バディ（明治学院大学学生による留学生のサポーター）制度

学内での国際交流の機会としては、学生バディ制度が定着している。協定校の増設により、2013年度は受入留学生数も93名（2012年度82名）と年々増加している。これらの留学生のサポートや企画イベントに携わるバディを希望する学生も増加傾向にある。

(f) 留学生の受入

海外留学生の受入体制としては、2014年度から横浜校舎でのISP(International Student Program)が開始されるので現在の留学生寮では部屋数が不足すること、また、従来の戸塚の留学生寮が老朽化し、留学生からも苦情が出ていたこと等を鑑み、2013年度をもって現在の寮の契約を打ち切り、2014年度から新たに食事付きの学生寮「ドミール戸塚」を、横浜校舎で受入れるUC、ISP、夏期日本語プログラム用に留学生寮として40部屋確保した。

また、アカデミックな側面では、今まで留学生用に外注で開講していた課外講座「クールジャパン」を、2014年度から単位修得可能な明治学院共通科目のI群科目として開講することが決定した。今後も留学生の関心の高い魅力あるプログラムの開講を学部等に提案して行く。

(g) 広報活動

学内外、国内外への広報活動として、ここ数年間実施していなかった大学のオープンキャンパスへの参加が挙げられる。CICE（国際交流センター）スタッフが本学の協定留学の説明やPRを行い、後半は留学体験学生の体験談という「留学ガイダンス」を実施した。毎回、100名ほどの入場者があり、受験生の留学への関心の高さがうかがえる。また、2013年度に新たに4種類のCICEの刊行物を発刊した。「英語ハンドブック」、「ポスター」は海外の協定校拡充のための渉外活動に活用するとともに、本学のプレゼンスを高め、本学への留学希望者を募るマーケティングツールとして活用する予定である。また、前述の、オープンキャンパス時等に配布する目的で、主に受験生、その保証人に向けて「CICEパンフレット」を作成して本学の協定留学の内容や、メリットなどのアピールに活用することとした。そして、在学生向けには「CICEニュース」を発刊し、本学の協定校の紹介や留学経験者の体験談、また協定校からの留学生からのコメントなど、在学生が留学を具体的に思い描けるような内容、また留学をしたいという思いを具体化させるための方法論、特にCICEの上手な活用法などを中心に構成し、年4回発行して行く。

(h) 語学教育の充実

英語教育改革については、2013年度は総合企画室に担当室長補佐を置き、「英語（外国語）教育改革検討WG」を発足させ、特に英語教育についての授業方法の改善について検討を行った。授業では一定のクラスの授業をICT技術Skype（インターネットビデオ通話）を用いて実験的な授業に切り替えて、その成果を検証した。その結果をもとに対象学科を拡大することとし、2014年度に向けた準備を行なった。

④ 自己点検・評価活動の継続と情報公開の拡充

本学では自己点検・評価運営委員会にて毎年度の自己点検・評価の実施方法を決定し、それに基づいて全学的な取組を実施している。2013年度は、前回（2009年度）の認証評価で改善を求められていた指摘に対する改善状況の最終報告をしたほか、2014年度の認証評価報告書執筆の前年度にあたることから、大学基準協会の新評価基準によるさらなる客観的な数値・根拠に基づく評価報告の考え方の定着に努めた。さらに、自己点検・評価結果の妥当性と客観性を高めるため、学外の学識経験者等で構成する外部評価委員会を開催した。2013年度は「教育方法」「教育成果」「学生支援」をテーマに定め、8名の委員による評価を受けた。外部評価委員会からは最終的に本学の提言が提出され、それに基づいて本学の自己点検・評価結果を再検証することとしている。こ

の提言ならびに提言への回答は、2014年12月にWebページで公開する予定である。

⑤ キャリアサポート体制の強化

(a) 2014年3月就職・求人状況

【採用実績上位】(2014年5月1日現在)

|      | 企業名               | 男                | 女                | 合計               |
|------|-------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1    | (株) 三菱東京UFJ銀行     | 2                | 19               | 21               |
| 2    | みずほフィナンシャルグループ    | 3                | 15               | 18               |
| 3    | 日本郵政グループ          | 3                | 11               | 14               |
| 4    | 日本航空(株)           | 0                | 13               | 13               |
| 5    | 神奈川県教育委員会         | 4                | 9                | 13               |
| 6    | (株) エイチ・アイ・エス     | 2                | 10               | 12               |
| 6    | (株) 三井住友銀行        | 0                | 12               | 12               |
| 6    | あいおいニッセイ同和損害保険(株) | 4                | 8                | 12               |
| 6    | 第一生命保険(株)         | 0                | 12               | 12               |
| 10   | 東日本旅客鉄道(株)        | 5                | 6                | 11               |
| 求人件数 |                   | 2010年度<br>6,052件 | 2011年度<br>7,388件 | 2012年度<br>8,380件 |
|      |                   |                  |                  | 2013年度<br>8,897件 |

(b) ヘボン・キャリアデザイン・プログラム

学生の自己理解、キャリアデザイン、職業への接続に資する科目を体系的に提供することを目的とし、2013年度より「ヘボン・キャリアデザイン・プログラム」が設けられた。今年度は明治学院共通科目の中からふさわしい授業科目を選出するかたちとなったが、2014年度からは各学科の授業科目もその対象に加わることになっている。

(c) 低学年向けキャリアガイダンス

自己理解(自分と向き合う)、社会・職業への接続(社会人になること、職業に就くことと向き合う)の2点を重視しキャリアガイダンスを行った。

1年次には「自己理解」と「学生生活の定着と目標設定」を目指し、入学時の進路オリエンテーションとキャリアガイドブックの配布や、1年生向けキャリアガイダンスの実施を通して、学生生活の目標設定・行動計画作成を促した。さらに、自己理解を目的とするアセスメント&フィードバックセミナーを年4回実施した。2年次には、「大学生活の振り返りと新たな目標設定」と「社会・進路への接続」を目指し、キャリアガイダンスを行ったほか、教員、公務員、民間企業、大学院進学について進路別にガイダンスを実施、企業との協働による学内インターンシップ「仕事発見プログラム」なども実施した。

(d) インターンシップ

野村證券による半年間の冠講座の継続実施の他、経済学部、社会学部、国際学部、法学部消費情報環境法学科および政治学科において、授業科目としてインターンシップが行われた。課外活動としては、キャリアセンターが実施したインターンシップガイダンス他の事前指導のもとに、152名が54社へのインターンシップに参加した。

(e) 民間企業等志望者への支援

1) 3年生アクティブ層形成

早期に自発的に動く学生(アクティブ層)をより厚く形成するために、春学期から秋学期にかけて、ヘボン・キャリア・プロジェクト(人気職種への就職支援講座)や就活ステップアップ講座(少人数制の就職支援講座)による取組を行った。

2) 就職ガイダンス

3年生全体を対象とした就職ガイダンスを4回に分けて実施したほか、Uターン希望者、福祉の仕事への就職希望者、外国人留学生、大学院生等、カテゴリー別のガイダンスを実施した。

3) 4年生内定者による支援

4年生内定者を組織化し、内定者を囲んでの質問会等の活動を行った。

4) 企業へのアプローチ

地方自治体や東京商工会議所が主催する各種企業との情報交換会に出席し渉外活動を行った。

求人を目的に来訪する企業の情報をレポートにして学生に情報提供した。この取組は年間を通じて行っている。

## 5) 4年生就職活動継続学生への支援

「孤立の防止」が支援のポイントと捉え、5月以降翌年1月まで、月に1回以上のペースで就職支援行事を開催し、「継続しているのは自分だけではない」ことを実感させることをねらった。一方、個別の支援においては、通年的に配置している「専門的相談員」が進路未報告者に対し、延べ数千件の電話による「声かけ支援」を行ったほか、求人紹介専門の相談員「4年生就職コーディネーター」や専任職員による個別の紹介業務にも取り組んだ。

## (f) 教員志望者への支援

2013年度より、従来の中等教育機関（中学校・高等学校）の教員免許取得に加え、初等教育機関（幼稚園・小学校）教員免許を取得する学生が最終学年となり、2013年度、初めての教員採用試験を迎えた。結果、本学卒業見込み者のうち約40名の学生が専任教員として4月以降教壇に立つ予定である。これら専任教員のほか、講師として教育現場で活躍する者が加わる予定である。教員採用に向け、年次に応じたガイダンスの開催や教員採用試験対策講座、模擬試験の実施、教職キャリアアドバイザーによる個別指導、人物試験対策講座を通じ、教員として働く職業観を育むプログラムを展開した。

## (g) 公務員志望者、資格取得への支援

公務員、司法書士、行政書士、税理士、会計士、簿記、語学等の課外講座を法学部、経済学部、教養教育センターが実施したほか、パソコン資格である「MOS」取得講座、公務員模試、官公庁任用担当者による公務員採用試験制度等説明会、官公庁でのインターンシップの紹介をキャリア支援課が実施した。

## (h) 卒業生・修了生就職支援

校友会の財政支援に基づき、2013年度も卒業生就職支援室の取組を行った。2013年4月から2014年1月末の間に大学卒業者・大学院修了者延べ109名の利用者があった。

## (i) 文部科学省補助金による取組

本学は2012年度より3年間の計画で、文部科学省平成24年度大学改革推進等補助金大学改革推進事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に、都内17大学とともに参画している（取組名称：「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」）。

2013年度は大学グループ全体の取組のほか、本学単独で、(1)正課科目「ライフデザイン講座」の開講 (2)社会で働くことの現実的視点を醸成できるような教育プログラムの実施 (3)産業界との連携による人材育成プログラムの実施 (4)キャリアコーディネーターの配置によるアセスメント&フィードバックセミナーの実施 (5)相談記録システムの運用 の5項目に取り組んだ。

## (j) キャリアセンターにおける相談業務

相談業務の質向上のため、キャリアセンターでは、年間10回程度行われるセンター全体のミーティングや年1回実施のセンター内研修にて、相談事例の報告と意見交換による取組を行っている。またキャリアセンター専任職員・特別契約職員11名中、キャリアカウンセラー資格取得者は2013年度末で3名だが、これを増やすことにも取り組んでいる。

2013年度はキャリアカウンセラー有資格者である「専門的相談員」の配置強化を実現した。特に横浜キャンパスでは2013年度初めての配置となった。

## (k) 卒業生による支援

校友会「ホテル白金会」と連携し、ヘボン・キャリア・プロジェクト「ホテルクラス」（人気職種への就職支援講座）を実施した。

卒業後3年目の卒業生に、現在の仕事、会社に関するアンケートを実施し、生のキャリア情報の資料としてキャリアセンター資料室にて学生に提供した。相談業務の資料やキャリアガイダンスのコンテンツとしても活用されている。

## ⑥ 学生への総合サポート体制の充実

## (a) 総合支援室への改組

2013年度より学生サポートセンターを総合支援室と改組し、その下に心理相談部門（学生相談センター）、健康支援部門（健康支援センター）、修学支援部門（学生サポートセンター）の3部門を置き、各部門の連携強化を行い、新たに総合支援委員会を設置した。学生支援に関する総合的検討を行い、身体、精神の疾患・障がい、修学、対人関係・心理、進路・就職等の問題に関連して困難が生じている学生に対し、情報を共有し、より速やかにかつ包括的に必要な専門的支援の充実を図った。

## (b) サポート体制の整備

## 1) キャンパスのバリアフリー化の推進

管財部との連携により全学的な施設の調査を実施し、視覚障がい者や車椅子利用学生に対する施設の改善を実施した。

## 2) 健康診断のデータ化・システム化の推進による情報の共有化

教職員を対象とした健康支援システムを構築し、健康診断を含む新しい教職員健康支援体

制の基盤を整備した。

3) 他部署との連携によるサポート

キャリアセンターと連携し、情報を共有化することにより、支援が必要な学生の就労支援を充実させた。

4) 疾病予防や危機管理体制の確立

健康診断を受診した学生および教職員へ丁寧なスクリーニングを実施し、健康状態を説明することにより、疾病の予防につなげた。学生の状況の共有化により、緊急の事態に対する三部門の対応が迅速化された。

(c) 障がいのある学生の修学支援

1) 視覚障がい学生への支援として学内学生に対してノートテイクを募集し、その養成のため「ノートテイク養成講座」と「パソコンノートテイク養成講座」を開催した。

2) 大学の指針として「障がいのある学生への修学支援の基本方針」を定め、Webページで公開した。

3) 第1回学生支援連絡会を開催し、「合理的配慮の提供」に関する教職員への啓発を促進した。

(d) 明学スポーツを強くするプロジェクト（通称:スポーツプロジェクト）への支援

2005年度より開始した同プロジェクトは、指導者の招聘によりスポーツクラブを活性化・強化し、クラブそのものをよりハイレベルにすることとあわせて、一般学生の応援・一体化・愛校心の高揚などの目的も掲げられ継続されてきた。2013年度については、体育会ラグビー部が所属する関東大学ラグビー対抗戦Bグループ2位の成績を修め入替戦に勝利しAグループへの昇格を果たした。また体育会アメリカンフットボール部は所属する関東学生アメリカンフットボール部2部リーグAブロック優勝を果たし上位リーグチームとの入替戦に出場した。さらに、体育会陸上競技部が箱根駅伝予選会に出場した（出場44校中32位）。いずれも多く多くの学生・卒業生・教職員が応援に駆けつけるなど盛り上がりを見せた。なお、本プロジェクトは2013年度をもって第3期（通算9年）が終了となる。これまでの総括および制度の見直し等を行い、2014年度は第3期の延長として位置付けられることが決定し、体育会所属の8団体が選定された。

(e) その他の課外活動

〔150周年記念事業〕

記念事業の一環として学生団体による行事プロジェクトを実施。ラグビー部、アメリカンフットボール部、剣道部、バスケットボール部、野球部による記念試合や応援団やサッカー部によるイベント、グリークラブによる演奏会が行われた。

〔課外活動奨励賞〕

課外活動（スポーツ、文化芸術、社会貢献活動）における優秀な成績や活動の実績を顕彰し、今後の活動奨励を目的とする課外活動奨励賞を決定し表彰した。（個人賞17名、団体賞6団体）

〔課外講座プロジェクト〕

公認団体に所属しない学生が5割という本学の状況を踏まえ、学生生活をより充実させることを目的とした全学生対象の課外講座を2013年度よりスタートした。企業のCSRや教職員との連携により18講座（延べ794名が参加）を実施した。

⑦ 学業支援の強化

(a) 経済的学業支援を目的とした「へボン給付奨学金」の採用者数も前年度より4名増えて416名、支援総額は5,240万円（内1,000万円は保証人会からの支援）であった。他の学内奨学金の採用者数としては「明治学院大学学業優秀賞」60名、「明治学院大学認定留学（長期）奨学金」97名、「小野國嗣基金奨学金」5名であった。また、東日本大震災で被災した学生の学業継続を目的とした学費減免措置を実施した。被災規模に応じて減免額を縮小し、2013年度はさらに家屋の被害が全壊・半壊を対象とし、対象学生54名に対して支援額は総額1,780万円となった。これについては保証人会および校友会からの支援を受けた。

(b) 創立150周年を機に、1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）以外からの入学者向けの新たな奨学金制度を創設し、また留学生奨学金の大幅な拡充を進める。この財源として、大学第3号基本金の拡充を図ると共に、今後の大学寄付制度の見直しを検討する。

(c) 既設の大学奨学金制度のさらなる拡充を図る。

⑧ 一貫教育の充実と地域への貢献

(a) 高大連携の充実

入学前教育として、2012年度に引き続き、教養教育センターと系列校2校との連携の下、高校と大学の学習を接続するための試み「J.C.バラ・プログラム」を実施した。また、東村山高等学校設置科目「アカデミックリテラシーⅡ」への協力を2012年度に引き続き行った。その他、法学部、社会学部および国際学部において高等学校生徒科目等履修生（対象高校：明治学院、田園調布、横浜桜陽、横須賀明光）の受け入れ制度を継続実施した。さらに、横須賀明光高校国際科の「総合的な学習の時間」に本学の国際ボランティアサークル「ぽけっと」を派遣した。

また、2009年度に開始した捜真女学校、玉川聖学院、横浜英和女学院との教育連携について、2013年度も3校限定オープンキャンパスの開催、推薦入学試験の実施、キャリアセンター職員による講演、出張講義等を行った。2014年1月には、上記連携3校の校長と本学副学長との懇談の場をそれぞれ個別に設け、今年度の教育連携事業について総括を行うとともに次年度に向けての協議を行った。

(b) 港区との連携推進

- 1) 都市部の地域コミュニティにおいて核となって活躍する地域リーダーを養成することを目的として地元港区から委託された「チャレンジコミュニティ大学」は、2013年度も1年間の課程を終えて第7期修了生を地域社会に送り出した。施設見学を含む社会福祉分野に重点に置いたカリキュラムなど年間約70コマで構成されたプログラムは充実しており、2007年度以降の修了生を会員として構成される「チャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）」も活動6期目となった。港区および本学の支援を受けながら様々な活発な活動をおこない、その結果は毎年度末に開催される活動報告会とシンポジウムで発表され、行政をはじめ各方面から高い評価を受けている。
- 2) 港区高輪総合支所との連携により、港区在住者を対象とした「無料法律相談会」を白金祭時に実施した。これは本学法学部教員・学生・卒業生で組織する「白金法学会」に属し法律実務に就いている卒業生でつくる「白金士業倶楽部」の全面的な協力のもとに行われるものであり、2013年度で第8回目を数え22組25件の相談があった。港区との連携事業としても、継続的なものとして評価されている。
- 3) (財)港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）との協働連携により従来から実施されている「港区民大学講座」は、「現代社会における居場所－より豊かな人生のため－」（企画：心理学部附属研究所）をテーマに講座が開かれた。
- 4) 社会学部附属研究所が子育て支援を通じた地域づくりである「港区地域こぞって子育て懇談会」も引き続き継続されている。
- 5) 地球環境保全への取組である「みなと環境にやさしい事業者会議（mecc）」の活動への参加も8年を経て、環境行政に寄与している。
- 6) 「港区教員養成大学講座」も2007年度以来引き続き実施されており、本学は例年同様心理学部教員による講義が行われた。
- 7) 港区高輪地区総合支所の独自事業、「地区内大学生防災ボランティア養成講座」では、北里大学、東海大学とともに本学学生から多くの参加者があり、地域住民協働によるコミュニティ活性化に一役買った。2013年は、3年間の事業の2年目である。

(c) 小諸市との連携推進

2006年度に締結された包括連携協定に基づき、次のような具体的協働連携事業が定着している。

- 1) 学生参加による小諸ワークボランティア  
2013年度は、高・大キリスト教一貫教育として実施し、高校からも初めての参加者があった。（参加者：大学2名、高校5名）
- 2) 「藤村忌」への大学関係者の参加
- 3) 戸塚まつりおよび白金祭への小諸市観光物産紹介参加
- 4) 小諸市小学生のクリスマスツリー点灯式参加
- 5) 子どもとその家庭に対する地域の支援力向上を目標にした「明治学院小諸大学」の実施
- 6) 本学学生・教員による小諸市をフィールドとした調査研究活動の実施

(d) 横浜キャンパスにおける連携推進

- 1) 2013年10月25日付で横浜市戸塚区との連携協力に関する基本協定を締結した。これにより、教育・文化・地域の活性化等の分野において連携協力を推し進めることとなった。
- 2) 2014年1月17日付で戸塚区役所と学校法人明治学院として戸塚区災害ボランティア活動拠点の設置に関する協定を締結した。
- 3) 戸塚区役所が主催する「戸塚駅周辺混乱防止対策訓練」に本学体育会学生30名が参加した。
- 4) 地域・学生・教職員が協働で創る第16回「戸塚まつり」を開催した。大学企画として行ったチャペルコンサートにおいて、鎌倉女子大学の音楽系サークルにゲスト出演いただいた。
- 5) 戸塚まつり同日に明学企画EXPOの一つとして、栄区との連携による本学教員の講演会（開催場所：栄区あーすぶらざ）を開催した。
- 6) 横浜市資源循環局、不動産仲介業者「リスト」、FM戸塚との連携による第2回「スポーツGOMI拾い大会」を学生部と共同で開催し、体育会を中心とした課外団体、近隣の方々、そして職員が参加した。
- 7) ヘボンフィールドを使用する「明学スポーツを強くするプロジェクト」の各団体の協力により、本年度も秋季公式戦ガイドブックを作成し、近隣約800世帯に配布した。



- 8) 「戸塚ふれあい区民まつり」「戸塚大踏切デッキ完成イベント」にチアリーディング部がゲストとして招かれ演技を披露した。
  - 9) 宗教部と共同した「クリスマスツリー点灯式」において、近隣に案内を送付するとともに、昨年度に引き続き倉田小学校3年生と、今年度は新たに豊田中学校生も招待して演奏披露をした。
  - 10) 国際学部附属研究所による明治学院創立150周年記念公開講座（テーマ「音で聴く歴史と国際関係－戦争と平和－」）を戸塚区民文化センターさくらプラザホールにて開催した。
- ⑨ 日本近代音楽館の一般公開
- (a) 150周年記念事業「五線譜に描いた夢 ― 日本近代音楽の150年」展  
 場所：東京オペラシティアートギャラリー  
 会期：2013年10月11日～12月23日  
 主催：公益財団法人東京オペラシティ文化財団、明治学院大学、NHKプロモーション、日本経済新聞社  
 来場者数は8,547名。図録の販売数は927冊で会期終了後も継続して販売される。その他会期中のイベントとして、展覧会会場およびオペラシティ内の近江楽堂でミニコンサートを計8回開催した。
  - (b) 旧音楽館から引き継いだ図書館システムのリニューアルを実施し、2014年度にデータを整備した後、OPAC（蔵書検索）の一般公開を目指すこととした。その他に『館報』第2号の刊行（12月）と第2回レクチャーコンサートを開催（3月）した。
- ⑩ 外部研究資金の獲得  
 P13①教育目標の明確化と教育改善(c)(d)参照

## 【その他の特記事項】

### ① 図書館サービスの充実

- (a) 学修支援のための教員・関連部署との連携推進
  - 1) 学生スタッフによるピア・サポート（学生が相互に学び成長する活動）  
 入学前バラ・プログラムやオープンキャンパスツアーなどで、下級生に「大学生の学び」を案内する活動に加えて、2013年度は、新入生向けのアスクカウンター（4月実施のみ227件）や大学院生による学習相談（50件）など、初歩的なことに躓いている学生が、上級生に気軽に相談できる相談デスクの活動を展開した。
  - 2) 教員連携の「授業内図書館サポート」（図書館ガイダンス）の推進  
 図書の探し方など初級レベルについては、動画によるセルフラーニング・コンテンツを提供し、教員が授業で利用できるツールを拡大した。また昨年度同様、学部学科の共通科目や、各教員担当科目、アカデミックリテラシー、入学前バラ・プログラムなど、教員との連携による図書館ガイダンス（白金は、44回848名参加。横浜は、78回1,868名の参加）も積極的に実施した。白金で実施した図書館主催講習会は、57回152名参加した。横浜で実施した図書館散策の参加者人数は、773名となった。
  - 3) モバイル対応の推進  
 Apple社製スマートフォンやタブレットによる印刷を可能とした。また新しく設置したBIGPAD（大型タッチ式ディスプレイ）は個人のパソコンやタブレットを投影できるようにするなど、モバイル対応サービスの拡充を図った結果、555件の利用があった。
  - 4) 学生への開放時間の延長  
 2012年度は年間を通して開館時間を一律午前9：00へ延長したが、2013年度は更に白金図書館の開館時間を午前8：45として、授業開始前の開放時間を15分延長した結果、入館者数が2,077名増加した。
  - 5) 学生選書  
 15名の学生による学生選書を実施した。図書の選定とPOP（選定図書のキャッチコピーや説明文を記したものの）の作成を書店で実施し、その後POPを持ち寄っての座談会も催した。選定図書はPOPとともに白金・横浜両図書館に展示した結果、2013年度は前年度に比べ62冊増の151冊の貸し出しとなった。  
 近年、文科省より大学図書館に「大学生の主体的な学び」を支援する中心的役割を担うことが図書館に求められている。図書館では数年前より、人的支援および学習環境整備の両面において図書館サービスの充実をはかるための活動を積極的に進めている。  
 特に、教員と連携して「学生の主体的学習のための基礎教育」をおこなう「授業内図書館サポート」は文献探索方法を学ぶ図書館ガイダンスとして20年以上の実績があるが、数年前より、学生の情報リテラシー能力や論文作成能力の向上をはかる学部学科の動きが活発になってきたことで、学科全員必修科目や、アカデミックリテラシー等共通科目において「授業内



図書館サポート」を実施する需要も増え、さらに教員との連携を強化して内容を改善しており、図書館では学修支援の軸となる活動として位置付けている。

(b) コレクションの充実と広報

1) 聖書和訳デジタル・アーカイブスの公開

旧神学部の資料を所蔵する東京神学大学図書館および日本聖書協会と連携し、2013年12月にWebページを公開した。各時代の和訳を比較しながらの閲覧が可能で、聖書と訳史を示す年表も掲載し明治期以降の和訳聖書の歴史と明治学院との深い関わりを示すサイトとなっている。

2) 「絵本とメルヘン」コレクション目録作成

「絵本とメルヘン」コレクションの資料について、資料群の特性とコンセプトが明確になるような詳細な目録作成を専門知識のある人材を投入して行った。

3) 機関リポジトリのコンテンツ充実

登録コンテンツ数が1,000件に到達した。(9月)

また、学位規則改正(平成25年4月1日付)により、博士学位論文全文がこれまでの印刷公表に代えてインターネットによる公表が義務化されたため、機関リポジトリを利用した公表の検討を開始した。

4) 賀川豊彦・松沢資料館の目録データ化

目録作成対象の約1万件をおよそ5カ年で目録作成を行うことを目標とし、2年目の2013年度は2,384冊の図書の日録作成を完了した。

(c) 研究および学習環境の基盤整備

1) 大学における学びの変化に対応した学習環境の整備

<白金図書館>

グループでのディスカッションやプレゼン準備ができるアクティブな空間として、レイアウト変更可能な机と椅子やホワイトボード壁、BIGPADなどを備えた「グループ学習室」を図書館2階閲覧室に新設し学生に開放した。

<横浜図書館>

横浜図書館リニューアルの一環として、2013年度は1階ホールを学生が気軽に利用できる多目的なコミュニケーション・ラウンジ「りぶら(Library Lounge)」へリニューアルした。併せてBIGPADやホワイトボードも設置し、ランゲージラウンジ、TOEFLラウンジ、学修相談デスクなどの様々な活動で有効に活用された。今後は2015年春に全面リニューアルオープンを予定している。

2) セルフ・ラーニング用動画コンテンツの公開

OPAC検索や図書の探し方などの基礎については、動画コンテンツを春学期から公開し、セルフ・ラーニング環境の充実を図った。

3) 英語版図書館Webサイトのリニューアル

2011年度に実施した日本語版Webサイトのリニューアルに続いて、2012年度から2013年度は英語版Webサイトをリニューアルした。

(d) 地域交流と危機管理

1) 図書館の地域開放

横浜キャンパス近隣の上倉田町および下倉田町在住者を対象とした図書館の地域開放は2年目を迎え、本学図書館の蔵書利用ニーズに応えた。2013年度は、前年度に比べ2名減少の28名であったが利用回数は17回増加し109回となった。

2) 横浜市戸塚図書館との連携

横浜市戸塚図書館と「蔵書構築の充実、資料寄贈の協力、明治学院大学資料の収集」等に関する連携協力を2013年度より開始した。本学から「明治学院大学より寄贈」の顕彰を貼付した専門図書39冊の寄贈に併せて、10月23日に戸塚図書館長と明治学院大学図書館長による贈呈式が戸塚図書館で執り行われた。寄贈図書は11月1日から2週間特設コーナーに展示された。2014年3月より戸塚図書館の「利用者懇談会」のメンバーとして参加することになった。

3) 図書館の危機管理および防災体制の確立

危機管理の面から、8月の入館ゲートの更新時に退館ゲートも設置し、在館者の特定と人数の把握を可能とした。

(e) 明治学院150周年記念「明学EXPO2013」企画への参加

1) 「宣教医ヘボン～ローマ字・和英辞書・翻訳聖書のパイオニア～」展

場 所：横浜開港資料館 会期：2013年10月18日～12月27日

主 催：横浜開港資料館 共催：学校法人明治学院、横浜市教育委員会

資料協力：明治学院大学図書館、明治学院歴史資料館

来場者数：10,021名

- 2) 「横浜のヘボン先生と明治学院」(図書館独自展示)を開港資料館1階ホールと記念室にて同時開催

＊ヘボン邸ジオラマ展示『横浜外国人居留地39番地ヘボン邸』

ジオラマ製作は、NHK朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」で話題の山本高樹氏に依頼し、2013年7月の山本氏の展覧会(横浜高島屋、新潟三越)でお披露目の後に10月18日より横浜開港資料館1階ホール中央に展示した。

- 3) 「横浜散策・ヘボン先生の足跡」ウォークイベント

6回の開催で350名が参加した。

- 4) トークイベント

高橋源一郎国際学部教授と水道橋博士によるトークイベント「楽しい読書」は250名が来場した。

## ② 校友センターによる校友サポート

- (a) 校友会Webページからの情報提供の充実、5月よりスタートした月1回(25日)配信のメールマガジンサービス、校友会報誌(年2回発行)、150周年特集リーフレットの送付等の校友に対する情報提供の充実を図った。
- (b) 卒業10年ごとに母校にご招待する「校友の集い」を開催(参加者数222名)、各道府県で開催する「各地校友会」を8ヶ所で開催(参加者数148名)。また、2008年度から開催している「ヘボン塾校友講座(全7回)」では、本学卒の偉人3名(植村正久、島崎藤村、賀川豊彦)をテーマとして取り上げた。この講座はキリスト教研究所と共催で、母校への理解を深め、校友が明治学院のアイデンティティを共有することを目的としている(受講者数50名)。  
大学の留学生宿舎で留学生支援プロジェクト(全6回)が開催された。内容は日本の文化を校友が指導することを目的とし、華道・茶道・書道・日舞(参加者数40名)を指導した。
- (c) 2013年度は150周年企画として、①校友センター主催でチャリティーコンサート(パイプオルガンとトロンボーンアンサンブルの響演)「Song For Japan」を開催した(入場者数430名:チャリティー金額213,421円)②明治学院に伝わってきたカレッジソング(楽譜化されていたが音源として残っていなかった曲)をCD録音として音源化した(全20曲)。
- (d) スポーツを通して全国の知名度を上げる、全国の校友に大学の存在を意識してもらう等を目的にスポーツプロジェクト(学内体育会6クラブの支援プロジェクト)に対する協力をスタートした。成果が上がったクラブに対し、初年度は前年の成績を加味して、サッカー部とラグビー部に資金援助を行った。
- (e) 卒業生情報において、明治学院同窓会が保有する卒業生データ(大学部分)と校友会データを一本化し、2014年度に新規導入する「電話番号使用履歴データベースシステム」へと繋げた。
- (f) 全卒業生を対象とした卒業記念食事を2013年9月と2014年3月に開催した。

## ③ 広報活動の展開

- (a) 明治学院創立150周年の広報活動
  - 1) 記念事業・行事の推進のため、法人や系列校、校友センター・同窓会とも連携して、150周年記念Webサイト<<http://mg150.jp/>>をリニューアルし、プレスリリースを積極的にを行い、記念イベントを包括的に広報した。
  - 2) 社会的な存在価値を際立たせる広報展開として、日本赤十字社との「ボランティア・パートナーシップ・ビヨンド150」共同宣言のメッセージを全国紙に掲載し、各方面から反響が寄せられた。
  - 3) 白金、横浜キャンパスに150周年を周知させる記念装飾をおこない、学生生徒や父母、教職員、来訪者が周年を実感できるようビジュアルでPRした。
- (b) 大学Webサイトのリニューアル  
明治学院大学の教育理念や学部学科の教育研究を今以上に社会に発信するため、2014年度の公開を目標に、大学Webサイトのリニューアルに着手した。
- (c) 学内の意識の共有をはかる広報
  - 1) 横浜キャンパスでデジタルサイネージ(電子掲示板)の活用を開始した。
  - 2) 150周年記念行事を包括する特別冊子と“Do for Others”を実践している卒業生を紹介する冊子を発行し、学生や教職員に配布した。
- (d) 横浜キャンパスにおける明学EXPO
  - 1) 江ノ電バスのラッピングデザインを公募し、最優秀作品を実車化。2013年4月より1ヵ年、横浜市内を運行した。
  - 2) 戸塚まつり開催時に栄区とタイアップした本学国際学部教授による講演会を開催した。
  - 3) エコキャンパスうちのデザインを公募し、最終作品および第3位までの作品を製品化した。うちは学内シェアリング利用とし「うちわステーション」を設置した。
  - 4) 明治学院生協(含む生協学生委員)とタイアップして、創立150周年オリジナルメニュー2

品(「MGステーキボウル」「MGチーズカレー」)を開発した。期間限定でこれらを150円で提供。約3200食の提供となった。売上金の一部は東日本大震災被災地復興支援活動費用として、生協学生委員より、ボランティアセンターに贈呈した。

5) 横浜キャンパスヒストリーブックを作成した。

#### ④ 災害対策の整備

2012年度まで実施してきた災害対策を2013年度は以下のとおりさらに推進した。

- (a) 備蓄に関しては、食料は、白金キャンパス約14,000食、横浜キャンパス約10,000食。食料とは別に帰宅時に携帯できる補助食を全体で3,200食購入。今後これを増加していく。水は、白金はペットボトルの他本館B3Fの受水槽を活用することで大幅に増加。横浜も新たに井戸を設置し、災害時のトイレ用中水を確保した。携帯トイレ(薬剤)は、白金・横浜とも42,000個購入し、2日以上以上の長期にわたる場合に設置する簡易式パクトトイレへの繋ぎとして準備した。新たに充電式液晶テレビを総務部、横浜管理部に各2台ずつ設置、また、手回し充電非常用ラジオを白金・横浜の全事務室に1台ずつ配置した。今後、水・食料・ブランケットといった基本備蓄品を3日分確保できるようスペースの確保とともに進めていく。
- (b) 白金キャンパスでは、2013年度は図上訓練を含む部分的な訓練を実施した。また、応急救護訓練を白金・横浜とも実施したほか、横浜は地震発生を想定した身の安全確保を目的とした訓練も実施した。次年度に向けては、警備、設備とも連携した全職員による総合防災訓練や同じキャンパスにある高校との合同訓練も実施できるよう進めていく。
- (c) 2013年度は学生の安否確認システム登録を促進させる取り組みを実施し、一定の成果があった。また、学生向けの携帯用大地震対応マニュアルを更新した。2014年度4月に学生全員へ配布予定。教職員安否確認システムを第一段階として職員の登録を進めた。今後教員およびその他の職種へ広げていく。緊急時に一斉連絡方法として、職員管理職への携帯メール連絡体制を構築しているが、今後職員全体またその他教職員への拡大が可能かを検証していく。
- (d) 横浜キャンパスにおける震災対策
  - 1) 神奈川県が主催する「かながわシェイクアウト(いっせい防災行動訓練)」に参加登録し、9月5日に防災行動訓練およびキャンパス独自訓練を実施した。
  - 2) 災害時用備蓄品として、ソフトライトを搭載した手回し充電ラジオを31台購入し、各部署に配布した。
  - 3) 戸塚まつり、オープンキャンパス、大学入試時におけるそれぞれの初動シートを作成・更新し、有事の際は的確な初動が出来るように備えた。

#### ⑤ ボランティア活動の支援と展開

- (a) 日本赤十字社との共同宣言と明学レッドクロスの発足  
創立150周年の節目を迎えた日本赤十字社と明治学院は、2013年4月にボランティア活動への参加を呼びかけた共同宣言を発信し、ボランティアパートナーシップを結んだ。これを受けボランティアセンターに学生活動グループ「明学レッドクロス」が発足した。ボランティア啓発イベントとして「JOIN! 赤十字はあなたを待っている」を本学で開催した。更に被災地の子どもたちに北海道ルスリゾートで数々の活動を体験してもらう「サマーキャンプ」、年末恒例の「NHK海外たすけあい」への企画から募集までの参加など多様な活動を実施した。
- (b) 1 Day for Others 1日社会貢献活動入門  
1 Day for Othersは本学の教育理念である“Do for Others”を実践しているイベントの1つとして定着しつつある。ボランティア活動、NPO・NGO、社会起業家、企業による社会貢献活動について学ぶ機会を提供し、1日ボランティア・インターン(実習)を通して社会や地域の仕組みを知るプログラムである。2013年度から、卒業生や保証人の協力を得て、プログラム数を前年の48から61に増やし、567名の学生が参加し、プロジェクト全体の運営にも学生が加わった。150周年を記念して参加した学生の感想文集を編纂した。
- (c) 復興支援活動「Do for Smile@ 東日本」の展開とヘボン吉里吉里未来塾の開催  
3年目を迎えた課題は活動の質的な「広がり」と「深まり」であったが、「深まり」に関しては、創立150周年記念事業の助成を得て年間12回の特別講座およびワークショップ「ヘボン吉里吉里未来塾」事業が果たした役割は大きく、参加学生が学びの促進をする事により、有機的な展開が可能となった。「広がり」としては留学生や聴覚障がい学生が活動に参加し、岩手県大槌町吉里吉里、岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市の3プロジェクトを融合させて、お互いが活動する被災地を巡る合同スタディツアーを実施した。また、台風により被害を受けた伊豆大島の支援活動にも参加した。東日本大震災発生当初より、学習支援を行っている吉里吉里中学校の3年生が、修学旅行の一貫として本学を訪問し、伝統芸能「虎舞」を披露した。
- (d) 地域活動  
防災意識の高まりにより、支援活動に携わる学生が地域の「防災ボランティア」養成講座を受講し、近隣の小学校の避難訓練をサポートした。環境問題については、通学路のゴミ拾いを

する「どうせ登校するなら」やペットボトルキャップの収集、福祉施設における障がい者支援、個別学級支援など幅広い活動を展開している。

(e) 国際的な活動

2013年9月に学生12名がカンボジアを訪問して、貧困や就労問題、伝統工芸の復活などへのNGOや社会起業家の取り組みを学んだ。2014年2月には、大学の国際交流の一環として、14名のボランティア学生をトルコに派遣し、現地のNPOの活動に参加した。また、「国際機関実務体験プログラム（100時間以上かつ15日間以上のボランティア活動）」（横浜市国際交流協会、受け入れ先である国際機関、学生を派遣する本学を含む横浜市内の4大学協働）を実施し、JICA横浜と横浜市国際交流協会に各1名派遣した。

(f) ボランティアファンド学生チャレンジ賞

「社会課題にチャレンジ」をテーマとし、応募した6団体全ての助成が決定した。1Day for Others、国際機関実務体験プログラム、授業のインターンシップの学びを通しての発展した内容が多い。

(g) 学生のボランティア参加に関する調査

2013年度で13回目を迎えた本調査は2,691名の新入生から回答を得ることができた。大学時代にボランティア活動に参加希望者も1,943名（71.8%）に増加した。ボランティア希望理由でもっとも多いのは「新しい出会いや経験を得たい」950名（48.9%）、「ものの見方や考え方を広めたい」907名（46.7%）と自己啓発目的の動機が多い。

(h) 企業との協力による助成事業の促進

第13回「ソニーマーケティング学生ボランティアファンド」の事務局を担当するとともに助成団体選考の一次審査にも加わり、新たに助成決定団体対象に企画発表会を実施した。なお、本事業は2013年度をもって終了した。

(i) 情報発信力の強化

ボランティアセンターのWebページを全面更新し、Twitter、Blog及びFacebookによる情報発信を可能にした。

⑥ 横浜キャンパスの通学手段の改善

学生の通学における利便性の向上のため、専用スクールバス導入のための検討を開始した。

専用スクールバスを運行させるためには戸塚駅周辺にバスの発着所を確保する必要があり、明治学院サービスの協力を得て、候補地の抽出および土地所有者との具体的な交渉も行った。その結果として、戸塚駅西口バスセンターの利用が一番現実的であると判断し、同バスセンター管理者の横浜市、戸塚区およびバス会社との交渉を今後も続けていく。

⑦ キャンパスの施設設備の改善

(a) 白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み

1) 白金キャンパスのグランドデザイン

P9⑥白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み(a) 参照

2) 地球環境問題への取り組み

白金キャンパスは東京都のCO2対策事業所に指定されており、CO2削減化を計画的に実施する。照明器具の定期更新に合わせ、本館南ウイング教室及び事務室等をLED照明に更新した結果、工事範囲の消費電力は前年度比40%の節電が行え、その他改善（運用含む）等も合わせCO2排出量も全体で7%削減することができた。2013年度は、全4期計画中のⅡ期工事を行った。

3) 横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み

P10⑥白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取り組み(b) 参照

(b) 横浜キャンパス向上計画の進捗状況

1) 福祉車両1台の購入。

2) キャリアセンター事務室を1号館から5号館2階に移動。

3) キャリアセンター移動により空いた1号館跡地を会議室に改修。

4) ハラスメント支援センターをB館より1号館旧共同応接室に移動。

5) 図書館1階ブラウジングコーナーをコミュニティラウンジ「Library Lounge」（通称：りぶら）としてリニューアルオープン。

6) デジタルサイネージ（電子掲示板）システムを導入し、キャンパス内6箇所にモニタを設置。

7) 事務室等の窓に網戸を設置。

8) 体育館照明のLED化。

(c) ICTの推進（情報センター）

1) 無線LANエリア拡張

横浜校舎6号館全域と横浜校舎研究室エリアをカバーした。

2) スマートデバイス対応

学生ポータル（ポートヘボン）をスマートフォン対応のシステムにリニューアルした。  
また、iPhone・iPadから図書館設置のオンデマンドプリンタへの印刷を可能とした。

3) コンピュータ実習室の更新

白金キャンパスは7B03実習室、横浜キャンパスでは310・311・320・321・510・831実習室のパソコンをリニューアルした。なお、831実習室はiMacを導入し、横浜キャンパスの514実習室は語学自習用としてCALLソフトが利用できるパソコンの設置とグループ学習用スペースに改修した。

(3) 教育研究の概要

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

学部、学科等の名称については、第1章「2設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員」に記載のとおりである。

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

教員数については、第1章「5設置する学校の役員数・教職員数」に記載のとおりである。教員の保有学位や研究業績については、ホームページで公開している。

③ 学生に関する情報

明治学院大学では、カリキュラム・ポリシー、ディプロマポリシーおよびアドミッション・ポリシーを定め、Webページ等で公開している。このうちアドミッション・ポリシー（入学に関する基本的な方針）については、学部学科、大学院研究科専攻ごとに以下のとおりである。

＜文学部＞

言語・文学・芸術への志向をもつ学生がもてめられる。

一般入試及びセンター入試では基礎的学力を身につけた学生を選抜する。

これに加えて、各学科の専門性に即した、自己推薦入試（AO入試）によって、基礎的学力以外の各専門分野における能力・適性をも発掘するものである。

【英文学科】

英語を情熱をもって学び、英語圏の文化や文学作品、あるいは言語についての探求を通じて自らを養い深めるだけでなく、自らの様々な殻を破り、外の世界へとところを広げようとする学生、またそのための地道な努力をいとわない学生を求めている。

そのために自己推薦のAO入試、とりわけ同入試の（B）制度を重視し、（A）制度が比較的英語能力の高い受験生を優先するのに対し、（B）では面接と同時に英語でのエッセイ執筆を課し、受験生の大学での勉学に対する意欲と態度を評価している。

【フランス文学科】

フランス語圏の言語、文学、歴史、芸術、思想を窓口として、広くヨーロッパの文化を学びたいという意欲をもつ学生を受け入れる。常識にとらわれず、自国の文化とも英語圏の文化とも異なる、多様で刺激に満ちた文化のありように心を開くことのできる人材を募るため、一般の筆記試験による選抜のほか、自己推薦入試（AO）を実施して、独創的な発想と感覚をもった学生を選抜する。さらに指定校推薦入試、三年次編入学試験、社会人入学試験を実施し、さまざまなバックグラウンドをもつ者を求めている。自己推薦入試、指定校推薦入試についてはフランス語既習者枠を設け、すでにフランス語の基礎を習得し、さらにその知識と理解を深めたいという意欲のある者に門戸を開く。

【芸術学科】

実技者を養成することを目的とせず、芸術への好奇心や関心の芽生えを大切に育むという基本方針に基づき、一般入学試験に重点を置きつつ、多様な適性と能力を持った学生に広く門戸をひらく選抜方法をとっている。学生の潜在能力を引きだし、芸術への新たな視野を提供する学科として、自己推薦AO入学試験をふくむ多様な入学試験科目を維持することは重要である。

また、芸術を通じて、広く人間の考える力・見る力・聴く力・味わう力を高め、社会と文化に対する知的好奇心と批評的視野を養い、育ててゆくという教育目標を実現するために、芸術学科では、入学前の段階で得ている知識や技能を過大評価することなく、学科教育において、1年次から丁寧に指導してゆくようにつくられたカリキュラムの編成をしている。そのようなカリキュラムが最大限に生かされるのも、一般入学試験を中心とした多様な選抜方式によって多様な個性を持つ学生が入学し、新たな環境のもとで「芸術」を学ぶ場を共有すればこそである。

特別入学試験においては、自主性や向学心の有無などのほかに、学生の可能性や潜在能力に注目し、面接と小論文を重視する姿勢をとる。

＜経済学部＞

経済学に関する知識そのものは特に必要としないが、幅広く、日本を取り巻く経済・企業に

対して興味と関心を持っていることが望まれる。そのためには、高等学校で学ぶ基本的科目をまんべんなく勉強してあることが期待される。他人とのコミュニケーションのために、自分の考え方を表現できることも重要である。なお、特別入試合格者に対しては、通信教育による入学準備プログラムを用意し、自主学習の機会を提供している。

#### 【経済学科】

教育目標に基づき、入学者として以下のような人物を求めている。

1. 高等学校で学習する国語・外国語・公民・歴史・数学などについて、基本的な内容を理解している。
2. 経済問題を始め、現在・過去の様々な問題に関心を持ち、自ら問題関心に基づき主体的に探究する意欲がある。
3. 演習・実習に積極的に参加し、人とのコミュニケーションを大切にする。

#### 【経営学科】

経営学科の入学者としては、以下のような人物を求めている。

1. 高等学校で学習する国語・外国語・公民・歴史・数学などについて、基本的な内容を理解している。
2. 経済問題をはじめ、現在、過去のさまざまな問題に関心を持ち、それらを主体的に探究する意欲がある。
3. 演習・実習に積極的に参加し、人とのコミュニケーションを大切にする。

経営学科では、経営学の三領域に関心をもつ上記の人物を確保するため、多様な入試制度を設ける。

一般入試では、高等学校での学習内容について確かな学力を有する人物を、推薦入試では、本学科への進学意欲が高く、高校時代の学習実績（やコミュニケーション能力）の良好な人物を受け入れる。また、留学生を積極的に受け入れるために、私費外国人留学生入試を実施する。

#### 【国際経営学科】

高等学校の卒業に必要な単位を修得済みまたは修得見込みであり、「国語」および「英語」に相当の力を有していること、かつ、「世界史」「日本史」「数学」のいずれかに秀でていることが望まれる。

経済問題および企業を取り巻く諸問題に関心を持ち、自ら主体的に探究する意欲を有していることが望まれる。

異なる価値観および文化的背景を理解できることが望まれる。

#### ＜社会学部＞

社会学部では、教育目標と教育上の方針を実現するため、多様な能力や社会現象・社会問題への関心を持った学生を求めている。さまざまな経験を持った学生が共に学ぶことが、他者との出会い、社会への理解にとって重要だと考えているため、従来から高校新卒者だけではなく、広く現場を知る社会人や海外からの留学生を受け入れる。

#### 【社会学科】

本学科が目指す教育は、すでに見知った者であれ、まだ見知らぬ者であれ、「他者」への関心を育むことから始まる。先ず「他者」という問題がはらむ多様な葛藤に気づくことが必要である。次いで直感的な気づきから深い理解への道を自己の課題として引き受ける姿勢が求められる。そして、発見し追求した事柄を今度は具体的な他者を前に、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと願っている。本学科は、大学生活を通じてそのような〈力〉を身につけ、社会に羽ばたきたいと願う学生を求めている。いくつかの資質を挙げてみよう。《a・知的好奇心と探究心》《b・柔軟な思考と創造的アイディア》《c・経験を生かした構想力と表現力》漠然と思い描く未来像の中に、これらの〈力〉を自分の資質として見出し、努力したいと感じられる人こそ社会学科が求める大学生である。

#### 【社会福祉学科】

広く社会福祉の理論と実践に関心を持ち、自らの力で学ぶことを継続できる人の入学を期待している。2年次から学生の希望に応じて二つのコースに分かれるので、受験希望者にはオープンキャンパスやホームページ、パンフレットなどを通じて二つのコースの具体的なイメージやカリキュラムの違い、卒業後の進路などについて詳しい情報提供を行うよう努めている。

入試の方法は、推薦入試と一般入試によって入学者を受け入れる。特に推薦入試では論文や面接試験などを行い、入学の動機を明確に持ち、自分自身の将来への展望を持った学力の優れた学生の入学を期待している。AO入試に関しては、次のいずれかに該当する人の入学を求めている。①自発的であり、かつ単発でない社会貢献活動に優れた実績をもつ人、②広く社会福祉関連領域に関して、こうあるべきだ、こうしたい、というユニークなプランやプロジェクトの案をもつ人である。特別入試の合格者には課題図書を提示し、入学前教育を行っている。

#### ＜法学部＞

法学部の求める学生像は、上記の教育理念、教育目標に共感を覚える学生で、3学科共通して、社会貢献意欲の高い学生、目的意識・問題意識の高い学生、論理的な思考と適確な判断力を有する学生である。

**【法律学科】**

法律学科では本学科の教育目標に賛同し、自らの夢を実現する意欲のある受験生の入学を希望している。具体的には以下の通りである。

**1. 社会貢献意欲の高い学生**

明治学院大学は「他者への貢献 (Do for Others)」という理念を掲げており、法律学科でも法律という専門的知識を駆使し、社会と積極的にかかわりあらゆる機会を通して社会貢献を目指す意欲に満ちた受験生を求める。

**2. 適確な判断力を有する学生**

明らかな法律違反や社会的倫理・正義に反した行為を否定するという気持ちがコンプライアンス（法令遵守）にとっては重要であるところ、法律学科では、法律学を身につけた学生が社会に出て、法律や正義に反するといった自分が賛成し得ない場面に接したときに、「おかしい、反対である」と「声」を上げる勇氣と、自分の正しいと思うことを気概をもって筋道立てて主張できる能力・心、すなわちリーガルマインドを持った学生を育成することを目的としている。そのために、受験生には、自分が正しいと思うことを法律や正義に照らして適確に判断できる常識の持ち主であることを求める。

**3. 目的意識の高い学生**

法律は古い沿革を有しており、判例・学説の積み上げにより現在の法律が存在していることから、法律学は一朝一夕には習得できるものではない。したがって、法律学を志す受験生には、目的意識が明確で、目的達成に対する強い意志と忍耐力が求められる。

**【消費情報環境法学科】****1. 現代社会の問題に深く鋭い関心を持つ学生**

消費情報環境法学科では、現代社会において生起する先端分野の法律問題を扱う。そのためには、日頃より読書や新聞を通して問題意識を深め、現代社会の動きに関心を持つことが必要である。本学科における教育を有意義なものとするためにも、現代社会の問題に深く鋭い関心を持つ学生を求める。

**2. 論理的に自己の考えを伝えることの出来る学生**

どのような素晴らしい考えを持っていても、それが自分の頭の中だけにとどまっているのでは、宝の持ち腐れであり、社会的には意味を持たない。自らの考え・意見を持つことの重要性はもちろんのことだが、さらに、それを外部に対し文章や議論を通じて積極的かつ説得力を持って表現することが必要とされる。本学科においては、論理的に筋道を立てて自らの考えを伝えることの出来る学生を求める。

**3. 他者への目配りの出来る学生**

先にも述べたように、法の理念を現実の問題解決の場で実践するためには、周囲の人間・環境への配慮、弱者保護の視点が不可欠といえる。本学科においては、そのような配慮・視点を持つ、他者への目配りの出来る学生を求める。

**4. 新しい問題に臆することなく取り組む意欲のある学生**

本学科の学習の中心となる、消費者法、企業活動法、環境法の各分野においては、「従来の慣例」に従っていたのでは解決不能な新たな問題が生起している。また、問題解決の道具として用いるコンピュータ技術についても、日々進化している。先端分野の実践的な法律を、最先端のコンピュータ技術を活用して学ぶ本学科においては、これら新しい問題に新しい技術を用いて取り組む意欲のある学生を求める。

**【政治学科】**

政治学科では、上記の教育目標に賛同し、社会貢献の担い手となり得る受験生の入学を希望している。

**1. 「他者への貢献 (Do for Others)」という理念を理解し、実践する知性と意欲に満ちた受験生を求める。**

単に学校の成績が良いというだけでなく、ボランティア活動の実績や国際経験の豊富な人材を求める。

**2. 「教養ある政治的市民」の育成という政治学科の教育理念に共感し、在学中も卒業後も品位ある市民社会の一員として、積極的に社会とのかかわりを志向する人材を求める。**

国の内外を問わず、また事の大小を問わず、世の中の動きに対して常に新鮮な問題関心をもって取り組むことができる意欲ある受験生を求める。

**3. 「教養ある政治的市民」とは、具体的には、「言うべきときに言うべきことを言える人間」であり、さらには「言うべきことが言えない」境遇にある人びとに代わって発言する勇氣と、他者の境遇への想像力をもつ人間、ということである。**

そのような人びとが社会の中心を支えることで、今後の日本社会をより良い方向へと導く希望を共有できる受験生を求める。

**＜国際学部＞**

国際学部では、下記の特性を持つ学生を積極的に受け入れる。



1. 人間や社会に対する関心と探求心に富む人。
2. 自分の考えや意見を明確に表現できる人。
3. 社会に貢献する意欲のある人。
4. グローバルな社会で自分の将来を考えたい人。
5. 他の国の人々と共に考え、共に働くことに喜びを見出せる人。

#### 【国際学科】

国際学科では、下記の特性を持つ学生を積極的に受け入れる。

1. 人間や社会に対する関心と探求心に富む人
2. 自分の考えや意見を明確に表現できる人
3. 社会に貢献する意欲のある人
4. グローバルな社会で自分の将来を考えたい人
5. 他の国の人々と共に考え、共に働くことに喜びを見出せる人

#### 【国際キャリア学科】

国際キャリア学科では、下記の特性を持つ学生を積極的に受け入れる。

1. 学科の教育目標を充分理解している学生
2. 学科の提供するカリキュラムを充分消化しうる意欲と基礎学力を有する学生(特に下記の能力)
  - 複合学問によって問題を理解する能力
  - 問題解決に対して貢献・参画する能力
  - 多様な人々と共同作業をする能力
  - 充分な英語の基礎能力

#### 《心理学部》

1. 多様な現代社会の人々のこころの有り様や問題に興味・関心を抱いていること。
2. 心理学の学びを通して、人を支援する力を身につけようと望んでいること。
3. 個性に応じたキャリア選択をし、社会で自分を活かしながら有用な人材になろうと願っていること。

#### 【心理学科】

心理学部の教育理念「こころを探り、人を支える」の意義を理解し、入学にあたっては

1. 文系・理系に偏らず、こころを科学的に探求する意欲を持っていること、
  2. より良い人間関係とより良い社会を創ることに興味・関心を持っていること、
- を期待する。

#### 【教育発達学科】

教育発達学科のアドミッション・ポリシーは以下の3点であり、本学科で学ぶことを強く希望する多様な資質を持っている学生を受け入れる方針である。

1. 子どもの心の理解と支援に強い関心を持っていること。
2. 小学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員となることを強く希望していること。
3. ボランティア経験や国際交流経験などを有し、多様な人々とのコミュニケーションに興味・関心を持っていること。

#### 大学院

##### 《文学研究科》

博士前期課程・博士後期課程ともに、各領域において、高度な専門的学識を修得し研究能力を発展させる意欲と可能性のある学生を求める。それぞれの課程における各分野の研究に要求される学識・能力を確かめるために、必要な試験を行う。

#### 【英文学専攻】

##### 「博士前期課程」

英米文学・文化、英語学・言語学、英語教育学の各領域において、高度な専門的学識を獲得し研究能力を発展させる意欲と可能性のある学生を求める。研究に必要な語学力・学識を確かめる試験を行う。成績優秀あるいは卒業論文提出済みの本学学生の志願者については、面接試験のみを行う。

##### 「博士後期課程」

専門分野の学識・研究能力をさらに深め発展させる意欲と可能性のある学生を求める。研究に必要な語学力・学識を確かめる試験を行う。

#### 【フランス文学専攻】

##### 「博士前期課程」

フランス語と、フランスの文学・芸術・文化、またフランス語圏およびフランスとかかわりのある各国・各地の文学・芸術・文化について、高度な教養と見識を身につけるとともに文化的な領域で活躍する意欲と可能性のある者を求める。志願者には研究計画書を提出させ、また専門領域についての基本的な知識や語学力（第2外国語をふくむ）を確かめるための筆記試験、および面接試験を課す。



## 「博士後期課程」

上記の領域においてさらに高度な専門的学識を修得し、自立した研究者となるべく自らを鍛えていく意欲と可能性のある者を求める。志願者には修士論文の提出と面接試験を課す。

## 【芸術学専攻】

## 「博士前期課程」

映像、音楽、美術史、芸術メディアのいずれかの領域について、基本的な専門知識と感性および論理的表現力を持ち、研究計画に従ってその能力をさらに高め、社会および学界に貢献する意欲のある者を求める。志願者には基本的専門知識と研究に必要な語学力（2ヶ国語）の筆記試験、卒業論文ないしはそれに相当する論文の提出、および面接試験を課す。

## 「博士後期課程」

上記の領域について、さらに高度な専門知識と論文作成能力を有し、芸術への感性を磨くとともに自立した研究者となるべく自らを鍛えていく意欲と可能性のあるものを求める。志願者には修士論文の提出、面接試験、および英語以外の語学能力を見る筆記試験を課す。

## 《経済学研究科》

教育目標に基づき入学者として以下のような人物を求める。

## 「博士前期課程」

博士前期課程・博士後期課程ともに、各領域において、高度な専門的学識を修得し研究能力を発展させる意欲と可能性のある学生を求める。それぞれの課程における各分野の研究に要求される学識・能力を確かめるために、必要な試験を行う。

## 「博士後期課程」

博士前期課程で育成された深奥なる学術知識と研究能力を基礎に、更に各専攻分野において自立した研究者や、例えば研究所などで専門的職業人として働くことを目指している者。

## 【経済学専攻】

教育目標に基づき入学者として以下のような人物を求めている。

## 「博士前期課程」

- ・大学のカリキュラムによって修得された一般的教養の知識と経済学の専門的知識の上に、更に深奥なる学術知識を得て、研究者及び高度な専門的職業人を目指している者。
- ・研究を進め、高度な専門性を必要とする職業人を目指している者。

## 「博士後期課程」

博士前期課程で育成された深奥なる学術知識と研究能力を基礎に、更に自立した研究者や、例えば研究所などで専門的職業人として働くことを目指している者。

## 【経営学専攻】

## 「博士前期課程」

本課程は、学部で習得した経営・マーケティング・会計・ファイナンスのいずれかの専門的教養と外国語文献の読解力のうえに、明確な問題意識をもって、これら諸分野を意欲的に研究しようとする学生を受け入れる。

## 「博士後期課程」

本課程は、博士課程前期課程で取得した経営・マーケティング・会計・ファイナンスのいずれかの高い専門能力と外国語文献の活用能力のうえに、これら諸分野において自立した研究者に相応しい研究を行おうとする学生を受け入れる。

## 《社会科学研究科》

社会科学研究科では、専攻ごとにアドミッション・ポリシーを定める。

## 【社会学専攻】

社会学専攻の教育目標は、高度に専門的な知識と技能をもって現代社会に伏在する諸問題を発見し、探究しうる研究者の養成である。その理念をともに実現するために、出発点において入学者各位に期待する資質は以下の通りである。

- ・切実な問題関心を持つ者

知識は教えることができるが、それをどう我が物とし使っていくかは、学ぶ者が自分自身の明確な問題関心を持つかどうかにかかっている。何よりも、自分自身にとって解くべき切実な問題関心を持つ者の入学を期待する。

- ・研究への強い欲求のある者

社会学全般においてはもちろん、各個別分野においてであっても、これまでに蓄積されてきた知見には膨大なものがある。これらを体系的に学んでいくためには、多大な時間と労力が必要であることは言うまでもない。自らの研究のために多大な時間と労力を用いることを厭わない者の入学を期待する。

- ・表現する気概のある者

大学院はただ単に既存の知識を吸収するためだけの場ではない。先人たちによって蓄積された

知の、すなわち他者の表現を学ぶ者は、そこから新たな自分の表現を生み出す権利と義務を持つ。  
時代の先端に立つことを恐れず、自らの研究成果を発表する気概を持つ者の入学を期待する。

#### 【社会福祉学専攻】

本専攻の教育目標を共有し、かつ、社会福祉学に関する各専門領域の学問研究を体系的かつ計画的に学修する能力を持ち、人間全般に対する深い理解に立ち、専門的な実践力と思考力を備えた人材の養成に理解を示すことができる者。

ソーシャルワーカーのためのリカレント教育として入学する者にあっては、実践を研究に発展させる学びに主体的に取り組める能力を持つ者であること。

#### 《法学研究科》

法学研究科の入学希望者に対しては、以下の審査を実施する。

- ・第1に、修士論文、または、それに相当すると認められる論文をその分野の専門家が水準を審査し、博士論文を作成する潜在的な能力を有するとみとめられた者。
- ・第2に、語学試験によって、比較法・比較政治学研究が可能な能力を有しているかどうかを審査し、その能力を有すると認められた者。
- ・第3に、以上の審査に合格した者について、口述試験によって、3年間で博士論文を完成するための意欲、研究能力、勉学環境が整っているかどうかを審査する。

以上の審査にすべて合格した者だけが、法学研究科博士後期課程の入学を許される。

#### 《国際学研究科》

##### 「博士前期課程」

1. 人間や社会に対する深い関心と課題探求心を持つ人
2. 国際的な広がりをもつ環境ないし組織において専門的な仕事をしたい人
3. グローバル化時代における社会や人間のあり方に関する研究者を志す人

##### 「博士後期課程」

1. 人間や社会のあり方を深く探究しようとする強い研究意欲を持つ人
2. 国際機関あるいは国際性を持つ組織において高度の専門性が要請される職に就きたい人
3. グローバル化時代における社会や人間のあり方に関する研究者を志す人

#### 《心理学研究科》

心理学研究科のアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

##### 「博士前期課程」

博士前期課程では、幅広い視点に立った学識と専門分野における研究・実践能力を育むことを通して、研究者および高度の専門性を有する職業人に必要な能力を開発、育成する。そのために次のような人材を求めている。

1. 人のこころに興味を抱き、心理支援を中心とした心理学の専門分野において研究や実践を推し進め、職業においてその専門性を発揮したいと考えている人。
2. 大学の学部において心理学の基礎を習得し、より高度な心理学の専門性に興味と関心を抱き、心理学の理論や実践を身につけた研究者や実践家になることを希望している人。
3. 人、家族、地域といった空間的な場における、こころや対人関係の違いに興味を抱いたり、乳児、小児、学童、思春期、青年期、成人期、老年期といった時間的、発達のこころや対人関係の違いに興味を抱いたりし、そうした視点から心理学の専門性を身につけ、研究や実践に生かしたいと考えている人。

##### 「博士後期課程」

博士後期課程では、心理学の専門性をもってすでに活躍している研究者や実践家を指導することを望んでいる人、あるいは心理学の領域において、すでに博士前期課程程度の専門性をもっていて、さらに高度な専門性を高めた職業人になることを望んでいる人。

また、入学者数、収容定員、在学者数については、第1章「2 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員」に記載のとおりである。

2013年3月の卒業生数・卒業後の進路については、以下の表のとおりである。(2013年5月1日現在)

## &lt;大学&gt;

| 大 学              |                 | 合 計   |       |       | 文 学 部 |     |     | 経 済 学 部 |     |     | 社 会 学 部 |     |     | 法 学 部 |     |     | 国 際 学 部 |     |     | 心 理 学 部 |     |     |
|------------------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|-------|-----|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|
|                  |                 | 男     | 女     | 計     | 男     | 女   | 計   | 男       | 女   | 計   | 男       | 女   | 計   | 男     | 女   | 計   | 男       | 女   | 計   | 男       | 女   | 計   |
| 卒 業 者 数          |                 | 1,194 | 1,578 | 2,772 | 122   | 412 | 534 | 399     | 244 | 643 | 165     | 346 | 511 | 363   | 250 | 613 | 91      | 172 | 263 | 54      | 154 | 208 |
| 進<br>路<br>内<br>訳 | 就 職 者           | 833   | 1,215 | 2,048 | 68    | 299 | 367 | 295     | 206 | 501 | 125     | 291 | 416 | 262   | 193 | 455 | 60      | 126 | 186 | 23      | 100 | 123 |
|                  | 大 学 院 進 学 者     | 33    | 42    | 75    | 8     | 14  | 22  | 4       | 3   | 7   | 1       | 2   | 3   | 10    | 4   | 14  | 3       | 3   | 6   | 7       | 16  | 23  |
|                  | 大学・短期大学進学者      | 5     | 5     | 10    | 0     | 0   | 0   | 2       | 0   | 2   | 1       | 2   | 3   | 1     | 0   | 1   | 0       | 1   | 1   | 1       | 2   | 3   |
|                  | 専修学校・外国の大学等進学者  | 18    | 33    | 51    | 4     | 8   | 12  | 10      | 4   | 14  | 0       | 3   | 3   | 1     | 4   | 5   | 1       | 4   | 5   | 2       | 10  | 12  |
|                  | 一時的な仕事に就いた者(※1) | 27    | 37    | 64    | 4     | 20  | 24  | 8       | 3   | 11  | 5       | 2   | 7   | 2     | 3   | 5   | 3       | 5   | 8   | 5       | 4   | 9   |
|                  | 上 記 以 外 の 者(※2) | 171   | 172   | 343   | 25    | 47  | 72  | 45      | 21  | 66  | 25      | 36  | 61  | 53    | 29  | 82  | 12      | 23  | 35  | 11      | 16  | 27  |
| 不詳等(死亡を含む)       |                 | 107   | 74    | 181   | 13    | 24  | 37  | 35      | 7   | 42  | 8       | 10  | 18  | 34    | 17  | 51  | 12      | 10  | 22  | 5       | 6   | 11  |

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

(例) 進学準備中の者、就職準備中の者、公務員・教員採用試験・国家試験の準備中であるものなど。

## &lt;大学院&gt;

## (博士前期課程)

| 博士前期課程           |                 | 全研究科(前期) |    |    | 文学研究科 |    |    | 経済学研究科 |   |   | 社会学研究科 |   |   | 国際学研究科 |   |   | 心理学研究科 |    |    |
|------------------|-----------------|----------|----|----|-------|----|----|--------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|--------|----|----|
|                  |                 | 男        | 女  | 計  | 男     | 女  | 計  | 男      | 女 | 計 | 男      | 女 | 計 | 男      | 女 | 計 | 男      | 女  | 計  |
| 修 了 者            |                 | 17       | 35 | 52 | 5     | 12 | 17 | 1      | 2 | 3 | 3      | 4 | 7 | 2      | 2 | 4 | 6      | 15 | 21 |
| 進<br>路<br>内<br>訳 | 就 職 者           | 6        | 21 | 27 | 0     | 3  | 3  | 0      | 0 | 0 | 1      | 4 | 5 | 1      | 0 | 1 | 4      | 14 | 18 |
|                  | 大 学 院 進 学 者     | 7        | 4  | 11 | 4     | 4  | 8  | 0      | 0 | 0 | 1      | 0 | 1 | 1      | 0 | 1 | 1      | 0  | 1  |
|                  | 大学・短期大学進学者      | 0        | 0  | 0  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 0  | 0  |
|                  | 一時的な仕事に就いた者(※1) | 1        | 0  | 1  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0 | 0 | 1      | 0 | 1 | 0      | 0 | 0 | 0      | 0  | 0  |
|                  | 上 記 以 外 の 者(※2) | 2        | 6  | 8  | 1     | 2  | 3  | 1      | 2 | 3 | 0      | 0 | 0 | 0      | 1 | 1 | 0      | 1  | 1  |
|                  | 不詳等(死亡を含む)      | 1        | 4  | 5  | 0     | 3  | 3  | 0      | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 1 | 1 | 1      | 0  | 1  |

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

(例) 予備校等に所属せずに受験の準備をしている者、就職活動をしている者、家事手伝いなど。

## (博士後期課程)

| 博士後期課程           |                 | 全研究科(後期) |   |    | 文学研究科 |   |   | 経済学研究科 |   |   | フランス文学専攻 |   |   | 芸術学専攻 |   |   | 法学研究科 |   |   | 国際学研究科 |   |   | 心理学研究科 |   |   |
|------------------|-----------------|----------|---|----|-------|---|---|--------|---|---|----------|---|---|-------|---|---|-------|---|---|--------|---|---|--------|---|---|
|                  |                 | 男        | 女 | 計  | 男     | 女 | 計 | 男      | 女 | 計 | 男        | 女 | 計 | 男     | 女 | 計 | 男     | 女 | 計 | 男      | 女 | 計 | 男      | 女 | 計 |
| 修 了 者            |                 | 5        | 5 | 10 | 2     | 1 | 3 | 2      | 0 | 2 | 0        | 0 | 0 | 0     | 1 | 1 | 0     | 1 | 1 | 0      | 1 | 1 | 1      | 1 | 2 |
| 進<br>路<br>内<br>訳 | 就 職 者           | 1        | 2 | 3  | 0     | 1 | 1 | 0      | 0 | 0 | 0        | 0 | 0 | 0     | 1 | 1 | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 1      | 0 | 1 |
|                  | 大 学 院 進 学 者     | 0        | 0 | 0  | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0        | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 |
|                  | 大学・短期大学進学者      | 0        | 0 | 0  | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0        | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 |
|                  | 一時的な仕事に就いた者(※1) | 0        | 0 | 0  | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0        | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 |
|                  | 上 記 以 外 の 者(※2) | 0        | 1 | 1  | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0        | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 0      | 0 | 0 | 0      | 1 | 1 |
|                  | 不詳等(死亡を含む)      | 4        | 2 | 6  | 2     | 0 | 2 | 2      | 0 | 2 | 0        | 0 | 0 | 0     | 0 | 0 | 1     | 1 | 0 | 1      | 1 | 0 | 0      | 0 | 0 |

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

(例) 予備校等に所属せずに受験の準備をしている者、就職活動をしている者、家事手伝いなど。

## (専門職学位課程)

| 専門職学位課程          |                 | 法務職研究科 |   |    |
|------------------|-----------------|--------|---|----|
|                  |                 | 男      | 女 | 計  |
| 修 了 者            |                 | 23     | 6 | 29 |
| 進<br>路<br>内<br>訳 | 就 職 者           | 2      | 0 | 2  |
|                  | 大 学 院 進 学 者     | 0      | 0 | 0  |
|                  | 大学・短期大学進学者      | 0      | 0 | 0  |
|                  | 一時的な仕事に就いた者(※1) | 0      | 0 | 0  |
|                  | 上 記 以 外 の 者(※2) | 20     | 5 | 25 |
|                  | 不詳等(死亡を含む)      | 1      | 1 | 2  |

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

(例) 予備校等に所属せずに受験の準備をしている者、就職活動をしている者、家事手伝いなど。

## ④ 教育課程に関する情報

授業科目の名称や、授業の方法及び内容並びに1年間の授業計画の概要については、ホームページ等で公開されているシラバスに記載のとおりである。

## ⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

各授業科目の成績評価の基準は以下のとおりとしている。

成績表（成績発表として通知）には、全履修科目について、下記の評価（SからD及びN、F、R、I）を表示する。また、成績証明書には、合格科目（単位取得科目）についてのみ、科目名と評価を記載する。

| 合 否         | 合 格    |       |       |       | 不 合 格 |         |
|-------------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 評 価         | S      | A     | B     | C     | D     | N       |
| 評点(100点満点中) | 100～90 | 89～80 | 79～70 | 69～60 | 59～0  | 評価不能【注】 |

【注1】「評価不能」とは、試験未受験・出席不良等、当該科目の成績評価の前提条件を満たしていないと担当教員が判定したことを示す。

【注2】上記の表の他に、科目によっては成績評価の段階を定めないものがあり、当該科目の成績評価は合格をP、不合格をFとする。

※大学院（法科大学院を除く）はこの【2】は該当しない。

【注3】以上の他に、単位認定によるR評価（認定）、I評価（「明治学院大学学生国際交流規程」に基づく認定留学により得た単位）がある。

【注4】（2012年度までの入学生）2012年度までは評価不能はEで、2012年度までにE評価がついている科目については、そのまま残る。

なお、E評価はGPAに算入されず、N評価はGPAに算入される。

また、標準修業年限、卒業に必要な単位数及び取得可能な学位は以下のとおりである。

## &lt;大学&gt;

（2013年4月1日現在）

| 学科名     | 修業<br>年限 | 卒業に必要な<br>単位数 | 取得学位       | 学科名       | 修業<br>年限 | 卒業に必要な<br>単位数 | 取得学位      |
|---------|----------|---------------|------------|-----------|----------|---------------|-----------|
| 英文学科    | 4年       | 130単位         | 学士（英文学）    | 法律学科      | 4年       | 130単位         | 学士（法学）    |
| フランス文学科 | 4年       | 128単位         | 学士（フランス文学） | 消費情報環境法学科 | 4年       | 130単位         | 学士（法学）    |
| 芸術学科    | 4年       | 126単位         | 学士（芸術学）    | 政治学科      | 4年       | 130単位         | 学士（政治学）   |
| 経済学科    | 4年       | 128単位         | 学士（経済学）    | 国際学科      | 4年       | 134単位         | 学士（国際学）   |
| 経営学科    | 4年       | 124単位         | 学士（経営学）    | 国際キャリア学科  | 4年       | 130単位         | 学士（国際学）   |
| 国際経営学科  | 4年       | 124単位         | 学士（国際経営学）  | 心理学科      | 4年       | 124単位         | 学士（心理学）   |
| 社会学科    | 4年       | 126単位         | 学士（社会学）    | 教育発達学科    | 4年       | 124単位         | 学士（教育発達学） |
| 社会福祉学科  | 4年       | 124単位         | 学士（社会福祉学）  |           |          |               |           |

## &lt;大学院&gt;

(2013年4月1日現在)

| 専攻名                          | 修業年限     | 取得学位                     | 専攻名                         | 修業年限           | 取得学位                                |
|------------------------------|----------|--------------------------|-----------------------------|----------------|-------------------------------------|
| 英文学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程    | 2年<br>3年 | 修士（英文学）<br>博士（英文学）       | 社会学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程   | 2年<br>3年       | 修士（社会学）<br>博士（社会学）                  |
| フランス文学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程 | 2年<br>3年 | 修士（フランス文学）<br>博士（フランス文学） | 社会福祉学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程 | 2年<br>3年<br>3年 | 修士（社会福祉学）<br>修士（社会福祉学）<br>博士（社会福祉学） |
| 芸術学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程    | 2年<br>3年 | 修士（芸術学）<br>博士（芸術学）       | 法律学専攻<br>博士後期課程             | 3年             | 博士（法学）                              |
| 経済学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程    | 2年<br>3年 | 修士（経済学）<br>博士（経済学）       | 国際学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程   | 2年<br>3年       | 修士（国際学）<br>博士（国際学）                  |
| 経営学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程    | 2年<br>3年 | 修士（経営学）<br>博士（経営学）       | 心理学専攻<br>博士前期課程<br>博士後期課程   | 2年<br>3年       | 修士（心理学）<br>博士（心理学）                  |

## ⑥ 環境に関する情報

所在地については、第1章「3 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積」に記載のとおりである。主な交通手段・キャンパスの概要としては以下のとおりである。

最寄駅からのアクセス  
(白金キャンパス)

|        |                                              |                                               |
|--------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| ○品川駅   | JR 山手線・京浜東北線<br>東海道線・横須賀線<br>東海道新幹線<br>京浜急行線 | 高輪口 徒歩約 17 分または<br>都営バス「目黒駅前」行き<br>「明治学院前」下車  |
| ○目黒駅   | JR 山手線<br>東急目黒線<br>東京メトロ南北線<br>都営地下鉄三田線      | 東口 徒歩約 20 分または<br>都営バス「大井競馬場前」行き<br>「明治学院前」下車 |
| ○白金台駅  | 東京メトロ南北線<br>都営地下鉄三田線                         | 2 番出口 徒歩約 7 分                                 |
| ○白金高輪駅 | 東京メトロ南北線<br>都営地下鉄三田線                         | 1 番出口 徒歩約 7 分                                 |
| ○高輪台駅  | 都営地下鉄浅草線                                     | A2 番出口 徒歩約 7 分                                |

## (横浜キャンパス)

|             |                         |                                                                            |
|-------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| ○JR 戸塚駅     | 東海道線<br>横須賀線<br>湘南新宿ライン | 地上改札階段下または地下改札 5 番出口<br>江ノ電バス「明治学院大学南門」行き<br>「明治学院大学正門」または<br>「明治学院大学南門」下車 |
| ○横浜市営地下鉄戸塚駅 | 横浜市営地下鉄ブルーライン           |                                                                            |

白金キャンパス、横浜キャンパスの概要は以下のとおりである。

## キャンパス案内：白金キャンパス

### ヘボン館

- B1 コンピュータ実習室
- 1F 教員ラウンジ（教員にご用の方はこちらへ）
- 2F 大学院事務室 / 大学院教室
- 3F-4F 大学院教室
- 5F 英文学科共同研究室 / 法学部特別TA室
- 6F 教育発達学科共同研究室
- 7F フランス文学科共同研究室
- 8F 消費情報環境法学科共同研究室
- 10F 社会調査・社会福祉実習室
- 5F-11F 個人研究室

### 13号館

- B1 音楽表現室
- 1F キャリアセンター（教育キャリア支援課）
- 2F 造形実習室

### 正門守衛所

### 明治学院チャペル（礼拝堂）

### SIA高輪台ビル

- 2F 明治学院大学校友会  
明治学院同窓会本部

### 白金グラウンド

### 3号館教室棟

### 明治学院高等学校

### 正門

### インブリー館

### 記念館

- キリスト教センター事務課
- 宗教部 / 歴史資料館
- 小チャペル

### 高輪校舎

- 法科大学院 / 心理臨床センター

### 2号館

- B1-3F 教室
- 1F コンピュータ実習室

### ヴォーリズ広場

### パレットゾーン白金

- ダイニングラウンジ（食堂） / 生協購買部
- アリーナ / アートホール / インナー広場「さん・サン」
- 課外活動施設 / サークルルーム

### 11号館

- 1F-2F ピアノ練習室

### 本館

- B1 情報センター（入口1F） / 社会学部付属研究所  
コンピュータ実習室
- 1F 入試センター・入学インフォメーション / 守衛所 / 学生部  
総務部 / 経理部 / 管財部 / 人事部  
キャリアセンター / 健康支援センター / 国際交流センター  
学生相談センター / 学生サポートセンター  
ボランティアセンター / 会議室 / 教室
- 2F 教務部 / 教室
- 2F-7F 図書館（建物中央）
- 3F-5F 教室
- 4F 国家試験対策委員会室 / 法学部学生相談室 / 教室
- 6F 芸術学科共同研究室 / 心理学部共同研究室  
教職課程共同研究室 / 言語文化研究所
- 7F 国際学部共同研究室 / 教養教育センター共同研究室  
社会学部共同研究室
- 8F 産業経済研究所 / 法律科学研究所  
経済学部共同研究室 / 会議室
- 9F 法人事務室 / 監査室 / 総合企画室  
総合企画室（地域連携推進担当・広報担当） / 自己点検推進室  
会議室 / キリスト教研究所 / 国際平和研究所
- 10F 大会議場（同時通訳設備有）

2014年3月31日現在

## キャンパス案内：横浜キャンパス

## 8号館

- 1F インターナショナルラウンジ / 茶室 (明書舎) / カフェ / 国際交流センター  
 2F 国際学部事務局 / 会議室 / 教室 / 国際学部附属研究所  
 3F 大学院事務局 / 国際学専攻共同研究室 / 国際学部資料室 / 国際平和研究所分室 / コンピュータールーム  
 4F 共同研究室 / 個人研究室  
 5F 個人研究室

## 3号館

## 教室

- 1F コンピュータ実習室 / 心理学部実習準備室  
 2F コンピュータ実習室

## 2号館

- 1F 学生相談センター / 音楽実習室2 / ピアノ練習室  
 2F 物理学学生実験室 / 図画工作実習室 / 家庭科実習室 / 小学校教科実験室1  
 3F 生物学学生実験室 / 小学校教科実験室2  
 4F 化学実験室 / 小学校教科実験室3

## G館

生協購買部 / 部室

F館  
体育系部室

## 体育館

受付 / 準備室  
 セミナールーム / 第1～第3フロア

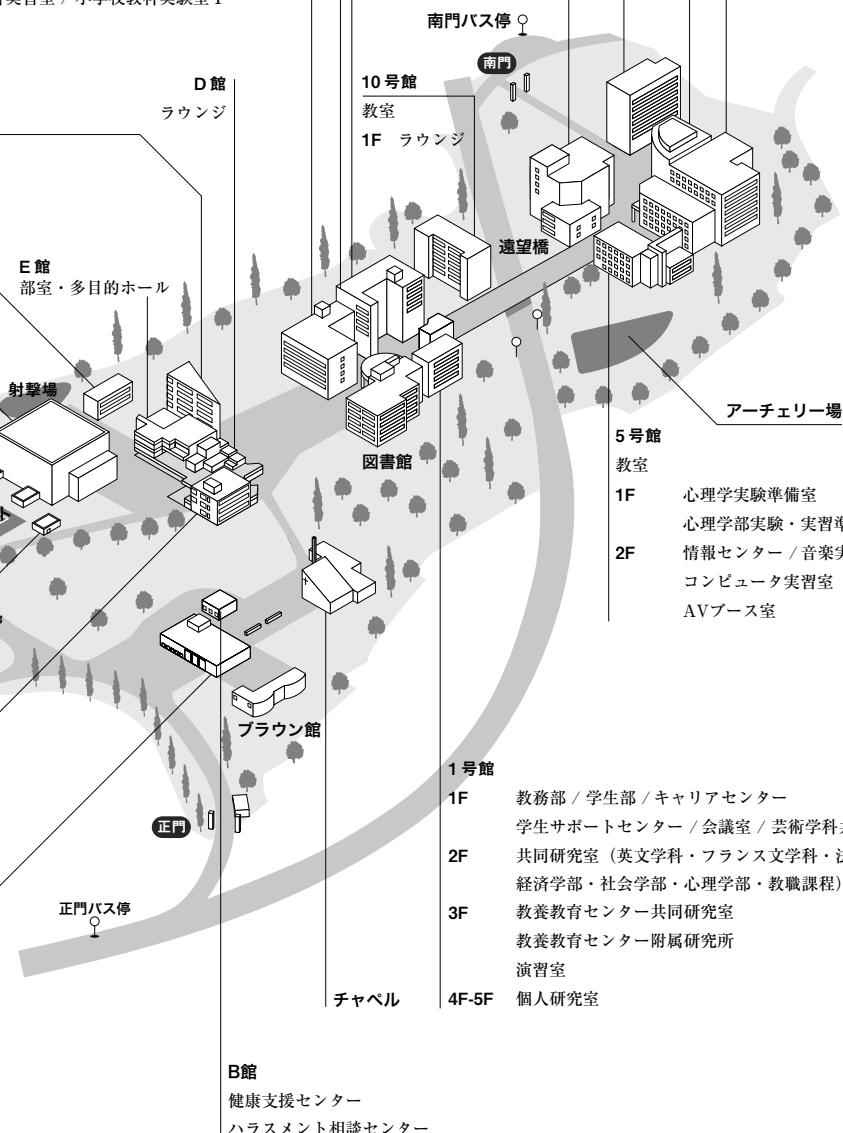
## 和弓場

## C館

カフェテリア / MG Café  
 生協食堂 / 生協サポートカウンター  
 (株) 明治学院サービス

## A館

横浜管理部 / 管財部

D館  
ラウンジ

## 4号館

## 教室

- 1F Y'ins  
 (コンピュータールーム)  
 ボランティアセンター

## 9号館

## 教室

生協パンショップ

## 南門バス停

## 南門

## 10号館

## 教室

- 1F ラウンジ

## 遠望橋

## 図書館

## ブラウン館

## チャペル

## B館

## 健康支援センター

## ハラスメント相談センター

## 正門バス停

## 正門

## 北門

## ヘボンフィールド

## テニスコート

## ゴルフ練習場

## 射撃場

## E館

## 部室・多目的ホール

## F館

## 体育系部室

## G館

## 生協購買部 / 部室

## 8号館

## 教室

## 1F

## Y'ins

## (コンピュータールーム)

## ボランティアセンター

## 9号館

## 教室

## 生協パンショップ

## 南門バス停

## 南門

## 10号館

## 教室

## 1F

## ラウンジ

## 遠望橋

## 図書館

## ブラウン館

## チャペル

## B館

## 健康支援センター

## ハラスメント相談センター

## 正門バス停

## 正門

## 北門

## ヘボンフィールド

## テニスコート

## ゴルフ練習場

## 射撃場

## E館

## 部室・多目的ホール

## F館

## 体育系部室

## G館

## 生協購買部 / 部室

## 7号館

## 教室

## 6号館

## 教室

- 2F 教員ラウンジ  
 国家試験対策室

## アーチェリー場

## 5号館

## 教室

- 1F 心理学実験準備室

- 心理学部実験・実習準備室

- 2F 情報センター / 音楽実習室1

- コンピュータ実習室

- AVブース室

## 1号館

## 1F

- 教務部 / 学生部 / キャリアセンター

- 学生サポートセンター / 会議室 / 芸術学科共同研究室

- 2F 共同研究室 (英文学科・フランス文学科・法学部・

- 経済学部・社会学部・心理学部・教職課程)

- 3F 教養教育センター共同研究室

- 教養教育センター附属研究所

- 演習室

- 4F-5F 個人研究室

2014年3月31日現在

運動施設としては、横浜キャンパス内にヘボンフィールド (グラウンド)、体育館、テニスコート、アーチェリー場、白金キャンパス福利厚生棟内にアリーナ (第1～第3) を有している。また、横浜キャンパスから40～50分の位置に戸塚グラウンドがある。野球場・多目的グラウンド・テニスコート (クレー4面・人工芝4面) および運動部やゼミで合宿可能な施設 (黎明館124名宿泊可能) を有している。

課外活動としてクラブ・サークル活動があるが、大学として体育会36団体、文化団体連合会17団体、応援団3団体、愛好会35団体、実行委員会3団体、任意団体38団体を公認団体として正式に認定し、活動を支援している。

## ⑦ 学生納付金に関する情報

学生納付金の金額については、第1章「4 学生生徒等納付金」に記載のとおりである。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

大学の学生支援組織としては、教務部、学生部、大学院事務室、法科大学院事務室、学生サポートセンター、ボランティアセンター、キャリアセンター、国際交流センター、情報センター、図書館、宗教部がある。

2013年度の本学独自の奨学金として以下のものを用意している。

| 名 称           | 目 的      | 応 募 資 格                                                                                                                                                                   | 給 付 金 額                     |
|---------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 学業優秀賞         | 学業優秀者の表彰 | ①2年次以上、在学年次4年以内の者<br>②各学年学科成績上位者を指名                                                                                                                                       | 150,000～250,000円            |
| へボン給付奨学金      | 経済援助     | ①経済的援助が必要であると認められた者<br>②日本学生支援機構奨学金、その他の貸与奨学金を受給している者。または当該年度、日本学生支援機構奨学金（2年次生以上は第二種奨学金に出願した者）、その他の貸与奨学金に出願したが採用とならなかった者<br>③原則として在学年次の標準単位を取得している者<br>④修学上支障のない健康状態を有する者 | 年間授業料の半額に施設費の半額を加算した額を上限とする |
| 保証人会へボン給付奨学金  |          |                                                                                                                                                                           |                             |
| 認定留学（長期）奨学金   | 学業奨励     | ①所属する学部の教授会から国外留学を許可された者<br>②2年次以上、在学年次4年以内の者（4年次の10月から留学する者を含む）                                                                                                          | 50,000円                     |
| 小野國嗣基金（奨学金）   | 学業奨励     | ①将来、社会福祉および心理学関連領域に従事することを志している3年次以上の者<br>②キリスト教者であることが望ましい                                                                                                               | 40,000円<br>(2012年度実績)       |
| 外国人留学生学業優秀賞   | 学業優秀者の表彰 | ①2年次以上、在学年次4年以内の者<br>②各学年成績上位者を指名                                                                                                                                         | 150,000円                    |
| 保証人会外国人留学生奨学金 | 経済援助     | ①経済的援助が必要であると認められた者<br>②原則として在学年次の標準単位を取得している者<br>③貸与・給付を問わず、他から月額奨学金として日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費以上の金額を支給されていない者<br>④修学上支障のない健康状態を有する者                                        | 年間授業料の半額を上限とする              |

| 名 称                       | 目 的   | 応 募 資 格                                                                  | 減 免 額                                                                                            |
|---------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 東日本大震災・長野県北部地震被災者学費減免特別措置 | 被災者支援 | 「東日本大震災」及び「長野県北部地震」による災害救助法適用被害地域（東京都を除く）出身または適用被害地域周辺で同等に被災した新入生(編入生含む) | 被災状況に応じて学納金の減免を行う。措置内容は次のいずれか。<br>A：各学期の学納金全額免除(入学金含む)<br>B：各学期の授業料全額免除<br>C：各学期の授業料・施設費それぞれ半額免除 |

## (4) 管理運営の概要

明治学院大学、明治学院高等学校、明治学院東村山高等学校および明治学院中学校を設置する学校法人明治学院理事会が学校法人の最高決議機関であり、教授任用等の重要事案はすべて理事会の審議事項となっているが、大学の運営については、学校教育法の定める所属職員（教職員）の「統督」者としての学長の権限と機能が十分に尊重されている。

大学における決議機関は、月1回開かれる「教授会」および「大学評議会」であるが、学部の改廃等の重要な案件については学長が随時招集する「連合教授会」にて審議されることになっている。

上記の決議機関に加え、本学には、各学部の意見調整および教授会への提案事項等を協議する「学部長会」、学長、副学長3名、学長室長、大学事務局長、大学事務局次長によって構成され、事実上のガバナンスを行っている「大学執行部会議」があり、前者は月2回、後者は毎週開催されている。

このほか、学生部長の諮問機関である「学生部委員会」や教務部長の諮問機関である「教務部委員会」等の「各種委員会」があり、それぞれの専門的な事案を協議している。「各種委員会」でまとめられた重要な案件は、「大学執行部会議」および「学部長会」の議を得た後、「教授会」を経て「大学評議会」で決定され、必要に応じて理事会に付議されている。



### 3 明治学院高等学校

#### (1) 事業計画

##### ① キリスト教教育

- (a) 専任教職員の他、教会の牧師及び社会的活動を続けている信徒を招き、礼拝を持つ。
- (b) キリスト教諸行事に関するプログラムの見直しと充実を図る。
- (c) 学院牧師や大学教員を招き、広くキリスト教教育について学び合う時を持つ。
- (d) 音楽の教科と連携し全員へ讃美歌の指導。希望する生徒に学院オルガニストによるオルガン指導。
- (e) キリスト教活動広報紙「からし種」の発行、生徒による聖書を主題にした絵画作品の掲示、オルガン・コンサートなどを通して、生徒、保護者にキリスト教活動についての理解を深める。
- (f) キリスト教学校教育同盟関東中高部会による榛名ワークキャンプに継続して参加する。
- (g) 東日本大震災被災者への祈りと支援を行う。

##### ② カリキュラムの検討と学力の向上

- (a) 1年次は偏りのないカリキュラム、2・3年次は多様な進路を見すえた選択カリキュラムを実施。
- (b) シラバス(学習の手引き)を作成し、事前に教科内容を提示して学習や履修に役立てる。
- (c) ブックリストを作成し、読書指導をすすめる。
- (d) 教科に対する理解が遅れている生徒への補習、教科を深く学びたい生徒への講習、進路実現のための講習をより一層充実させる。
- (e) 音楽・美術・書道などの芸術教科、調理実習・被服実習などの家庭科、パソコンを使って「調べ学習とプレゼンテーション」の力をつける情報科など、実技を伴う教科にも力を入れる。
- (f) 「英語の明治学院」に相応しい英語教育の強化に加えて、実際に生かせるフランス語・韓国語講座を継続して実施する。
- (g) 数学の少人数による習熟度別授業を実施する。

##### ③ 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導

- (a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒のさまざまな夢をサポート」する。
- (b) 1年生は、「人間形成と学力の充実」を中心にして指導する。
- (c) 2年生は、「将来の目標と自己の適性を考えてゆく」指導を行なう。
- (d) 3年生は、「一人ひとりが自主的に自分の道を切り開いてゆく」ことができるよう指導する。
- (e) 学年ごとに、学年・進路通信『ほっぷ』(1年)・『すてっぷ』(2年)・『じゃんぷ』(3年)を定期的に発行する。
- (f) 進路適性検査、大学入試のための講習・補習実施など、一人ひとりの進路に合わせた指導を行う。
- (g) 進路ガイダンス、全国模試、英語GTECを実施する。

##### ④ 高大連携の推進

- (a) 「明治学院一貫教育宣言」に基づき、人格と実力を兼ね備えた21世紀の市民の育成をめざす。
- (b) 明治学院大学進学者に関して、大学・高校間の意思疎通をはかる。大学教養教育センター主催の「J.C.バラ・プログラム」に積極的に取り組む。
- (c) 中・高・大合同の英語教育検討会議に参加し、一貫教育における英語教育の進展を図る。
- (d) 明治学院大学が提供する授業科目の受講、明治学院大学生の教育実習及びジョブサポーター制度(社会福祉学科)の協力、ボランティア活動の協働など多様な分野で高大の連携をはかる。
- (e) 高3の3学期には、主に明治学院大学進学予定者に対し特別講座を開き、大学への学習の準備を行なうと共に、明治学院大学と協力して入学前教育の強化をめざす。

##### ⑤ 行事・課外活動の充実

##### ⑥ 教育研究活動の充実

- (a) 生徒を取り巻く教育状況や現代の生徒の心理について、一般教職員、養護教諭、カウンセラー、保護者と共に学び、話し合う機会を増やす。
- (b) 教員の研究研修費の執行により、教育研究活動の一層の充実をめざす。
- (c) 教員免許更新制の講習が保障されるように校務の軽減をはかる。

##### ⑦ 総合学習の整備・発展

##### ⑧ 国際交流活動の推進

##### ⑨ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

##### ⑩ 学生・生徒の募集計画

##### ⑪ その他の特記事項

- (a) 高校の将来構想
- (b) 校舎改築に向けての準備
- (c) 自己点検・評価の実施

- (d) 外部の専門機関による評価
- (e) 150周年記念事業・行事・募金の推進

## ⑫ 大学合格者数の実績

### (2) 事業計画の進捗状況

#### ① キリスト教教育

##### キリスト教教育

明治学院高等学校は、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛しなさい」（ルカによる福音書第10章27節）という聖書の御言葉を基盤とし、ヘボン、ブラウン、フルベッキなど学院創立にあたった宣教師の建学の精神を受け継いできた。教育理念は「福音主義キリスト教に基づく人格教育、愛と平和、周囲の人びとを思いやる教育」であり、この教育理念にそって、具体的な活動をすすめてきた。特に、2013年は創立150周年という記念すべき年でもあるので、建学の精神について考える機会を多く持った。

- (a) キリスト者専任教職員や学院牧師による礼拝、準宣教師による英語礼拝を行った。また、学院オルガニストによるパイプオルガン受講講座で希望する生徒を選抜し（12名）、オルガン指導の後、生徒に終業礼拝の奏楽を担当させた。
- (b) 2013年度が学院創立150周年を迎え記念礼拝を実施した。
- (c) 教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて特別礼拝を実施した。また、社会で奉仕している牧師・キリスト者を招き、150周年記念講演会を実施した。これらの講演をまとめて、『灯を輝かし、闇を照らすー21世紀を生きる若い人たちへのメッセージ』を出版し、生徒に配布した。

特別礼拝および150周年記念講演会の講師は以下の通りである。

| 特 別 礼 拝       | 講 師                  |
|---------------|----------------------|
| 創立150周年記念礼拝   | 大西晴樹 学院長             |
| 1年イースター礼拝     | 北川一明 明治学院牧師          |
| 2年イースター礼拝     | 徳永望 本校教諭             |
| 3年イースター礼拝     | 及川信 日本基督教団中渋谷教会牧師    |
| 1年母の日礼拝       | 田口美穂 元鶴川シオン幼稚園長      |
| 2年ペンテコステ礼拝    | 小倉和三郎 日本基督教団牧師       |
| 1年クリスマス礼拝     | 長津榮 明治学院監事           |
| 2年クリスマス礼拝     | 森田光博 日本基督教団池袋西教会牧師   |
| 3年クリスマス礼拝     | 原牧人 日本基督教団豊沢教会牧師     |
| 3年卒業礼拝        | 真崎隆治 明治学院大学名誉教授      |
| 1年特別礼拝        | 桃井和馬（ジャーナリスト・写真家）    |
| 1年信教の自由を守る日礼拝 | 永野茂洋 明治学院大学教授        |
| 2年信教の自由を守る日礼拝 | 辻子実 日本キリスト教協議会靖国問題委員 |
| 宿泊研修会         | 桃井和馬（ジャーナリスト・写真家）    |
| 150周年記念講演会    | 講 師                  |
| 1年講演会         | 宋富子 文化センター アリラン副理事長  |
| 2年講演会         | 奥田知志 東八幡キリスト教会牧師     |
| 3年講演会         | 佐藤彰 福島第一聖書バプテスト教会牧師  |

- (d) 学院長による教職員聖書講話（4月）、聖書を読む会（毎週、教職員自由参加）など、教職員の聖書理解を深め、祈りの時を持った。また、教職員会議は祈りをもって始めた。新たに学期の初めの教職員会議は讃美歌も歌うこととした。
- (e) 各学年、学期に一回、クリスチャンでない教員によるアッセンブリーを行った（年9回）。
- (f) 生徒と共にさまざまなキリスト教に関する活動を実施した。具体的には、聖書について語る会（生徒・教職員延べ20名）、明治学院にかかわる故宣教師・先達者の墓地清掃と墓前礼拝（10月、瑞聖寺、生徒3名・教員4名、計7名）、アドヴェント礼拝（11月、礼拝堂、約250名）、白金クリスマス点灯式（11月、前庭、約900名）、宿泊研修会（3月、明治学院大学戸塚グラウンド黎明館、講師：桃井和馬先生、生徒16名・教職員8名）などに取り組んだ。
- (g) 保護者や生徒にクリスマス献金と呼びかけ、キリスト教福祉団体等40団体へ贈った（12月）。
- (h) つなぎプロジェクトの一貫プログラムである小諸ワークキャンプに5名の生徒が参加した。

#### ② カリキュラムの検討と学力の向上

- (a) 1年次では偏りのないカリキュラム、2・3年次では多様な進路を見すえた選択カリキュラムを実施した。

- (b) 『学習の手引き2013（必修及び選択科目の案内）』を作成し、事前に教科内容を提示・説明するなど丁寧な指導を心がけた。
- (c) 語学への意欲を喚起するためにブックリスト（文庫100冊、新書100冊、英語多読図書100冊など）を作成し、教科と協力して読書指導をすすめた。  
全学年対象に、日常的に教科の苦手な生徒への補習、深く学びたい生徒を対象にした講習、さらに夏期講習を実施した。3学期にも1・2年生を対象に春期講習を行なった。
- (d) 音楽・美術・書道などの芸術科目についても十分に学ぶ時間をとった。また、家庭科において調理実習、被服実習、消費者教育など、社会に出てから役立つような授業も重点に置き実施した。さらに、情報科ではパソコンを使った「調べ学習と発表」を実施した。
- (e) 2・3年の選択授業では、生徒の能力を高めるために多彩な授業を展開した。具体的には、様々な文章に接し書くことによって日本語の表現力と読解力をつける「文章表現法」、英語で考え英語を使ってスピーチ・ディベート・ディスカッション・劇などを行なう「English Activities」、コンピュータにより大学・社会で役立つ確率・統計を学ぶ「教養数学」など様々な授業を行い、生徒の能力を高めてきた。
- (f) 共通自由選択では韓国語講座、フランス語講座の実施を実施した。
- (g) 英語教育の強化のために、全学年でGTECを実施した。1年生は事前に夏休み中の課題として英語で『ハンナのかばん』を読み、ユダヤ人少女ハンナ・ブレディがホロコースト（ナチスによるユダヤ人虐殺）の時代をどのように生きたのかを学んだ。そのうえで『ハンナのかばん』の著者、石岡史子さんを招いて、1年生向けに特別授業を行なった（1月）。
- (h) 数学の授業の充実をはかるため、引き続き習熟度別授業を実施した。
- ③ **生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導**
  - (a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒のさまざまな夢をサポート」することを基本方針とし、具体的な指導をすすめた。
  - (b) 1年生は、「外の世界に目を向ける」を中心にすえ、基礎学力を身につけるとともに、視野を広げ、外の世界に目を向けることを目指してきた。具体的には、進路ガイダンス、夢ナビプログラム、進路適性検査（R-CAP）、全国模擬テスト及び個別面談を実施し指導した。
  - (c) 2年生は、「将来の目標と自己を見つめる」ことを中心にすえ、自らが将来何をしたいのか、そのための実現方法を考え行動することを目指してきた。具体的には、卒業生による進路ガイダンス、進路適性検査（GAKUTAN）、卒業生による進路説明会、全国模擬テスト及び個別面談、各大学教員による模擬講義形式進路説明会（12月、明治学院大学を含む8大学13講座、3専門学校3講座、304名参加）を実施した。
  - (d) 3年生は、「一人ひとりが自主的に自分の道を切り拓いてゆく」ことを中心にすえ、自らの目標に到達できるように指導してきた。具体的には、進路ガイダンス、明治学院大学学部学科説明会、卒業生による進路説明会、他大学の出張説明会、個別面談、進路適性検査、校内実力テスト、全国模擬テスト及び大学入試センター説明会などを実施した。
  - (e) 学年ごとに、学年・進路通信『はっぶ』（1年）・『すてっぶ』（2年）・『じゃんぶ』（3年）を定期的に発行した。さらに、全校の生徒・保護者に向けて『2013年度 進路の手引き』を発行した。
  - (f) 大学入試のための補習・講習を実施すると共に、一人ひとりの進路に合わせた指導を行った。
  - (g) 全学年で、進路ガイダンス、全国模試、英語GTECを実施した。
- ④ **高大連携の推進**
  - (a) 「明治学院一貫教育宣言」に沿って、一貫教育の中身を充実していくことを確認した。
  - (b) 明治学院大学入学前教育として行われる経済学部と法学部による課題の実施、法律学科と国際キャリア学科の事前指導、並びに教養教育センター主催「J.C.バラ・プログラム」に大学・東村山高校と協力して取り組んだ（参加生徒109名、本校教員延べ8名）。
  - (c) 明治学院大学から教育実習生を3名受け入れ、教育実習を指導した（全教育実習生6名）。
  - (d) 高3の3学期に明治学院大学及び他大学への推薦入学が決まった大学進学決定者に対して、生徒のニーズに合わせて本校教諭による特別講座を開き、大学への準備の学習及び教養的学習を行った。内容は、受験対策講座（英語、生物、化学）、Excel講座、音楽大学入試対策講座、やさしい経済学入門、「東京裁判を考える」、「普段行けない所に行くツアー（日産エンジン工場、朝日新聞社）」、裁判傍聴ツアー、インターンシップ（東元電機、MOプランニング、渋谷同胞幼稚園）、簿記入門などの講座を実施した。
- ⑤ **行事・課外活動の充実**
  - (a) 生徒会・委員会活動・クラブ活動など、生徒が自主的に自治活動をすすめて行けるように努めた。水泳大会（6月）、オリーブ祭（9月）、合唱コンクール（9月）、体育祭（10月）など、さまざまな行事は、生徒たちが協働し、自主的にすすめた。
  - (b) 学習とクラブ活動（課外活動）のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導した。クラブ活動では、ブラスバンド部＝2013年度全国高等学校吹奏楽連盟東京都大会銀賞、写真部

=2013年度全国総合文化祭に東京都代表として出展した。

- (c) 150周年記念東日本大震災による被災地へのハイグリー部演奏旅行（8月、宮城県亘理町仮設住宅・女川中学校等、生徒33名、教員3名、計36名）、生徒会・新聞局によるボランティア（8月、宮城県南三陸町等、生徒35名、教員4名、計39名）を実施した。

#### ⑥ 教育研究活動の充実

- (a) 学校全体での教育研究会、保護者会（全体及びクラスPTA）、PTA学習会を実施した。
- (b) 生徒を取り巻く教育状況、現代の生徒の心理、本校の生徒の様子について、カウンセリング委員会を定期的に関き、情報交換し、教職員に発信した。
- (c) 新カリキュラムに於けるボランティア講座・高大連携講座のあり方について、さらに学びの時をもった。

#### ⑦ 総合学習の整備・発展

- (a) 1年生全員(326名)は「キリスト教と明治学院」、「明治学院の建学の精神と歴史」をテーマにガイダンス合宿と、明治学院とゆかりのある横浜海岸教会、ヘボン邸跡、開港資料館などの横浜フィールドワークを実施した。
- (b) 2年生は、「教師と生徒がともに生き方を考えていく独自の体験・研修旅行」を実施した。下記コースに分かれて1年間の授業と実地研修を行い、総合的な学習を深めた。
  - 1) 農作業体験をしながらの田舎暮らし（新潟県魚沼市、26名）
  - 2) 長崎の歴史・文化・キリスト教を学ぶ（90名）
  - 3) 沖縄の歴史・文化・自然を学ぶ（130名）
  - 4) 韓国の歴史・文化の学習及び現地の高校生との出会い（41名）
  - 5) 米国ホームステイ（インディアナ州・カリフォルニア州、23名）

#### ⑧ 国際交流活動の推進

- (a) 総合学習の一環として進めているアメリカ・ホームステイ・プログラムの中で、インディアナ州パデュー大学、ロサンゼルスとサンフランシスコの日系教会と交流を進めた（生徒23名、教員4名）。
- (b) 明治学院高校生41名、教員3名が、総合学習の一環として、友好協力校である韓国の京花女子高校・京花EB女子高校を訪問し、合唱や話し合いを通じて豊かな交流の時を持った（7月）。また、韓国の京花女子中学高校・京花EB女子高校の教職員35名が来日し、交流の時を持った（1月）。

#### ⑨ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

- (a) 地震・火事などを想定した防災訓練を学校全体で年3回実施した（6月、11月、2月）。東京私立中高協会第二支部と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) 生徒が3日間生活できることを想定し、災害対策用の備品（食糧、水、マット、災害用ブランケット、簡易トイレ等）を購入し、備品倉庫を3か所にして教職員がいつでも取り出せるよう周知徹底した。また、「防災マニュアル」を配布し、緊急時に備えた。
- (c) AED（自動体外式除細動器）を要所に設置し、教職員を対象にAEDの講習会を実施した（12月、高輪消防署、参加者10名）。
- (d) インフルエンザ感染防止のため、引き続き各洗面所に消毒液の設置、全校生徒分のサージカルマスク・1クラス分の体温計の備蓄、また生徒全員の健康状況の把握に努めた。

#### ⑩ 学生・生徒の募集計画

- (a) 7月から12月まで月1回の学校説明会を実施した（校内6回）。また、キリスト教学校フェア、私学フェア（2回）、地域の説明会及び中学校・塾・予備校の説明会に参加した。
- (b) 過去3年間の応募者数は、2012年度生1,115名、2013年度生1,214名、2014年度生1,139名であった。学校説明会については、生徒による学校紹介『明学トラベラー』の作成、生徒の活動紹介（写真部による写真スライドショー、ハイグリー部・ギター部・ブラスバンド部による演奏、演劇部による寸劇、各クラブ紹介カードの作成）、クリスマス・カードの作成配布などである。その他、全教職員が外部説明会に参加し学校紹介に努めた。これらの結果、2014年度入学生の入試応募者は1139名となり、294名の新入生を得た。
- (c) 高校推薦合格者に基礎力確認テスト（英数国）を行い、その結果に基づき入学前・入学後の指導を徹底した。
- (d) ホームページで、カリキュラムの紹介、総合学習の紹介、礼拝でのお話、生徒会・クラブ活動、施設・環境、進路指導、生徒募集など、新しい情報を掲載した。

#### ⑪ その他の特記事項

- (a) 高校の将来構想
  - ・白金キャンパスのグランドデザインを本格的に策定するため、長期総合計画委員会と専門委員会（キャンパス検討プロジェクト）を設置し、白金キャンパスグランドデザインについて検討を重ねた結果、当面の喫緊の課題である高校校舎の改築に関して、2013年度末、理事会において正式に改築の検討が決定され、着工の規模やタイミング、建築コスト見積、資金計画改善

など具体的で現実的な準備を進めることとなった。

- ・高校の教室棟に限り改築計画を高校独自に進め、並行してそれ以外のスペースについて高大合同の将来構想を検討していく。

(b) 校舎改築に向けての準備

第2号基本金による改築資金の充足に務めた。

(c) 自己点検・評価の実施

各部会（教務、庶務、進路指導、生活指導、行事指導）、各学年会および委員会において、「年度総括」をまとめ、業務の点検と次年度への引き継ぎを行った。

(d) 外部の専門機関による評価

（株）学校情報システムによる「明治学院高等学校アクセスレポート2013」の分析評価を受け、今後の改善点を確認した。

(e) 明治学院創立150周年事業・行事の推進

1) 「高校校舎改築」に着手する理事会・評議員会の承認を得た。

2) 東日本大震災「被災地支援」の継続

- ・生徒会・一般生徒による被災地支援ボランティア（宮城県南三陸町、仙台市等 生徒35名、教員4名、計39名、2013年8月）

- ・ハイグリー部による被災地支援演奏会（宮城県亘理町、女川中学校等、生徒33名、教員3名、計36名、2013年8月）

- ・宮城県女川高校生徒会5人を招待（「たまげ大福だっちゃ」販売、2013年9月）

- ・福島の高校を招き合同演奏（福島県立相馬農業高校飯館分校合唱部生徒6人を招待、2013年9月）

3) 高校生向け記念礼拝

- ・高2生150周年記念礼拝（2013年4月9日、学院長奨励）、高3生150周年記念礼拝（同年 4月10日、学院長奨励）

4) 同窓生による証言集『明治学院とわたし』の発行（2013年11月）

5) 記念講演会の実施

- ・3年生講演会「震災で何を見たか」佐藤彰牧師

- ・2年生講演会「その日、あなたはどこに帰るか？」奥田知志牧師

- ・1年生講演会「愛するとき、奇跡は創られる」宋富子氏

6) 講演会記録『灯を輝かし、闇を照らす—21世紀を生きる若い人たちへのメッセージ』（いのちのことば社発行）

7) 記念スポーツ試合

- ・明治学院高等学校対東京大学教育学部附属中等教育学校の軟式野球試合（2013年11月26日、神宮球場）

- ・サッカー部 明治学院高校 対 明治学院東村山高校（2013年3月24日、横浜へボンフィールド）

8) 記念グッズの作成

- ・150周年記念しおり、オリジナル讃美歌カバー、オリジナル和てぬぐい、150周年記念明学バッグ

⑫ 大学合格者数の実績  
主な私立大学合格校

|         | 2010年度   | 2011年度    | 2012年度   | 2013年度   |
|---------|----------|-----------|----------|----------|
| 明治学院大学  | 130 (0)  | 122 (0)   | 122 (0)  | 126 (0)  |
| 日本大学    | 20 (7)   | 24 (11)   | 19 (2)   | 37 (10)  |
| 立教大学    | 19 (1)   | 22 (4)    | 27 (2)   | 34 (2)   |
| 青山学院大学  | 29 (4)   | 32 (11)   | 22 (2)   | 31 (4)   |
| 明治大学    | 22 (1)   | 17 (6)    | 31 (4)   | 30 (9)   |
| 中央大学    | 22 (2)   | 31 (10)   | 29 (3)   | 25 (2)   |
| 法政大学    | 21 (3)   | 22 (5)    | 31 (2)   | 24 (2)   |
| 東洋大学    | 9 (1)    | 2 (0)     | 16 (2)   | 20 (0)   |
| 成城大学    | 21 (0)   | 3 (0)     | 4 (0)    | 18 (0)   |
| 成蹊大学    | 7 (3)    | 10 (2)    | 7 (0)    | 13 (0)   |
| 上智大学    | 10 (1)   | 13 (2)    | 17 (1)   | 10 (0)   |
| 学習院大学   | 11 (1)   | 15 (4)    | 8 (1)    | 10 (0)   |
| 専修大学    | 7 (0)    | 4 (0)     | 6 (0)    | 9 (0)    |
| 國學院大学   | 2 (0)    | 5 (0)     | 2 (0)    | 9 (0)    |
| 東京農業大学  | 3 (3)    | 3 (3)     | 8 (8)    | 8 (6)    |
| 駒沢大学    | 3 (0)    | 10 (0)    | 8 (0)    | 8 (0)    |
| 学習院女子大学 |          | 1 (0)     |          | 8 (0)    |
| 慶應義塾大学  | 19 (1)   | 7 (1)     | 9 (0)    | 7 (1)    |
| 東京理科大学  | 4 (2)    | 16 (14)   | 6 (4)    | 7 (7)    |
| 獨協大学    | 2 (0)    | 3 (0)     | 1 (0)    | 7 (0)    |
| 東京女子大学  | 3 (0)    | 5 (0)     | 6 (0)    | 7 (0)    |
| 早稲田大学   | 11 (0)   | 10 (3)    | 17 (0)   | 6 (0)    |
| 神奈川大学   | 9 (1)    | 2 (0)     | 6 (0)    | 6 (2)    |
| 星薬科大学   | 3 (3)    | 1 (1)     | 1 (1)    | 5 (5)    |
| 全体の合格者数 | 490 (77) | 469 (130) | 506 (66) | 568 (82) |

国公立大学合格校

|          | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 千葉大学     |        |        |        | 2 (1)  |
| 茨城大学     |        |        | 1      | 3      |
| 信州大学     | 1      |        |        | 1 (1)  |
| 埼玉大学     |        |        |        | 1 (1)  |
| 秋田大学     | 1 (1)  |        |        | 1 (1)  |
| 東京医科歯科大学 |        |        | 1 (1)  |        |
| 京都府立大学   |        |        | 1      |        |
| 筑波大学     |        | 1 (1)  |        |        |
| 東京工業大学   |        | 1 (1)  |        |        |
| 東京農工大学   |        | 1 (1)  |        |        |
| 琉球大学     |        | 1      |        |        |
| 横浜国立大学   | 2      |        |        |        |
| 首都大学東京   |        | 2 (1)  | 1      | 1 (1)  |
| 横浜市立大学   | 3 (1)  | 2 (1)  | 3 (1)  | 1 (1)  |
| 合 計      | 7 (2)  | 8 (5)  | 7 (2)  | 10 (6) |

現役浪人合計数。( ) 内は理系学部合格者。短大・専門学校合格者は除く。(2014年4月9日現在)

## 4 明治学院中学校・東村山高等学校

### (1) 事業計画

「贖罪と愛による教育」を教育理念とし、道徳人、実力人、世界人の育成を教育目標に、キリスト教教育の充実を目指す。

#### ① キリスト教教育

##### (a) 礼拝

本校のクリスチャン教職員だけでなく外部の社会経験に裏付けられた方々の説教・奨励によって福音を伝えていく。

##### (b) ボランティア活動

教会や病院・老人ホームでのハンドベル演奏等、地域社会のニーズに応えるボランティア活動を展開する。

##### (c) 国際交流

高校生を対象とした米国キリスト教会の支援によるホームステイと、留学制度を一層充実させる。

##### (d) 総合学習

##### (e) キリスト教教育懇談会

近隣教会との協力の為にキリスト教教育懇談会を行う。

##### (f) 教職員キリスト教教育研修会

学期毎の教職員キリスト教教育研修会で、本校のキリスト教教育の評価と展望を共有する。

#### ② 学校評価

##### (a) 教職員研修

学校運営について継続的に自己点検と改善を行うため、教職員研修を行う。

##### (b) 客観的英語教育評価を得るためGTEC（Global Test of English Communication）を実施する。

##### (c) 外部専門業者による授業評価を行う。

#### ③ 学力と進学実績の一層の向上

##### (a) 中学

プログレス21（英語教育メソッド）の教育効果を検証し、効果的な英語教育を展開する。

##### (b) 高校

2010年度入学者から、高2・高3で受験状況に応じたコース制を導入し、教育効果を向上させる。

#### ④ 中高大の連携強化

#### ⑤ 地域との交流

近隣住民との懇談会により地域との交流・親睦を深め、学校評価を受け、学校運営の改善に役立てる。

#### ⑥ 学生・生徒の募集計画

2013年度募集計画

中学140名、高校240名（新入生120名、移行生120名）

募集方法：中学一般入試（3回）

高校推薦入試（新入生120名のうち50名）一般入試・面接（第一志望は優遇措置）

#### ⑦ 財政の安定化を目指した収入増加と支出の厳正管理

#### ⑧ 2010年度入学生より適用した「学習プログラム」を継続実施する。

#### ⑨ 卒業生（同窓会員）への働きかけ強化

卒業生の母校愛の結集を図り、今後の教育を支える協力・連携体制を強化する。

#### ⑩ 明治学院創立150周年記念事業として校地整備事業を推進

#### ⑪ 危機管理体制

#### ⑫ 明治学院創立150周年・東村山高等学校開校50周年記念行事の実施

#### ⑬ 大学合格者数の実績

### (2) 事業計画の進捗状況

#### ① キリスト教教育

##### (a) 礼拝及び講演会

学院牧師及びクリスチャン教職員・非常勤講師によって礼拝暦に基づき、毎朝20分間の礼拝を守った。今年度は特に、学院の役員による奨励で9名、学院創立150周年・東村山高校開校50周年を記念しての卒業生による奨励で7名の方々に奉仕していただいた。また、高校生5名が礼拝で証しをした。これらの生徒を中心にして、月1回高校生祈祷会を開き、3月には1泊の高校生修養会を行った(参加22名)。

特別礼拝は近隣の教会や学院から牧師・講師を招き、普段の20分間を40分間に延長して捧げた。

3月には「東日本大震災を覚える礼拝」を設けて講師を招いての特別礼拝を守った他、毎月11日に、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会共同作成の祈りのカードを用いて全校生徒で共に祈りを献げた。被災地のための「東京一祈りの輪」には、6月に生徒9名・教師2名、11月に生徒10名・教師1名が参加した。

#### 特別礼拝

| 日付    | 礼 拝            | 中 学             | 東村山高校            |
|-------|----------------|-----------------|------------------|
| 4/10  | ※イースター礼拝       | 三輪地塩(浦和教会牧師)    | 松木 進(八王子教会牧師)    |
| 4/20  | ※家族礼拝          | 春原鈴子(東大和教会牧師)   |                  |
| 5/18  | ※ペンテコステ礼拝      | 吉岡喜人(南三鷹教会牧師)   | 安田昌英(福生教会牧師)     |
| 10/26 | ※宗教改革記念礼拝      | 五十嵐成見(花小金井教会牧師) | 安倍愛樹(久我山教会牧師)    |
| 10/31 | 創立記念礼拝         | 大海龍生(明治学院理事)    | 鶴殿博喜(明治学院大学長)    |
| 11/16 | 永眠者記念礼拝        | 伊藤節子(本校副校長)     | 孫 永律(本校校長)       |
| 11/27 | クリスマス点灯式(中高共催) | 今村栄児(本校聖書科教諭)   |                  |
| 12/20 | ※クリスマス礼拝       | 稲垣裕一(小平学園教会牧師)  | 鈴木重正(東中野教会牧師)    |
| 12/20 | クリスマスの集い(中高共催) | 石原勝代(本校聖書科講師)   |                  |
| 1/25  | 高校卒業礼拝         |                 | 北川一明(明治学院学院牧師)   |
| 2/8   | 信教の自由を守る日礼拝    | 本田栄一(前桜美林中高校長)  | 平塚敬一(前立教女学院中高校長) |
| 3/12  | 東日本大震災を覚える礼拝   | 貴田直樹(境南教会伝道師)   | 五十嵐成見(花小金井教会牧師)  |

上記の表中※印の礼拝では献金を行い、総額約135万円を学校周辺の社会福祉施設、神学校、キリスト教諸団体合わせて22個所に送金した。その内、献金先の活動報告を兼ねて、NCC教育部といのちの電話の担当者に礼拝での奨励をお願いした。

#### (b) ボランティア活動

中学ではボランティア学習と体験を重視した活動を行った。高校ではフィリピンとの間で16年間CFJ (Child Fund Japan.旧キリスト教国際精神里親運動)のプログラムに参加している。生徒一人毎月100円の支援金により、クラスで一人のチャイルドを支えた。また、2002年度からバンコクYMCAに協力して、経済的に恵まれないタイの子供たちのために、夏休みのコイン募金から5万円を資金援助した。

さらに、クラブ活動の一環として、中高ハンドベルクワイアが、学校周辺諸教会主催のクリスマス礼拝や伝道礼拝、社会福祉施設等において演奏奉仕を行った。将棋部は小平市高齢者館にてお年寄りと将棋対局のボランティア活動を行っている。

東日本大震災被災者救援のために、生徒会・ハンドベル部が定期演奏会で募金活動、有志の高校生が被災地でボランティア活動を5回(延べ約40名)行なう活動があった。

#### (c) 国際交流

中学では、ワシントン州シアトルで2週間のサマーキャンプを実施した。参加者は36名(2012年度33名)であった。1ホスト生徒2名のホームステイ形式で2週間を過ごした。

高校では、アメリカ改革派教会の協力を得てキリスト教信仰に基づいた40日間ホームステイプログラムを実施し、参加は17名(2012年度16名)であった。受入れ教会等を訪問する、隔年実施のハンドベル北米演奏旅行は実施年であり、14名が参加した。

2011年度に2週間のプログラムで試行した高3冬季英語研修を、3週間のプログラムとして改革派の大学であるアイオワ州ノースウェスタン・カレッジにて実施し、12名が参加した。

#### (d) 総合学習

中学では、学校の日常生活及び体育祭や文化祭での自治的活動、また礼拝・修養会を含めたキリスト教教育活動その他の諸行事を通して、教育目標である「道徳人」「実力人」「世界人」の実現のために総合学習の時間を用いることができた。高校では総合学習を学習プログラムの中に位置づけ、キャリア・デザイン構築や自分に合った進路選択のための講座を設けて、生徒がそれぞれの進路を開拓する力を得ることができるようにした。

#### (e) キリスト教教育懇談会

近隣教会との連携を深めるためにキリスト教教育懇談会を2回開催。また出席の牧師に朝の礼拝の説教をお願いした。

第1回 6月24日 42名参加「聖書の授業見学」

第2回 11月11日 19名参加「教会につながっている生徒たちとの交流」

#### (f) キリスト教教育研修会

1月29日「献金について、礼拝の守り方について」(曾武川道子キリスト教活動委員会主任)

#### (g) 聖書の授業

中学・高校の新入生には、始めに明治学院の歴史とキリスト教学校で学ぶことの意味を教え、新約聖書・旧約聖書・教理史などを学習しながら、生徒が3年ないし6年の間に、自分の人生を



聖書のメッセージを通して整えることのできる人間に成長するよう心がけた。また全校生徒に教会出席を促した。

(h) 宿泊研修・修養会

学年行事として修養会や研修旅行を以下のように行った。

| 学年 | 場 所      | 実施日     | 主 題                                                       |
|----|----------|---------|-----------------------------------------------------------|
| 中1 | 富士箱根ランド  | 6/5-7   | 神様が世界を創られたことと、イエス・キリストの生涯を通して、聖書の語る愛を学ぶ。                  |
| 中2 | 軽井沢恵シャレー | 〃       | 学院を創立した宣教師から「隣人愛」を学び、自分自身の生きる意味を考える。                      |
| 中3 | 広島・京都・奈良 | 9/10-13 | 広島・京都・奈良で平和について考える共に、日本の伝統文化を学ぶ。                          |
| 高1 | 御殿場東山荘   | 6/5-7   | 明治学院の歴史を学び、神様と共に、隣人と共に明学生として生きることを考える。                    |
| 高2 | 平戸・長崎    | 6/4-7   | キリスト教の殉教の歴史を学ぶと共に、被爆地に平和を学ぶ。                              |
| 高3 | 箱根旧街道    | 6/6-7   | 「自分を支えた聖句」作りでキリスト教と向き合う。神様の恵みと友人の支えに気づき、その中で生きる将来について考える。 |

② 学校評価

(a) 教職員研修4月4日（木）・5日（金）、11月20日（水）

4月は2012年度の各分掌・学年・教科年間総括、2013年度の各分掌・学年・教科方針の説明、新年度準備、11月は各分掌・学年・教科の年度中間総括、及び2014年度校長方針の説明、高校移行基準についての分団討議を行った。

(b) GTECによる英語教育の評価は次の通りであった。

英語学校ベルリッツによる客観的英語教育評価を得るため、中1から高3までを対象に、2013年度もGTEC（Global Test of English Communication）を実施した。

| 学年 | 2013年度生徒数 | 2013年度生スコア | 2012年度生スコア | 2013年度全国平均 | テストタイプ   |
|----|-----------|------------|------------|------------|----------|
| 中1 | 144       | 200点       | 193点       | 254点       | CORE     |
| 中2 | 144       | 274点       | 294点       | 324点       |          |
| 中3 | 142       | 344点       | 319点       | 403点       |          |
| 高1 | 245       | 420点       | 412点       | 405点       | BASIC    |
| 高2 | 256       | 475点       | 468点       | 445点       | ADVANCED |
| 高3 | 255       | 500点       | 471点       | 460点       | ADVANCED |

\* 中学3年生のスコアが全国平均と比較して差が大きいのは、本校ではCORE（440満点）を採用しているが、全国的には難関校を中心にその上のレベルであるBASIC（660点満点）を採用する学校があり、満点で220点の差があるので、必然的に全国平均が高くなる傾向があるためである。

(c) 在校生アンケート

外部専門業者による学力推移調査を実施し、その分析評価を受け、今後の改善点を確認した。

③ 学力と進学実績の一層の向上

(a) 中学

1) プロGRESS21(英語教育メソッド)は全学年で取り組んでおり、どの学年もスピーチコンテストのレベルが著しく向上している。2013年度も中高共に明治学院大学の教員を審査員に招き、最後の講評で高い評価をいただいて生徒たちの良い励みとなった。英語検定の合格率も伸びていて（中学生で準2級合格者43名、2級合格者6名）。生徒たちに学院から奨学金が給付された。このメソッドで効果を上げるためには家庭学習が大切であり、その指導を厳しく行うことは、家庭での学習習慣作りとして他教科の学習にも波及する効果がある。客観的な評価を得るために前記GTECを実施している。

2) 数学検定は3級が中学卒業時の学力基準とされるが、2013年度の中学生の3級取得者32名のうち、2年生が20名おり、学力相当の一つ上の級に挑戦する者が多くいる。また、高1終了レベルの準2級には中3で2名、中2で1名が合格した。高校生は理系コースを中心に、2級に2名、準2級に9名が合格した。数学検定は強制ではないが教科で奨励し、学校を会場として年3回実施しており、受検者が増え、数学の学力向上の励みとなっている。

3) 野外実地踏査により生徒の興味関心を引き出すことに努めた。

| 学年 | 場 所            | 実施日   | 目 的                         |
|----|----------------|-------|-----------------------------|
| 中2 | 理科校外授業(多摩動物公園) | 4/30  | 動物の生態を知り特徴と体形骨格等の相関関係を観察する。 |
|    | 社会校外授業(東京歴史散歩) | 9/20  | 各人の興味関心を東京の史跡に発見し壁新聞で報告する。  |
| 中3 | 理科校外授業(城ヶ島)    | 11/19 | 地層・断層・浸食等の観察から三浦半島の歴史を学ぶ。   |

- (b) 高校
    - 1) 数学や英語では習熟度別クラス、少人数クラスの効果的な授業を行うことができた。
    - 2) 2010年度入学者から進級基準が厳しくなり、1科目でも単位未修得となると進級を認めていない。
    - 3) 中高新学習指導要領と2010年度から開始された学習プログラムに対応する教育課程を、学年進行で実施することができた。
    - 4) 高校2・3年では進路指導の外部専門業者も活用して学部学科ガイダンスや進路ガイダンスを綿密に行い、明確な職業観をもって自らの進路を開拓できるよう促した。
    - 5) プログレス21（英語教育メソッド）は中高とも全ての学年で実施している。「英検2級合格をして卒業」を目標にして教育に当たっているが、2013年度の3年生英検合格者は2級合格79名(前年比4割増)、準1級合格1名である。
  - (c) 将来構想委員会の活動  
週1回の定例会を行った。アカデミックリテラシーとキャリア・デザイン教育の担当者を中心に、外部コンサルタント会社の協力を得ながら効果的なプログラムの作成に当たった。また、6学年を2年毎3ステージに分けて行う「学習プログラム」の進捗状況を確認し、次のステージへの展望を持つためにステージ会議を2ヶ月に1回実施した。
  - (d) 補習講習の充実  
学習の遅れた生徒には補習を制度化しており、難度の高い学習を希望する生徒向けには講習を設定、実施し、生徒のニーズに応じている。早朝及び放課後に、年間で約140講座、約1,200時間の補習講習が実施され多くの生徒が参加し、学習に励むことが出来た。
- ④ 中高大の連携強化
- (a) 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果  
2013年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により89名、高校3年全在籍者の35.3%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2010年43.5%、2011年46.4%、2012年39.4%、2013年35.3%となっている。
  - (b) 明治学院大学からの教育実習の受け入れ  
経済1名、法2名、心理1名、計4名。2013年度は、臨床心理士資格取得のための心理学研究科大学院生の実習受け入れはなかった。
  - (c) 継続教育の充実
    - 1) 明治学院大学経済学部の入学前教育が始められて6年目となった。生徒たちの参加、取り組みから入学前教育が成果をあげていることが分かる。また、法学部、社会学部の入学前教育も行なわれ、明治学院大学入学までの4カ月間を高等教育を受ける準備の時とすることができている。
    - 2) 5月に国際学部のCampus Visit、2月には教養教育センター主導のJ.C.バラ・プログラムに参加して大学生活の一端を知ることができた。後者は大学のアカデミズムに触れると共に、入学前に大学生活に慣れておく貴重な機会となっている。引率の教職員にも高大接続、一貫教育の意味で有意義な機会であった。
    - 3) 中高スピーチコンテストでは明治学院大学の教員を審査員に招いて講評をしていただくと共に、英語科教員と情報交換、交流を行った。
    - 4) 「明治学院一貫教育宣言」により、一貫教育の中身を充実していくことを確認している。その為に中高6年間の学習プログラムの整理検討を行なっている。
- ⑤ 地域との交流
- (a) 通学路に当たる商店街と地域住民の代表者、近隣中高と懇談会を持った。生徒の登下校の様子や、地域の防災・防犯対策及び情報の交換を行った。通学路は近隣3校が共通に利用する道で朝の混雑がひどいため、登下校の在り方について協議した他、今後の指導の協力について確認した。
  - (b) 2007年度から3月最終日曜日に地域住民参加の観桜会を開き、地域との交流を深めている。2010年度は震災、2011年度は開花遅れのために中止したが、2012年度・2013年度と開催した。今後も日体桜華・明法学院との近隣3校で協力して地域住民との交流を一層深める機会としたい。
  - (c) 高校運動部の生徒を中心に、通学路のゴミ拾いや、大雪後の商店街雪かきを行って感謝されると共に、地元住民との交流が図れた。
- ⑥ 学生・生徒の募集計画
- (a) 学校説明会  
4月29日の立川パレスホテルを皮切りに、38会場で行われた合同学校説明会や中学が6回（内、平日開催1回）、高校が4回行った学校での受験生対象学校説明会及び3回の塾対象説明会、また公立中学や塾へ出向く説明会、7月のオープンキャンパスなど、外部だけでも延べ123名の教職員を動員して募集活動を行った。中学の学校説明会への来校者は、年度の前半は前年に比べて

減少し、後半は持ち直したが、合計が前年を14%下回った。高校は併願優遇の変更で、来校者は前年比約8%増であった。説明会へのリピーターの増加、出願率の向上等、本校に相応しい生徒獲得のために、活発な募集入試活動を展開して行く必要があることを確認した。

(b) 入試の状況分析

中学は、2月2日と4日の4科入試に加えて、2月1日午後に2科入試を行う3回入試の3年目となった。経済不況等により私立受験者数全体が伸び悩む中、受験者数は、前年度比約4%の減少であった。高校は、埼玉県からの志願者が同県の受験指導により減少しているが、合計の志願者数では前年度比で推薦入試は4割以上、一般入試は約1割上回った。応募者および合格者全体の学力水準は前年と同レベルであった。男女別には、中高ともに男子の応募者の増加対策が課題である。

(c) 入試結果

中学

| 年 度 | 2012年度 |     |     |      | 2013年度 |     |     |     | 2014年度 |     |     |     |
|-----|--------|-----|-----|------|--------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| 日 程 | 2/1    | 2/2 | 2/4 | 計    | 2/1    | 2/2 | 2/4 | 計   | 2/1    | 2/2 | 2/4 | 計   |
| 定 員 | 20     | 100 | 20  | 140  | 40     | 80  | 20  | 140 | 50     | 70  | 20  | 140 |
| 応募者 | 368    | 447 | 374 | 1189 | 343    | 341 | 256 | 940 | 306    | 305 | 291 | 902 |
| 受験者 | 345    | 297 | 140 | 782  | 328    | 209 | 116 | 653 | 294    | 183 | 94  | 571 |
| 合格者 | 135    | 133 | 15  | 283  | 120    | 92  | 49  | 261 | 136    | 101 | 31  | 268 |
| 入学者 | 49     | 83  | 12  | 144  | 48     | 53  | 43  | 144 | 47     | 62  | 37  | 146 |

東村山高校

| 年 度   | 2012年度 |     | 2013年度 |     | 2014年度 |     |
|-------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 入 試   | 推薦     | 一般  | 推薦     | 一般  | 推薦     | 一般  |
| 定 員   | 40     | 80  | 40     | 80  | 50     | 70  |
| 応 募 者 | 63     | 263 | 48     | 193 | 69     | 214 |
| 受 験 者 | 46     | 231 | 43     | 178 | 51     | 197 |
| 合 格 者 | 46     | 179 | 43     | 131 | 51     | 130 |
| 新入学者  | 46     | 75  | 43     | 69  | 51     | 75  |
| 移 行 生 | 134    |     | 133    |     | 139    |     |
| 2 次   |        |     |        |     |        |     |
| 総入学者  | 255    |     | 245    |     | 265    |     |

⑦ 財政の安定化を目指した収入増加と支出の厳正管理

(株)明治学院サービスの有効活用による経費削減と、教室貸し出しによる収入増を図った。また、入試広報の効果を兼ねて、高校受験模擬試験の会場提供を2011年度から継続実施している。

事務室は、副校長が事務長を兼務し、職員が一体となって財政管理運用、業者との契約内容の見直し等による経常支出の削減、効率のよい予算執行、150周年記念事業の計画検討、中長期資金計画・施設管理計画作成等、将来を見据えた校務運営に努めた。特に照明施設改善と節電の為、管理棟と高校棟の照明を一齐にLED化した。

⑧ 学習プログラム

現行の学習プログラムは、2008年9月に以下1)～5)の「将来構想骨子」を、また2009年7月に「コース分け細則」を教職員会議で採択し、2009年10月9日には理事懇談会にて「新学習プログラムの現状と課題」としてプレゼンテーションを行って開始した。2013年度高3生は適用の2期生である。

- 1) キリスト教教育に根差した道徳人・実力人・世界人の育成。
- 2) 明治学院大学系列校としてのメリットを活かした教育。アカデミックリテラシーの構築。
- 3) 生徒の多方面への進学要求に応える教育。
- 4) 与えられた使命を見据え、自らの進路を切り開くことの出来るキャリア・デザイン教育。
- 5) 国際的な視野を持って日本ばかりでなく世界でも活躍できる人材育成の為の国際理解教育。

学習プログラムに基づいた高3・高2生徒のコース分けは、高3・高2共に、系列校推薦コースが2クラス、理系受験コースが1クラス、文系受験コースが3クラスとなった。高3生の進路状況は、推薦進学コースではアカデミックリテラシーの授業による小論文・面接指導、大学教員の特別講義（年間10回）等による学習指導が成果を挙げた。受験進学コースでは、主要大学の合格実績数がプログラム実施前の2011年度よりも大きく向上し、理系の伸びが著しかった。

⑨ 卒業生（同窓会員）とのつながり、働きかけの強化

毎年11月3日（ヘボン祭）に東村山同窓会の主催による、同窓生講演会が開かれている。当日は、学校企画のBack to the campusも行なわれ、24・25期生が集まり旧交を温めた。同窓会からは例年、高校卒業生に記念万年筆、クラブ活動に対する援助金、及び卒業生成人式祝い金が贈られている。

2013年3月には、明治学院創立150周年・東村山高校開校50周年行事「同窓生の集い」を学校と同窓会との協働で開催した。また、開校年に発足した6つの高校運動部の卒業生による「創部50周年記念式」が開かれ、学校として開催に協力した。これらの機会に、記念事業の募金協力への支援を強く働きかけた。

⑩ 明治学院創立150周年記念事業として校地整備事業を推進

明治学院創立150周年記念事業として、グラウンドの人工芝化、ビオトープ設置、正門改修等の校地整備事業の検討委員会を設置して準備を開始した。

⑪ 危機管理体制

(a) 火事・地震などを想定した防災訓練を実施した（9月）。東京都私立中高協会第11支部と連携し、災害時の伝達訓練を実施した（9月）。

(b) AED（自動体外式除細動器）を3箇所を設置、熱中症対策として警報器を体育館に設置している。

(c) 災害対策用の備品（食料、水、簡易トイレ、保温シート、工具など）を点検・増備し、1,300名が3日間、学校で避難生活を送ることの出来る態勢である。学院との非常連絡用に衛星電話を設置した。

(d) 新型インフルエンザ発生に備えて対応の要項を整備し、サージカルマスク(生徒・教職員分1,500枚)、消毒薬（ウェルパス）の備蓄をした。また発生時の連絡用に一斉メールを導入した。

⑫ 明治学院創立150周年・東村山高等学校開校50周年記念行事の実施

本校では学院創立150周年と東村山高等学校開校50周年の記念行事を併せて実施することとし、2012年4月に「150周年記念行事等実施委員会」を組織して毎月開催した。同委員会にはPTA、東村山同窓会代表も出席して、両者の協力を得て記念行事を実施した。

記念行事：3月20日同窓生の集い（東村山高校旧校歌碑建立）

4月8日在校生記念礼拝（大西晴樹学院長）

10月28日記念講演会（中学は蔡玉柱同窓会台湾支部長、高校は中島耕二客員教授）

11月9日学生生徒による演奏会（東京オペラシティ）

生徒交流会（8月）：関西学院高校・東北学院高校

記念試合：サッカー部 明治学院東村山高校 対 明治学院高校（2013年3月、横浜ヘボンフィールド）

卒業生による礼拝奨励（5月～3月）に7名

創部50周年クラブ同窓会（6～3月）：ラグビー部・柔道部・野球部・テニス部・バスケット部・サッカー部

広報：正門両側に記念横断幕、運動部の大会で150周年バナー掲示

配布記念グッズ：東村山50周年年表、フォトカード、フォトフレーム、クリアファイル、記念シール、キャッチフレーズマグネット、記念手提げバッグ

## ⑬ 大学合格者数の実績(2010～2013年度大学合格者数)

主な私立大学合格校

|         | 2010年度     | 2011年度     | 2012年度    | 2013年度    |
|---------|------------|------------|-----------|-----------|
| 明治学院大学  | 108 (+2) * | 122 (+2) * | 98 (+5) * | 89 (+1) * |
| 日本大学    | 10 (3)     | 11 (4)     | 14 (7)    | 21 (15)   |
| 法政大学    | 16         | 11 (4)     | 14        | 20 (7)    |
| 東洋大学    | 13         | 6 (2)      | 7 (2)     | 18 (9)    |
| 立教大学    | 13 (2)     | 4          | 13        | 15 (2)    |
| 中央大学    | 7          | 13 (3)     | 14 (3)    | 13 (1)    |
| 明治大学    | 11 (2)     | 17 (7)     | 7 (1)     | 13 (3)    |
| 東京理科大学  | 5 (5)      | 4 (4)      | 4 (4)     | 11 (10)   |
| 成蹊大学    | 8          | 11 (2)     | 17 (4)    | 10 (4)    |
| 青山学院大学  | 7          | 17 (5)     | 13        | 10 (3)    |
| 武蔵野美術大学 | 6          | 5          | 6         | 10        |
| 学習院大学   | 8 (2)      | 6 (3)      | 9 (1)     | 9 (3)     |
| 東京女子大学  | 4          | 3          | 1         | 6         |
| 早稲田大学   | 12 (1)     | 6 (1)      | 9         | 5         |
| 東京電機大学  | 6 (6)      | 7 (7)      | 4 (4)     | 4 (4)     |
| 日本女子大学  | 2          | 1          | 2         | 4         |
| 国際基督教大学 | 2          | 2          | 2         | 2         |
| 上智大学    | 10 (2)     | 7 (2)      | 12 (1)    | 2         |
| 成城大学    | 5          | 9          | 7         | 2         |
| 慶應義塾大学  | 4          | 1          | 4         | 1         |
| 東京農業大学  | 5 (5)      | 4 (4)      | 3 (3)     | 1 (1)     |
| その他     | 152 (54)   | 104 (38)   | 135 (33)  | 167 (63)  |
| 合計      | 408 (82)   | 367 (86)   | 392 (63)  | 400 (123) |

国公立大学合格校

|          | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 埼玉大学     |        |        |        | 2      |
| 首都大学東京   | 1      |        | 3 (2)  | 1      |
| 東京藝術大学   | 1      |        |        | 1      |
| 東京海洋大学   |        |        |        | 1 (1)  |
| 千葉大学     |        |        |        | 1 (1)  |
| 金沢大学     |        |        |        | 1      |
| 新潟県立大学   |        |        |        | 1      |
| 東京学芸大学   | 1      | 1 (1)  | 1      |        |
| 筑波技術大学   |        |        | 1 (1)  |        |
| 信州大学     |        |        | 1 (1)  |        |
| 埼玉県立大学   |        |        | 1      |        |
| 東京外国語大学  |        | 2      |        |        |
| 東京医科歯科大学 | 1 (1)  | 1 (1)  |        |        |
| 東北大学     |        | 1      |        |        |
| 公立国際教養大学 |        | 1      |        |        |
| 合計       | 4 (1)  | 6 (2)  | 7 (4)  | 8 (2)  |

現役浪人合計数。( ) 内は理系学部合格者。短大・専門学校合格者は除く。

\* : + は受験して明治学院大学に合格した数。

(2014年4月9日現在)

### 第3章 2013年度財務の概要と経年比較(2009年度～2013年度)

#### 1 財産目録

|        |         |     |
|--------|---------|-----|
| 資産総額   | 100,005 | 百万円 |
| 1 基本財産 | 48,488  | 百万円 |
| 2 運用財産 | 51,516  | 百万円 |
| 負債総額   | 10,276  | 百万円 |
| 正味財産   | 89,729  | 百万円 |

| 区 分             | 2013年度末               |        |
|-----------------|-----------------------|--------|
| 資 産 額           |                       |        |
| 1 基 本 財 産       |                       |        |
| 土 地             | 344,603m <sup>2</sup> | 16,814 |
| 建 物             | 148,056m <sup>2</sup> | 20,757 |
| 建物付属設備          | 546件                  | 2,778  |
| 構 築 物           | 318件                  | 1,446  |
| 図 書             | 1,194,032冊            | 5,264  |
| 教具・校具・備品        | 42,945点               | 1,091  |
| そ の 他           |                       | 335    |
| 2 運 用 財 産       |                       |        |
| 現 金 預 金         |                       | 4,488  |
| そ の 他           |                       | 47,028 |
| 資 産 総 額         | 100,005               |        |
| 負 債 額           |                       |        |
| 1 固 定 負 債       | 6,049                 |        |
| 長期借入金           | 916                   |        |
| 退職給与引当金         | 5,128                 |        |
| 長期未払金           | 3                     |        |
| 2 流 動 負 債       | 4,227                 |        |
| 短期借入金           | 258                   |        |
| そ の 他           | 3,968                 |        |
| 負 債 総 額         | 10,276                |        |
| 正味財産（資産総額－負債総額） | 89,729                |        |

※ 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 2 貸借対照表

(単位：百万円)

|                   | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度  |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 資産の部              |        |        |        |        |         |
| 固定資産              | 79,091 | 81,237 | 86,920 | 90,114 | 92,563  |
| 有形固定資産            | 49,821 | 49,564 | 48,862 | 48,329 | 48,184  |
| 土地                | 16,498 | 16,841 | 16,854 | 16,814 | 16,814  |
| 建物（含付属設備）         | 25,264 | 24,513 | 23,960 | 23,533 | 23,535  |
| 構築物               | 1,977  | 1,821  | 1,750  | 1,609  | 1,446   |
| 教育研究機器備品          | 920    | 1,009  | 987    | 1,008  | 938     |
| その他機器備品           | 276    | 245    | 204    | 164    | 152     |
| 図書                | 4,879  | 4,983  | 5,090  | 5,197  | 5,264   |
| その他               | 3      | 150    | 14     | 0      | 30      |
| その他の固定資産          | 29,270 | 31,672 | 38,057 | 41,785 | 44,379  |
| 退職給与引当特定資産        | 3,162  | 3,072  | 5,205  | 5,167  | 5,128   |
| 教育施設拡充引当特定資産      | 7,496  | 8,223  | 9,995  | 11,291 | 12,322  |
| 国際交流引当特定資産        | 6      | 6      | 5      | 5      | 4       |
| チャペル・オルガン引当特定資産   | 89     | 86     | 79     | 47     | 38      |
| 減価償却引当特定資産        | 10,718 | 12,304 | 13,790 | 15,220 | 16,832  |
| 山岳事故緊急対策特定資産      | 11     | 11     | 11     | 11     | 11      |
| 法人基金引当特定資産        | 3,112  | 3,112  | 3,112  | 3,105  | 3,088   |
| 創立150周年記念寄付引当特定資産 | -      | 90     | 265    | 353    | 451     |
| 日本近代音楽館引当特定資産     | -      | 153    | 261    | 261    | 193     |
| 年金引当特定資産          | -      | -      | 733    | 1,466  | 1,466   |
| その他の引当特定資産        | 41     | 41     | 41     | 93     | 101     |
| 第3号基本基金引当資産       | 4,221  | 4,221  | 4,221  | 4,221  | 4,263   |
| 長期貸付金             | 262    | 219    | 197    | 178    | 147     |
| その他               | 146    | 128    | 137    | 360    | 328     |
| 流動資産              | 12,801 | 12,758 | 9,303  | 8,089  | 7,442   |
| 現金預金              | 7,890  | 7,545  | 6,762  | 5,656  | 4,488   |
| 有価証券              | 4,108  | 4,495  | 1,988  | 1,900  | 2,105   |
| その他               | 802    | 718    | 552    | 532    | 847     |
| 資産の部合計            | 91,892 | 93,996 | 96,223 | 98,204 | 100,005 |

|                        |         |         |         |         |         |
|------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債の部                   |         |         |         |         |         |
| 固定負債                   | 5,484   | 4,909   | 6,646   | 6,345   | 6,049   |
| 長期借入金                  | 2,316   | 1,823   | 1,432   | 1,173   | 916     |
| 退職給与引当金                | 3,162   | 3,072   | 5,205   | 5,167   | 5,128   |
| 長期未払金                  | 4       | 13      | 8       | 4       | 3       |
| 流動負債                   | 4,751   | 4,579   | 4,341   | 4,165   | 4,227   |
| 短期借入金                  | 829     | 495     | 258     | 260     | 258     |
| 前受金                    | 2,806   | 2,799   | 2,875   | 2,521   | 2,658   |
| その他                    | 1,115   | 1,284   | 1,208   | 1,383   | 1,310   |
| 負債の部合計                 | 10,235  | 9,489   | 10,988  | 10,511  | 10,276  |
| 基本金の部                  |         |         |         |         |         |
| 第1号基本基金                | 74,978  | 76,867  | 77,545  | 78,443  | 79,204  |
| 第2号基本基金                | 7,496   | 8,223   | 9,995   | 11,291  | 12,322  |
| 第3号基本基金                | 4,221   | 4,221   | 4,221   | 4,221   | 4,263   |
| 第4号基本基金                | 1,163   | 1,163   | 1,181   | 1,181   | 1,188   |
| 基本金の部合計                | 87,859  | 90,475  | 92,944  | 95,138  | 96,980  |
| 消費収支差額の部               |         |         |         |         |         |
| 翌年度繰越消費支出超過額           | 6,202   | 5,968   | 7,709   | 7,445   | 7,251   |
| 消費収支差額の部合計             | △ 6,202 | △ 5,968 | △ 7,709 | △ 7,445 | △ 7,251 |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 91,892  | 93,996  | 96,223  | 98,204  | 100,005 |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ◆貸借対照表についての説明

- 貸借対照表：学校法人明治学院の財政状況が健全であるかどうか、また教育・研究のために必要な資産を保有しているかを表しています。
- 資産：2013年度末の資産合計は、100,005百万円となり、前年度比1,801百万円（1.8%）増加しました。
- 資産の内訳：固定資産は92,563百万円となり、前年度比2,449百万円（2.7%）増加しました。その中で、将来の特定の支出に備えるために資金を留保している、「その他の固定資産」が前年比2,594百万円（6.2%）増加しました。流動資産は、7,442百万円となり、前年度比647百万円減少しました。
- 負債：2013年度末の負債合計は、10,276百万円となり、前年度比235百万円減少しました。
- 借入金：2013年度に260百万円の借入金を返済し、年度末における長期と短期を合わせた借入金残高は1,174百万円となりました。また借入金利息として29百万円（前年度比7百万円減）を支払いました。
- 基本基金：2013年度末合計は96,980百万円となり、前年度比1,842百万円（1.9%）増加しました。
- 正味財産（自己資本）：学校法人を永続的に維持するために保持しなければならない「基本金の部合計」と、「翌年度繰越消費収支超過額」との差額が89,729百万円となり、前年度比2,035百万円（2.3%）増加しました。この差額が、正味財産あるいは自己資本といわれ、学院の財産状況を表しています。

## 3 資金収支計算書

(単位：百万円)

|            | 2009年度  | 2010年度  | 2011年度  | 2012年度  | 2013年度  |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 資金収入の部     |         |         |         |         |         |
| 学生生徒等納付金収入 | 14,844  | 14,752  | 14,579  | 14,409  | 14,130  |
| 手数料収入      | 883     | 789     | 797     | 756     | 800     |
| 寄付金収入      | 115     | 177     | 235     | 165     | 171     |
| 補助金収入      | 1,746   | 1,848   | 1,711   | 1,695   | 1,925   |
| 国庫補助金      | 1,037   | 1,117   | 998     | 984     | 1,207   |
| 地方公共団体補助金  | 709     | 731     | 713     | 710     | 716     |
| その他補助金     | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 資産運用収入     | 672     | 733     | 838     | 985     | 900     |
| 資産売却収入     | 11,991  | 11,780  | 13,927  | 15,194  | 14,102  |
| 事業収入       | 194     | 189     | 180     | 181     | 181     |
| 雑収入        | 535     | 461     | 348     | 349     | 471     |
| 借入金等収入     | 0       | 2       | 0       | 1       | 1       |
| 前受金収入      | 2,806   | 2,799   | 2,875   | 2,521   | 2,658   |
| その他の収入     | 9,398   | 910     | 649     | 650     | 4,383   |
| 資金収入調整勘定   | △ 3,472 | △ 3,335 | △ 3,175 | △ 3,273 | △ 3,246 |
| 当年度資金収入合計  | 39,716  | 31,108  | 32,969  | 33,639  | 36,479  |
| 前年度繰越支払資金  | 7,891   | 7,890   | 7,545   | 6,762   | 5,656   |
| 資金収入の部合計   | 47,608  | 38,998  | 40,514  | 40,402  | 42,136  |
| 資金支出の部     |         |         |         |         |         |
| 人件費支出      | 9,675   | 9,786   | 9,612   | 9,663   | 9,886   |
| (内、退職金支出)  | (580)   | (486)   | (384)   | (403)   | (538)   |
| 教育研究経費支出   | 3,671   | 3,722   | 3,853   | 3,924   | 3,959   |
| 管理経費支出     | 1,028   | 1,068   | 901     | 1,045   | 1,054   |
| 借入金等利息支出   | 112     | 88      | 60      | 36      | 29      |
| 借入金等返済支出   | 430     | 829     | 628     | 258     | 260     |
| 施設関係支出     | 813     | 969     | 484     | 606     | 1,189   |
| 設備関係支出     | 585     | 453     | 330     | 565     | 316     |
| 資産運用支出     | 23,295  | 14,611  | 17,723  | 18,743  | 20,788  |
| その他の支出     | 828     | 773     | 888     | 735     | 882     |
| 資金支出調整勘定   | △ 722   | △ 850   | △ 731   | △ 835   | △ 719   |
| 当年度資金支出合計  | 39,718  | 31,453  | 33,752  | 34,745  | 37,647  |
| 次年度繰越支払資金  | 7,890   | 7,545   | 6,762   | 5,656   | 4,488   |
| 資金支出の部合計   | 47,608  | 38,998  | 40,514  | 40,402  | 42,136  |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ◆資金収支計算書についての説明

●資金収支計算書：2013年度中の諸活動に対応するすべての資金の収入と支出の内容を明らかにする計算書です。

●当年度資金収入合計：2013年度は、36,479百万円となり、前年度比2,840百万円（8.4％）増加しました。

●資金収入の部合計：前年度繰越支払資金5,656百万円を加えた資金収入の部合計は42,136百万円となりました。

●当年度資金支出合計：2013年度の資金支出の合計額は37,647百万円となり、前年度比2,902百万円（8.4％）増加しました。

●次年度繰越支払資金：資金収入合計と当年度資金支出合計の差額が次年度繰越支払資金となります。2013年度は4,488百万円の繰越をすることになり、前年度より1,168百万円少なくなりました。これは流動資産を固定資産に置換えた額が多かったことによるものです。



## 4 消費収支計算書

(単位：百万円)

|                | 2009年度  | 2010年度  | 2011年度  | 2012年度  | 2013年度  |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 消費収入の部         |         |         |         |         |         |
| 学生生徒等納付金       | 14,844  | 14,752  | 14,579  | 14,409  | 14,130  |
| 手数料            | 883     | 789     | 797     | 756     | 800     |
| 寄付金            | 122     | 336     | 344     | 168     | 174     |
| 補助金            | 1,746   | 1,848   | 1,711   | 1,695   | 1,925   |
| 国庫補助金          | 1,037   | 1,117   | 998     | 984     | 1,207   |
| 地方公共団体補助金      | 709     | 731     | 713     | 710     | 716     |
| その他補助金         | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 資産運用収入         | 672     | 733     | 838     | 985     | 900     |
| 資産売却差額         | 0       | 0       | 0       | 0       | 18      |
| 事業収入           | 194     | 189     | 180     | 181     | 181     |
| 雑収入            | 536     | 489     | 348     | 433     | 471     |
| 帰属収入合計         | 19,000  | 19,138  | 18,800  | 18,631  | 18,601  |
| 基本金組入額         | △ 2,412 | △ 2,615 | △ 2,469 | △ 2,194 | △ 1,841 |
| 消費収入の部合計       | 16,588  | 16,522  | 16,331  | 16,437  | 16,759  |
| 消費支出の部         |         |         |         |         |         |
| 人件費            | 9,651   | 9,724   | 11,744  | 9,709   | 9,847   |
| (内、退職給与引当金繰入額) | (555)   | (424)   | (2,516) | (449)   | (499)   |
| 教育研究経費         | 4,899   | 5,160   | 5,194   | 5,214   | 5,421   |
| (内、減価償却費)      | (1,228) | (1,438) | (1,341) | (1,289) | (1,462) |
| 管理経費           | 1,145   | 1,215   | 1,048   | 1,186   | 1,204   |
| (内、減価償却費)      | (116)   | (147)   | (145)   | (140)   | (150)   |
| 借入金等利息         | 112     | 88      | 60      | 36      | 29      |
| 資産処分差額         | 1       | 99      | 23      | 26      | 62      |
| 徴収不能引当金繰入額     | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 徴収不能額          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 消費支出の部合計       | 15,810  | 16,288  | 18,071  | 16,173  | 16,566  |
| 当年度消費収支差額      | 777     | 234     | △ 1,740 | 264     | 193     |
| 前年度繰越消費支出超過額   | 10,110  | 6,202   | 5,968   | 7,709   | 7,445   |
| 基本金取崩額         | 3,130   | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 翌年度繰越消費支出超過額   | 6,202   | 5,968   | 7,709   | 7,445   | 7,251   |
| 帰属収入消費支出差額     | 3,189   | 2,849   | 728     | 2,458   | 2,035   |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

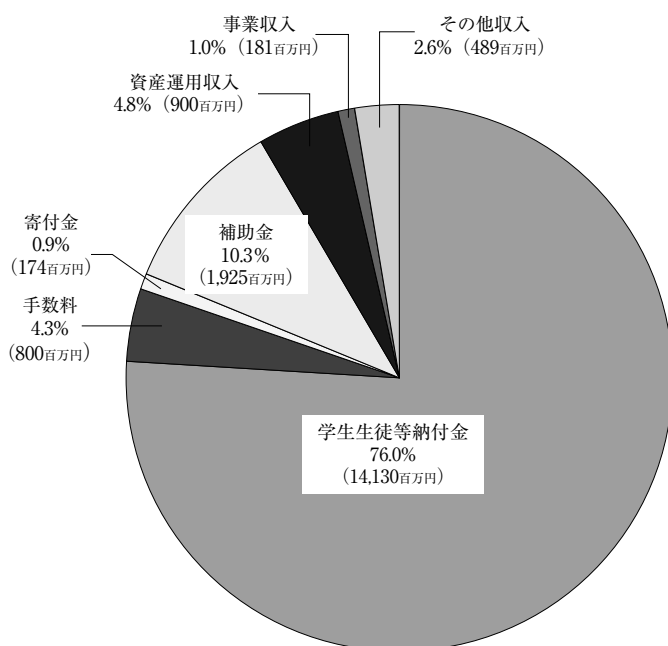
## ◆消費収支計算書および基本金についての説明

- 学生生徒等納付金収入**：学則や募集要項で所定の額を納入すべき旨が記載されているもので、授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等があります。2013年度は学院全体で14,130百万円となり、前年度より279百万円（1.9%）減少しました。
- 手数料**：入学検定料が主な収入となっています。2013年度は800百万円となり、前年度より44百万円（5.8%）増加しました。
- 補助金**：国庫補助金と地方公共団体補助金が主な収入です。2013年度は学院全体で1,925百万円となり、前年度より230百万円（13.6%）増加しました。
- 帰属収入**：学校法人の収入のうちで、負債とならない収入の総額である帰属収入は、18,601百万円となり、前年度より30百万円減少しました。また基本金組入れ後の消費収入は16,759百万円となり、前年度より322百万円（2.0%）増加しました。
- 人件費**：2013年度は退職者が前年度より多かったため、退職給与引当金繰入額が増加しました。また人件費自体も増加したことによって2013年度は9,847百万円となり、前年度比138百万円（1.4%）増加しました。
- 消費支出**：管理経費はほぼ昨年度並みでしたが、教育研究経費は207百万円増加しました。消費支出の合計は16,566百万円となり前年度より393百万円（2.4%）増加しました。
- 当年度消費収支差額**：消費収入と消費支出との差額は193百万円の収入超過となりましたが、前年度比71百万円（26.9%）の減少となりました。
- 基本金の種類と目的**：第1号基本金は、学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために取得した固定資産の価額で、2013年度末で79,204百万円（前年度比761百万円増）となります。  
第2号基本金は学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために将来取得する固定資産の取得に充てる資産額で、2013年度末で、12,322百万円（前年度比1,031百万円増）を保有しています。  
第3号基本金は、基金の運用から得られる果実を奨学金等の特定の目的に充てるために、基金として継続的に保持する資産額で、2013年度末には4,263百万円（前年度比42百万円増）を保有しています。  
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金額で「人件費＋教育研究経費＋管理経費＋借入金利息」の合計の1/12（1カ月分）となっています。2013年度末には1,188百万円（前年度比7百万円増）を保有しています。

## 5 収支・借入金等図表

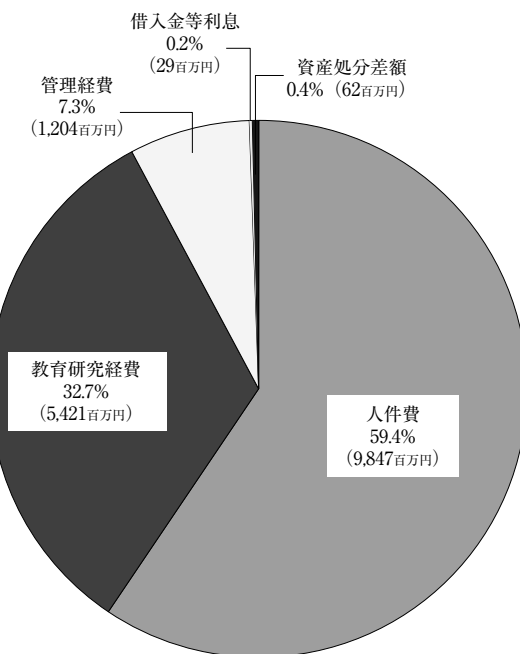
(図1)

帰属収入 18,601百万円



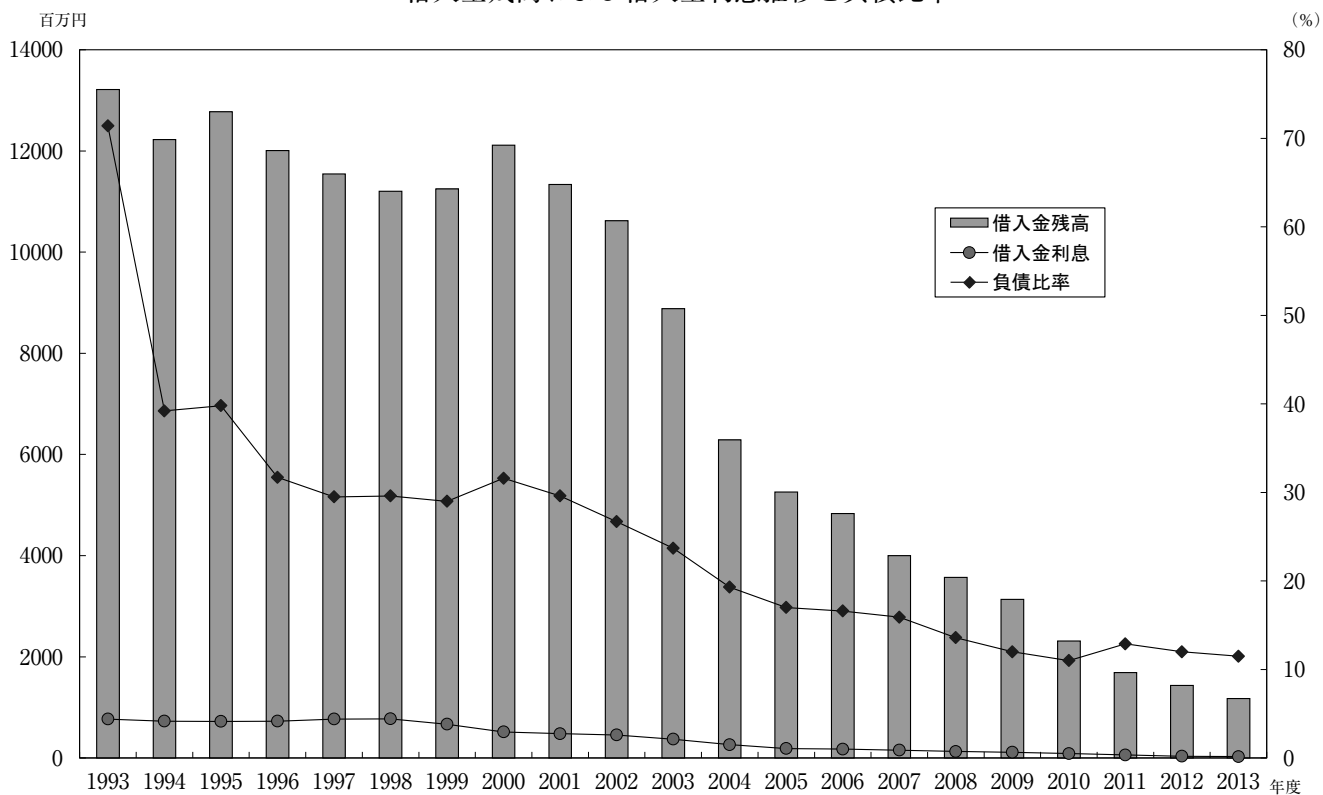
(図2)

消費支出 16,566百万円



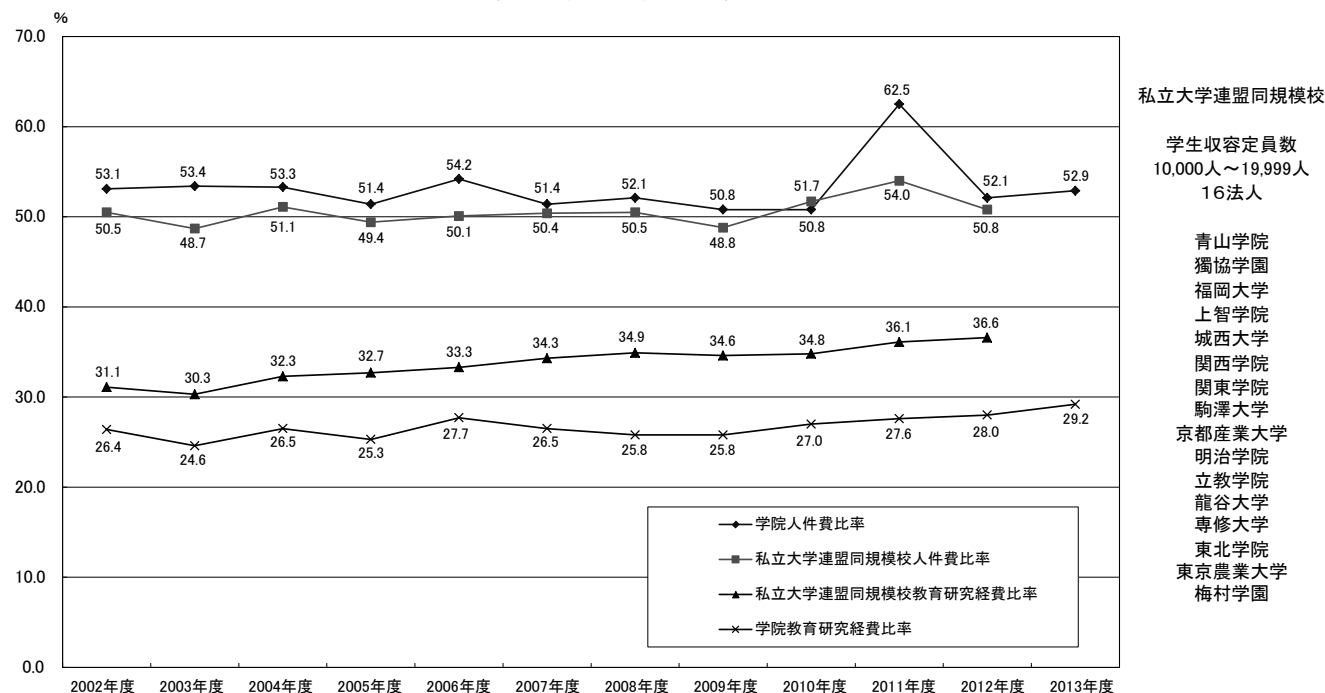
(図3)

借入金残高および借入金利息推移と負債比率



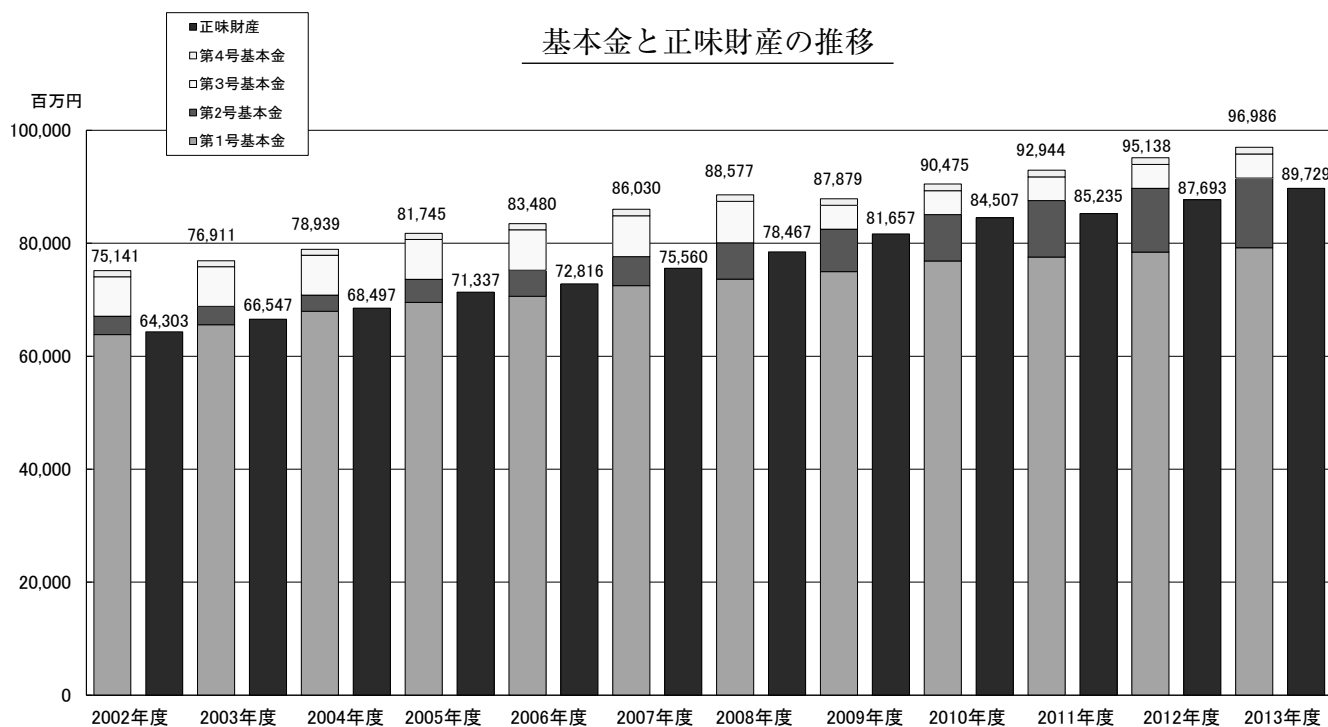
(図4)

人件費比率と教育研究経費比率の推移



(図5)

基本金と正味財産の推移



## 6 財務比率検証

### 1. 財務比率について

2013年度決算数値による財務比率は下記のとおりです。

#### 《2013年度消費収支計算書関係比率》

| 比 率 名 称                      | 指標 | 2013年度<br>本学決算 | 2012年度<br>私大連平均 |
|------------------------------|----|----------------|-----------------|
| ① 人件費比率 (人件費／帰属収入)           | ▼  | 52.9%          | 【50.8%】         |
| ② 人件費依存率 (人件費／学生生徒等納付金)      | ▼  | 69.7%          | 【83.2%】         |
| ③ 教育研究経費比率 (教育研究経費／帰属収入)     | △  | 29.2%          | 【36.6%】         |
| ④ 管理経費比率 (管理経費／帰属収入)         | ▼  | 6.5%           | 【6%】            |
| ⑤ 消費収支比率 (消費支出／消費収入)         | ▼  | 98.8%          | 【108.2%】        |
| ⑥ 学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金／帰属収入) | △  | 76.0%          | 【61%】           |

#### 《2013年度貸借対照表関係比率》

| 比率名称                          | 指標 | 2013年度<br>本学決算 | 2012年度<br>私大連平均 |
|-------------------------------|----|----------------|-----------------|
| ①自己資金構成比率 (自己資金／総資金)          | △  | 89.7%          | 【83.7%】         |
| ②固定比率 (固定資産／自己資金)             | ▼  | 103.2%         | 【105%】          |
| ③流動比率 (流動資産／流動負債)             | △  | 176.0%         | 【194.9%】        |
| ④負債比率 (総負債／自己資金)              | ▼  | 11.5%          | 【19.5%】         |
| ⑤退職給与引当預金率 (退職引当特定資産／退職給与引当金) | △  | 100.0%         | 【64.3%】         |
| ⑥基本金比率 (基本金／基本金要組入額)          | △  | 99.0%          | 【95.7%】         |

※【 】内は学生数10,000人以上20,000人未満の私立大学法人平均  
 (「私大連 財務状況調査結果のまとめ」による)

※指標：一般的な評価「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」

※人件費関連比率は退職給与引当特別繰入額を除いて算出

### 2. 点検・評価および改善目標について

(特長)

- ・消費収支計算書関係比率の中で特に、学生生徒等納付金比率が私大連平均を大きく上回っています。このことは私立学校としての本分である授業料等の収入が主体で運営されている、いわば財政的に健全体質である証ともいえます。
- ・借入金を計画的に返済してきた結果、順調に負債比率を改善することができ、私大連平均値を下回っています。
- ・12種類の財務比率の中で、9つの比率で私大連平均より優位な数値となっています。
- ・教育研究経費比率が昨年度より1.2ポイントの上昇を記録し、29.2%に到達しています。

(課題)

- ・教育研究経費比率が上昇したとはいえ、私大連平均よりもまだ低い数値となっています。
- ・学生生徒等納付金比率が高いことの裏返しで、それ以外の収入の比率が低いといえます。学生生徒等納付金以外の帰属収入項目を模索する必要があります。

(改善目標)

- ・人件費比率は52.9%となりました。人件費構造の見直しについては今後も検討課題であるため、引き続き抜本的改革の実施を検討いたします。
- ・教育研究経費比率をさらに向上させ、教育研究に寄与する財政構造となることを目指します。
- ・学生生徒等納付金以外の収入を増やし、より充実した財政基盤の確立を図っていきます。

## 7 監事による監査報告書

### 「監事監査報告書」

2014年5月23日

学校法人 明治学院

理 事 会 御 中

私たち学校法人明治学院監事 長津 榮、丸山 輝雄は、私立学校法第37条第3項および寄附行為第23条の定めに従い、2013年4月1日から2014年3月31日までの本法人の業務及び財産の状況を監査しました。その結果について下記のとおり監査報告書を提出いたします。

#### 1. 監査方法の概要

監事は、毎理事会、毎評議員会に陪席し、それぞれの議事録に加えて常務理事会議事録の送付を受けたほか、理事・評議員懇談会に出席し、また理事長、学院長、学長、高校長、中学・東村山高校長、常務（財務）理事、学院牧師、キリスト教教育担当教員、大学入試担当をしている副学長、公的研究費の統括管理責任者及び公正研究責任者である副学長、戸塚キャンパス近隣自治会役員等、と懇談、協議し意見を述べるなど、学院の現況ならびに将来の展望（事業計画）について把握するよう努めました。監査の実施にあたっては、会計監査人・新日本有限責任監査法人から、期中、期末に報告及び重要事項についての説明を受けて意見の交換をし、またその実査に立ち会いました。さらに、業務監査を実施し、重要な決裁書類の提出を受けてこれを閲覧し、監査しました。

#### 2. 監査の結果

- (1) 法人の業務に関しては、不正の行為がなく、かつ、法令及び寄附行為に違反する重大な事柄はなく、建学の精神に立ってすぐれた教育を実践するために、妥当で有効な運営が行われていると認めました。
- (2) 法人の財産の状況に関しては、報告されている資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表は適正であり、法令及び寄附行為に従って法人の財産及び資金・消費収支の状況を正確に示しており、財産運用の健全性と透明性を確保していると認めました。

学校法人明治学院

監 事 長 津 榮 ⑩

監 事 丸 山 輝 雄 ⑩



**明 治 学 院 広 報 （ 別 冊 ）**

編集 法人事務室（内線5167）

発行責任者 理事長 青本 健作

